

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価	県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																																																							
			5	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	<p>チーム医療の推進（カンファレンスの開催） 2年度9月末時点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>院内2回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>抗がん剤副作用対策チーム</td> <td>毎日</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護・栄養</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・臨床工技師・理学療法士</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護師・薬剤師・社会福祉士・療法士</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床心理士</td> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内2回/週 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>ADT（居宅訪問看護支援）*</td> <td>随時</td> <td>医師・看護・精神保健福祉士等</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内2回/週 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床心理士・栄養</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策部会</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>リハビリテーション 専任（週1回） 兼業（週1回）</td> <td>医師・看護・理学療法等</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>各病院</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="5">チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)</th> </tr> <tr> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>22年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>1,120</td> <td>1,290</td> <td>1,345</td> <td>1,154</td> <td>904</td> <td>742</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>72,767</td> <td>74,929</td> <td>75,792</td> <td>93,168</td> <td>92,879</td> <td>46,986</td> </tr> <tr> <td>抗がん剤副作用支援チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>15,985</td> <td>19,122</td> <td>9,561</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>2,520</td> <td>6,320</td> <td>3,905</td> <td>4,815</td> <td>2,085</td> <td>370</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>-</td> <td>144</td> <td>59</td> <td>1</td> <td>92</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>-</td> <td>568</td> <td>6,248</td> <td>4,462</td> <td>4,456</td> <td>2,076</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1,743</td> <td>1,173</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3,163</td> <td>20,389</td> <td>8,888</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>76,407</td> <td>83,251</td> <td>87,349</td> <td>122,748</td> <td>141,670</td> <td>69,857</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>303</td> <td>434</td> <td>380</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>186</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>303</td> <td>434</td> <td>380</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>186</td> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">こども</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>17,484</td> <td>19,870</td> <td>18,880</td> <td>27,610</td> <td>27,460</td> <td>12,600</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2,725</td> <td>2,200</td> <td>2,535</td> <td>1,225</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>136</td> <td>380</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>55,640</td> <td>58,883</td> <td>56,527</td> <td>52,394</td> <td>58,836</td> <td>27,613</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>73,124</td> <td>78,753</td> <td>78,132</td> <td>82,206</td> <td>88,975</td> <td>41,832</td> </tr> </tbody> </table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査	感染制御チーム	院内2回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査	抗がん剤副作用対策チーム	毎日	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工技師・理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護師・薬剤師・社会福祉士・療法士	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師・看護・薬剤	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内2回/週 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	こころ	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護	ADT（居宅訪問看護支援）*	随時	医師・看護・精神保健福祉士等	こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内2回/週 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士・栄養	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護						リハビリテーション 専任（週1回） 兼業（週1回）	医師・看護・理学療法等				病院	項目	チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)					21年度	22年度	23年度	30年度	元年度	22年度9月末	総合	栄養サポートチーム	1,120	1,290	1,345	1,154	904	742	感染制御チーム	72,767	74,929	75,792	93,168	92,879	46,986	抗がん剤副作用支援チーム	-	-	-	15,985	19,122	9,561	褥瘡対策チーム	2,520	6,320	3,905	4,815	2,085	370	呼吸ケアチーム	-	144	59	1	92	61	認知症ケアチーム	-	568	6,248	4,462	4,456	2,076	精神科リエゾンチーム	-	-	-	-	1,743	1,173	緩和ケアチーム	-	-	-	3,163	20,389	8,888	計	76,407	83,251	87,349	122,748	141,670	69,857	こころ	感染防止対策チーム	303	434	380	352	368	186	計	303	434	380	352	368	186	栄養サポートチーム	-	-	-	2	8	14	こども	感染防止対策チーム	17,484	19,870	18,880	27,610	27,460	12,600	褥瘡対策チーム	-	-	2,725	2,200	2,535	1,225	緩和ケアチーム	-	-	-	-	136	380	リハビリテーション	55,640	58,883	56,527	52,394	58,836	27,613	計	73,124	78,753	78,132	82,206	88,975	41,832	<p>令和2年度は、SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを担当した。また、総合では新型コロナウイルス専門病棟の設置に伴い、各部署から医師、看護師などが派遣されるなど、多職種が対応に当たっている。</p> <p>最良の医療を提供するため、診療科の枠を越えた多職種カンファレンスを実施した。特に総合病院では、精神科医師の着任により、令和元年7月に精神科リエゾンチームの施設基準を取得した。多職種によるチーム医療を推進するとともに、診療報酬上の評価加算も高い水準で推移しており、収益面においても大きく貢献している。</p> <p>多職種による病院横断的な活動体制が上記の成果に結びついていることから、「S」評価とする。</p>	<p>・チーム医療においては、多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することにより、医療・生活の向上、医療従事者の負担軽減、医療安全の向上を目指している。</p> <p>・各病院とも多職種によるチーム医療が推進されており、患者の状況に的確に対応できる体制が確保されている。</p> <p>・令和2年度は、総合病院において、新型コロナウイルス患者受入れのため、感染症対策室を中心とした「院内感染対策チーム」を創設し、県や市保健所等との情報共有や患者受入れに関する調整、院内における患者受入体制の整備等について検討を行っている。</p> <p>・感染対策については、各病院の感染症対策室を中心に対策を講じており、必要に応じて、病院間の情報共有を行っている。</p> <p>・県立病院として、本県の新型コロナウイルス対策において重要な役割を果たし、医療提供体制の確保に貢献している。</p> <p>・診療報酬上の評価加算も堅調に増加しており、令和元年7月に施設基準を取得した総合病院の精神科リエゾンチームの算定件数は令和2年度も引き続き高い水準を維持している。</p> <p>・褥瘡対策チームは算定件数が減少傾向であるが、褥瘡ハイリスク患者に対して、手厚くケアを行う方針としたことによる。なお、算定件数は減少したが、褥瘡発生率は低い水準を維持している。</p> <p>・総合病院では、こころの医療センターの医師を含めた認知症ケアチームが院内カンファレンスを実施するなど、病院間の連携も図られており、認知症に発展する可能性のある患者も含めて早期介入することにより、認知症悪化予防とともに身体疾患の治療を円滑に受けられるよう取り組んでいる。</p> <p>・多職種によるチーム医療の推進により、質の高い医療の提供に努めている。</p>	14	☆
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																																																																														
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																																																														
	感染制御チーム	院内2回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																																																														
	抗がん剤副作用対策チーム	毎日	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																																																														
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養																																																																																																																																																																																																														
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工技師・理学療法士																																																																																																																																																																																																														
	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護師・薬剤師・社会福祉士・療法士																																																																																																																																																																																																														
	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師・看護・薬剤																																																																																																																																																																																																														
	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士																																																																																																																																																																																																														
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																																																																														
	感染防止対策チーム	院内2回/週 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																																																														
こころ	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																																																																														
	ADT（居宅訪問看護支援）*	随時	医師・看護・精神保健福祉士等																																																																																																																																																																																																														
こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																																																																														
	感染防止対策チーム	院内2回/週 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																																																														
	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士・栄養																																																																																																																																																																																																														
	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																																																																														
					リハビリテーション 専任（週1回） 兼業（週1回）	医師・看護・理学療法等																																																																																																																																																																																																											
病院	項目	チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)																																																																																																																																																																																																															
		21年度	22年度	23年度	30年度	元年度	22年度9月末																																																																																																																																																																																																										
総合	栄養サポートチーム	1,120	1,290	1,345	1,154	904	742																																																																																																																																																																																																										
	感染制御チーム	72,767	74,929	75,792	93,168	92,879	46,986																																																																																																																																																																																																										
	抗がん剤副作用支援チーム	-	-	-	15,985	19,122	9,561																																																																																																																																																																																																										
	褥瘡対策チーム	2,520	6,320	3,905	4,815	2,085	370																																																																																																																																																																																																										
	呼吸ケアチーム	-	144	59	1	92	61																																																																																																																																																																																																										
	認知症ケアチーム	-	568	6,248	4,462	4,456	2,076																																																																																																																																																																																																										
	精神科リエゾンチーム	-	-	-	-	1,743	1,173																																																																																																																																																																																																										
	緩和ケアチーム	-	-	-	3,163	20,389	8,888																																																																																																																																																																																																										
	計	76,407	83,251	87,349	122,748	141,670	69,857																																																																																																																																																																																																										
	こころ	感染防止対策チーム	303	434	380	352	368	186																																																																																																																																																																																																									
計		303	434	380	352	368	186																																																																																																																																																																																																										
栄養サポートチーム		-	-	-	2	8	14																																																																																																																																																																																																										
こども	感染防止対策チーム	17,484	19,870	18,880	27,610	27,460	12,600																																																																																																																																																																																																										
	褥瘡対策チーム	-	-	2,725	2,200	2,535	1,225																																																																																																																																																																																																										
	緩和ケアチーム	-	-	-	-	136	380																																																																																																																																																																																																										
	リハビリテーション	55,640	58,883	56,527	52,394	58,836	27,613																																																																																																																																																																																																										
計	73,124	78,753	78,132	82,206	88,975	41,832																																																																																																																																																																																																											
			6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>3病院で、7回の院内感染対策研修、9回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">院内感染対策研修</th> <th colspan="2">医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>元年度</th> <th>22年度9月末</th> <th>研修実施回</th> <th>研修参加員(研修参加回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2,153</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>387</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>526</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>1,066</td> </tr> </tbody> </table> <p>※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに法定回数2回</p> <p>各病院(企画)</p>	区分	院内感染対策研修					医療安全対策研修		21年度	22年度	23年度	元年度	22年度9月末	研修実施回	研修参加員(研修参加回)	総合	0	2	0	0	1	1	2,153	こころ	0	0	0	1	0	2	387	こども	3	0	3	4	1	2	526	計	3	2	3	5	2	6	1,066	<p>各病院において感染対策委員会や医療安全委員会を行うほか、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として感染対策室を中心とした中核要員によるチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行った。</p>	<p>・院内感染対策・医療安全対策研修を継続的に実施しており、安全・安心な医療の提供に関する職員への意識付けが行われている。</p> <p>・各病院に感染管理を専攻とする認定看護師が配置されている。</p> <p>・各病院でそれぞれ対策マニュアルが整備されており、必要に応じて随時見直しも行われている。</p> <p>・令和2年度は、総合病院において、新型コロナウイルス感染症対策に特化した「院内感染対策チーム」を創設し、県や市保健所等との情報共有や患者受入れに関する調整、院内における患者受入体制の整備等について検討を行っている。</p> <p>・県立病院として、本県の新型コロナウイルス対策において重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献している。</p>																																																																																																																																																											
区分	院内感染対策研修						医療安全対策研修																																																																																																																																																																																																										
	21年度	22年度	23年度	元年度	22年度9月末	研修実施回	研修参加員(研修参加回)																																																																																																																																																																																																										
総合	0	2	0	0	1	1	2,153																																																																																																																																																																																																										
こころ	0	0	0	1	0	2	387																																																																																																																																																																																																										
こども	3	0	3	4	1	2	526																																																																																																																																																																																																										
計	3	2	3	5	2	6	1,066																																																																																																																																																																																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																							
						説明																																																												
			7	④⑤固定チームナーシングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	<p>「患者様の声」の推移（看護師） (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ご意見</td> <td>72</td> <td>57</td> <td>92</td> <td>85</td> <td>81</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>感謝</td> <td>324</td> <td>37</td> <td>281</td> <td>294</td> <td>404</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>患者満足度調査 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td>98.9</td> <td>98.0</td> <td>90以上</td> <td>集計中</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	ご意見	72	57	92	85	81	22	感謝	324	37	281	294	404	20	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	入院	95.6	97.8	98.2	98.9	98.0	90以上	集計中	A	<p>「患者様の声」については、看護師に対する意見が増加しており、そのうち感謝の割合が増加した。今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護が提供できるよう努める。</p> <p>・固定したチームメンバーで受け持ち患者を分担して看護を行う「固定チームナーシング方式」のもと、入院から退院まで看護が展開されている。 ・看護師メンバーが固定されることで、患者に寄り添った質の高い看護の提供患者との間に信頼関係が強くなるものと考えられる。</p>																						
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																												
ご意見	72	57	92	85	81	22																																																												
感謝	324	37	281	294	404	20																																																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																											
入院	95.6	97.8	98.2	98.9	98.0	90以上	集計中																																																											
			8	⑥患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	<p>・平成25年から調査実施時期を統一し、実施している。</p> <p>患者満足度調査 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>入院 95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td>98.9</td> <td>98.0</td> <td>90以上</td> <td>集計中</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 89.6</td> <td>93.2</td> <td>94.0</td> <td>94.3</td> <td>93.6</td> <td>85以上</td> <td>集計中</td> </tr> <tr> <td>ここ</td> <td>入院 -</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 89.8</td> <td>88.5</td> <td>94.4</td> <td>91.0</td> <td>95.7</td> <td>85以上</td> <td>92.7</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>入院 91.9</td> <td>98.4</td> <td>97.5</td> <td>96.1</td> <td>99.0</td> <td>90以上</td> <td>95.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 90.9</td> <td>98.1</td> <td>99.3</td> <td>98.9</td> <td>98.1</td> <td>90以上</td> <td>96.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	総合	入院 95.6	97.8	98.2	98.9	98.0	90以上	集計中		外来 89.6	93.2	94.0	94.3	93.6	85以上	集計中	ここ	入院 -	-	-	-	-	-	-		外来 89.8	88.5	94.4	91.0	95.7	85以上	92.7	こども	入院 91.9	98.4	97.5	96.1	99.0	90以上	95.2		外来 90.9	98.1	99.3	98.9	98.1	90以上	96.5	A	<p>総合病院の満足度調査は、現在集計中であるが、患者等の意見があった時点で所管部署に伝え、改善につなげている。なお、以前課題であった総合病院前の渋滞については、北立体駐車場完成後発生していない。今後も来院者数や駐車場の混雑状況を注視していく。</p> <p>こちらの医療センターでは、全体で前年比3.0ポイント減の92.7%であった。以前課題であったトイレの満足度は15.9ポイント増の90%を超え、改修の効果が見られた。医師の応対や相談については90%を越えており医療に対する信頼が数値として反映されている。なお、マイナス要因としては待合室での呼び込みや順番について視覚的な工夫の要望があり、対策として患者個別の対応等について検討していく。</p> <p>こども病院では、売店のスペース拡充・商品の充実に対する要望が多かった。改修工事を実施し、令和2年3月末にオープンしたことで、売店に対する満足度は95.4%となり、前年度実績を大きく超える結果となっている。また、院内の投書にも売店の品揃えが拡充されたことに対する感謝が寄せられている。</p>	1	1	-
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																											
総合	入院 95.6	97.8	98.2	98.9	98.0	90以上	集計中																																																											
	外来 89.6	93.2	94.0	94.3	93.6	85以上	集計中																																																											
ここ	入院 -	-	-	-	-	-	-																																																											
	外来 89.8	88.5	94.4	91.0	95.7	85以上	92.7																																																											
こども	入院 91.9	98.4	97.5	96.1	99.0	90以上	95.2																																																											
	外来 90.9	98.1	99.3	98.9	98.1	90以上	96.5																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価							
						説明	県評価										
(2) 県立病院が担う役割 他の医療機関では対応困難な高度・特殊医療など、県の保健医療施策として求められている医療を誠実に提供するとともに、地域連携に努め、県内医療機関の中核病院としての役割を果たすこと。また、医療技術の進展等に対応し、高度・専門医療等の更なる充実・強化に努めること。	(2) 県立病院が担う役割 他の医療機関では対応困難な高度・専門・特殊医療が確実に提供できるように、先進的技術・治療法の導入に努める。情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携を推進する。 県内医療機関の中核病院として、緊急時における後方病床の確保や人材育成などの支援体制の整備を行うとともに、地域間の医療機関との機能分担や紹介率・逆紹介率の向上により、地域連携の強化を図る。 【目標値】 ・紹介率(総合、こころ、こども) ・逆紹介率(総合、こころ、こども)	(2) 県立病院が担う役割 県内の中核病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ①紹介・逆紹介の推進 ②地域連携クリニカルパスの推進 ③かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル(ふじのくにねっと)の推進	9	①かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。 地域の医療機関との連携強化を図る	紹介率・逆紹介率実績 (単位: %)	A	紹介先、逆紹介先となる地域のクリニック等への訪問を積極的に行い、連携強化に努めていることから、紹介率及び逆紹介率は、令和元年度の実績及び令和2年度の目標値を上回る見込みである。	2	1	○							
					区分						27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末
					紹介率						89.1	89.0	90.6	92.7	92.4	90以上	93.3
					逆紹介率						134.3	161.5	176.5	171.3	174.7	175以上	194.2
10	①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	10	①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	紹介率・逆紹介率実績 (単位: %)	B	他の医療機関では受け入れが困難な重症患者や、救急・急性期の患者を積極的に受け入れているが、紹介率は昨年度実績を下回っており、9月末時点で目標には達しなかった。今後もこども病院をはじめ、地域の医療機関との連携を図るほか、先進的治療であるm-ECTやクロザピン治療など、他の医療機関では対応困難な患者を積極的に受け入れ、紹介率の向上に努める。逆紹介率も、昨年度実績を下回り、今後も「よろず相談・地域連携スタッフ」が地域や行政と協働して地域連携や移行支援に努めていく。	2	1	○							
					区分						27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末
					紹介率						66.2	55.0	56.3	51.0	56.1	57以上	51.7
					逆紹介率						30.8	29.6	28.6	37.0	33.7	30以上	29.9
11	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	11	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	紹介率・逆紹介率実績 (単位: %)	B	他の医療機関と連携を図ることにより、紹介予約制を維持するとともに積極的な逆紹介を行った。地域医療支援病院として、紹介率・逆紹介率ともに施設基準を満たしており、地域医療支援病院の機能を果たした。ただし、目標数値には達していないため、今後も地域医療機関との連携に努めていく。	2	1	○							
					区分						27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末
					紹介率						93.0	94.7	94.1	92.6	90.9	94以上	91.4
					逆紹介率						52.0	52.5	46.5	43.7	47.7	53以上	43.4
12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	地域連携クリニカルパス (単位: 件)	A	地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めている。	2	1	○							
					区分						27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	
					脳卒中						68	52	42	62	83	47	
					大腿骨頸部骨折						65	103	82	57	82	54	
胃がん	80	86	81	61	55	27											
大腸がん	151	114	109	124	122	46											
乳がん	118	131	191	105	128	49											
前立腺がん	0	0	9	10	16	10											
虚血性心疾患	96	186	142	92	73	36											
心房細動	-	-	1	7	4	1											
慢性腎臓病	54	37	25	43	40	15											
肺がん	0	0	0	0	2	0											
計	632	709	682	561	605	285											
13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	ネットワーク実績 (単位: 件)	A	今年度から、静岡市立静岡病院並びに、賀茂圏域の伊豆今井浜病院及び下田メディカルセンターが開示施設として参画した。静岡市立静岡病院は、静岡圏域の中核病院の1つで、賀茂圏域の2病院は賀茂圏域初の開示施設であり、これを足がかりに、引き続き、診療所、後方支援病院等の参画拡大に取り組んでいく。 また、新規開示件数は、前年度並みの件数を確保する見込みである。	2	1	○							
					区分						27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	
					開示施設数						15	18	18	17	16	19	
					開示件数(累計)						15,814	19,795	24,375	28,732	33,400	35,682	
開示件数(新規)	15,814	3,981	4,590	4,357	4,668	2,282											
参照施設数	194	141	134	126	118	117											
病院	17	13	14	13	13	13											
診療所	104	76	78	76	72	70											
保険薬局	59	40	31	27	25	27											
介護福祉施設	12	10	9	8	7	6											
介護福祉施設	2	2	2	2	1	1											
「ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。	ふじのくにねっとは、県内医療機関における病連携・病診連携の促進に向けた地域医療情報連携ネットワークであり、総合病院は、運営主体である参加医療機関で構成する協議会の事務局を担っている。 県は、ネットワークの拡大に向けて、平成28年度より、開示医療機関におけるシステム整備費用を補助しており、令和2年度は、島田市民病院と中東遠総合医療センターがシステム更新を行った。 協議会は、平成28年度より、参加医療機関からの利用料の徴収を開始し、自律的な運営体制が確立された一方、参照施設数は減少傾向となっているが、開示件数は堅調に増加しており、システムの有効性を認めている医療機関には積極的に活用されている。 令和2年度は、未導入圏域の基幹病院への参加促進活動や、医師会や薬剤師会を通じた加入促進チラシの配布、試用端末貸出など、開示施設・参照施設の増加に向けた取組が行われている。 参加医療機関にとっては、利用料に見合う利用価値が得られるかどうか重要なため、協議会事務局として、地域特性に応じた優良な活用事例の横展開や、県東部地域等の基幹病院に対する積極的な参加促進等により、ネットワークの利用価値を高めていくことが期待される。																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																		
						説明																																																																																																																																							
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、先端医療の設備・機能を最大限に活用し、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供すること。また、高度救命救急センターの運用による広範囲熱傷等の特殊疾病患者の受け入れ等、高度救急医療を継続して提供するほか、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率90%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度85%以上の達成を目指すこと。 県立このころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図るほか、多様な精神疾患への対応や早期入院・早期社会復帰を支援する医療提供体制の充実に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率85%以上の達成を目指すこと。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる6疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。 ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしている。 イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。 ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。 ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしている。 イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。 ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																	
													14	各病院	<p>児童の措置入院等、こども病院での受け入れが困難な場合はこのころの医療センターにて受入れている。</p> <p>周産期医療における搬送実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども→総合</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>総合→こども</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>このころの医療センターの精神科医師の総合病院への配置状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども→総合</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>このころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども→総合</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	こども→総合	8	3	7	8	7	1	総合→こども	14	11	15	13	13	3	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	こども→総合	0	0	0	0	1	2	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	こども→総合	4	7	4	9	6	2	<p>3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築して行く。</p> <p>総合病院に常勤の精神科医師を1名増員し、2名配置し、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施している。</p> <p>このころの医療センターとこども病院の精神科医師と合同で症例検討会を開催している。</p> <p>こども病院から総合病院に搬送される母体搬送が行われた。同一法人のため搬送時の医師の応援派遣がスムーズであることや設備の有効活用が図られている。</p> <p>今後、総合病院精神科病棟の整備にあたり、精神科医師が中心となり、機構における精神科医療のあり方や役割分担を含めた検討を進める。</p>	<p>・認知症をはじめとした精神科患者における身体合併症、周産期医療における合併症への対応等において、3病院がそれぞれの特性を活かして相互に連携が図られている。</p> <p>・令和2年度は、このころの医療センターから総合病院へ精神科医師1人を増員し、計2人の精神科医師が精神科リエゾンチーム、緩和ケアチームに参画することで、診療報酬加算の算定件数増に大きく貢献している。</p> <p>・総合病院においては、精神科医師が中心となり、精神科病棟の整備に向けた検討を行っている。具体的には、今後精神科病棟におけるフロア面(診断内容、病床数等)やハード面(設計に係る基本計画)の検討を進めていく予定である。</p> <p>・機構3病院の連携体制の更なる強化を進めるとともに、精神科医師の配置がチーム医療等の各方面に及ぼした効果等も十分に分析の上、検討していくことが期待される。</p>	14	○																																																																									
															区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																								
こども→総合	8	3	7	8	7	1																																																																																																																																							
総合→こども	14	11	15	13	13	3																																																																																																																																							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																							
こども→総合	0	0	0	0	1	2																																																																																																																																							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																							
こども→総合	4	7	4	9	6	2																																																																																																																																							
15	総合・コリス・コリス	<p>【総】・結核病棟を維持する。また各種感染症や難病、アレルギー疾患医療は県内医療機関との連携・協力関係を進める。</p> <p>【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。</p> <p>【子】・アレルギー疾患拠点病院として、講習会の実施等の取組みを継続する。</p>	<p>・新型コロナウイルスなどの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。</p> <p>【総】・結核病棟を維持する。また各種感染症や難病、アレルギー疾患医療は県内医療機関との連携・協力関係を進める。</p> <p>【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。</p> <p>【子】・アレルギー疾患拠点病院として、講習会の実施等の取組みを継続する。</p>	<p>(総合)</p> <p>結核病棟は50床で運用している。エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。</p> <p>入院患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エイズ</td> <td colspan="6">非公開</td> </tr> <tr> <td>結核</td> <td>98</td> <td>119</td> <td>108</td> <td>111</td> <td>92</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table> <p>移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>腎移植</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>26</td> <td>28</td> <td>30</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>造血幹細胞移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>腎臓移植は、平成27年度に3件、平成28年度に2件、平成29年度に2件、平成30年度に1件、令和元年度に1件を行った。</p> <p>アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>アレルギー教室開催実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>新型コロナウイルス感染症受入体制 総合 18床(陰圧病棟2床、個室4床を含む) こども 4床(2床はスタッフ用) こども 4床(PICU)</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	エイズ	非公開						結核	98	119	108	111	92	57	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	腎移植	11	14	18	14	17	4	造血幹細胞移植	8	11	8	17	14	4	強角膜片作成	7	3	4	2	3	0	計	26	28	30	33	34	8	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	骨髄移植	4	4	2	5	2	2	臍帯血	0	2	1	3	3	1	自家末梢血	8	5	7	4	4	0	同種末梢血	1	0	0	2	1	0	計	13	11	10	14	10	3	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	総合	-	-	-	1	1	0	こども	3	3	4	4	3	1	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	件数	2	2	3	3	3	1	<p>(総合)</p> <p>新型コロナウイルス感染症に係る院内検査及び患者受入体制を構築した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の治療に迅速に対応するため、令和2年4月から、本館6階の一般病棟 20床を緊急的に使用した。その後、療養環境と治療環境の充実を図るため、本館3階に陰圧病棟2床、個室4床を含む18床の専門病棟を整備し、令和2年9月から運用を開始した。</p> <p>今後、更なる感染拡大に対応するため、本館6階に透析装置を有する病棟の整備を計画し、受入体制の強化に努める。</p> <p>結核病棟については、結核病棟を有する病院の多くがコロナ感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。</p> <p>移植については、生体移植を含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度の実施件数を下回る見込みである。</p> <p>(こども)</p> <p>県の要請により新型コロナウイルス感染症に対応する病床を4床(うち2床をスタッフ用)を確保している。</p> <p>東部保健所管轄の措置患者の受け入れを行った。</p> <p>(こども)</p> <p>新型コロナウイルス感染症に対応するため、PICUにおいて4床確保した。</p> <p>また、移植医療に関しては、適用患者の数が変動はあるため、実績値の増減はあるが先進的治療である造血幹細胞移植に継続して取り組んでいる。また、アレルギー疾患に関する県民向け・医療者向けの講習会を実施し、地域のアレルギー疾患医療のレベルアップを図っているものの、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催が制限されている。</p>	<p>・政策医療として、結核、エイズ等の感染症医療、難病医療、委嘱医療、アレルギー疾患医療等を提供し、県立病院としての役割を果たしている。</p> <p>・特に、総合病院においては、無菌病棟の整備により、清潔な環境下で化学療法や移植後の管理を行う体制が整い、造血幹細胞移植を継続して実施している。</p> <p>・総合病院とこども病院は、平成30年10月、アレルギー疾患の診療経験が豊富な専門的知識・技能を有する医師が常勤する、県アレルギー疾患拠点病院(県内で7病院)として選定されており、アレルギー疾患にかかる専門治療の提供、普及啓発、人材育成を推進している。</p> <p>・今後、拠点病院として、地域の医療機関との連携のもと、重症・難治性アレルギー疾患患者に対する治療、講習・研修等を通じた情報提供、調査分析等の研究機能の発揮が期待される。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症に関しては、総合病院で18床、このころの医療センターで4床(うち2床をスタッフ用)、こども病院で4床を確保し、各病院ともに患者の受け入れを行っている。</p> <p>・特に総合病院においては、新型コロナウイルス患者受け入れのための専門病棟を整備するなど、機動的な対応をとっている。更には、透析が必要な患者が新型コロナウイルスに感染した際の治療手段の確保のため、透析装置を有する病棟の整備を行っており、令和3年1月からの運用開始を予定している。</p> <p>・3病院ともに、県立病院として、県内の医療提供体制確保に貢献している。</p> <p>・また、コロナ禍においても、感染症対策のうち、特に結核については、病床を確保する必要がある。</p> <p>・総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病棟をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病棟(50床)を維持しており、県全体の結核対策に貢献している。</p>	14	☆
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																							
エイズ	非公開																																																																																																																																												
結核	98	119	108	111	92	57																																																																																																																																							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																							
腎移植	11	14	18	14	17	4																																																																																																																																							
造血幹細胞移植	8	11	8	17	14	4																																																																																																																																							
強角膜片作成	7	3	4	2	3	0																																																																																																																																							
計	26	28	30	33	34	8																																																																																																																																							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																							
骨髄移植	4	4	2	5	2	2																																																																																																																																							
臍帯血	0	2	1	3	3	1																																																																																																																																							
自家末梢血	8	5	7	4	4	0																																																																																																																																							
同種末梢血	1	0	0	2	1	0																																																																																																																																							
計	13	11	10	14	10	3																																																																																																																																							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																							
総合	-	-	-	1	1	0																																																																																																																																							
こども	3	3	4	4	3	1																																																																																																																																							
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																							
件数	2	2	3	3	3	1																																																																																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価	県評価	重点	数値	評価																																																								
<p>県立こども病院においては、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進医療を提供すること。また、小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図るほか、患者の円滑な退院・在宅移行を支援する体制整備に努めること。</p> <p>なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率75%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度90%以上の達成を目指すこと。</p> <p>さらに、県立3病院は、がん、エイズ等の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害への対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。</p> <p>その他、移行期医療や医療的ケアへの対応など新たな課題に取り組む。今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。</p>	<p>エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。</p>	<p>エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。</p>	16 18	<p>【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。</p> <p>【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。</p> <p>【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。</p> <p>【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他との充実を図る。</p>	<p>地域医療ネットワークセンター退院調整件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>1,754</td> <td>2,204</td> <td>3,217</td> <td>6,810</td> <td>5,217</td> <td>2,920</td> </tr> </tbody> </table> <p>退院支援報酬算定件数実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整加算(旧)</td> <td>770</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>退院支援加算1(新)</td> <td>—</td> <td>1,054</td> <td>1,879</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>入退院支援加算1改</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4,816</td> <td>3,987</td> <td>2,564</td> </tr> <tr> <td>退院時ハイリテック指導料</td> <td>980</td> <td>601</td> <td>705</td> <td>530</td> <td>1,113</td> <td>1,519</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,750</td> <td>1,655</td> <td>2,584</td> <td>5,346</td> <td>5,100</td> <td>4,083</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成30年改定より、入退院支援加算に名称変更</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	件数	1,754	2,204	3,217	6,810	5,217	2,920	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	退院調整加算(旧)	770	—	—	—	—	—	退院支援加算1(新)	—	1,054	1,879	—	—	—	入退院支援加算1改	—	—	—	4,816	3,987	2,564	退院時ハイリテック指導料	980	601	705	530	1,113	1,519	計	1,750	1,655	2,584	5,346	5,100	4,083	<p>地域医療ネットワークセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援した。</p>	<p>・入退院調整の窓口である地域医療ネットワークセンターにおいては、各種会議・勉強会への参加、地域連携バスの運用などを通じて地域の医療機関との顔の見える関係を構築している。</p> <p>・退院調整件数や診療報酬算定件数としての入退院支援加算は令和元年度より増加傾向である。</p> <p>・特に退院時リハビリテーション指導料の増加が顕著であり、これは医事課とリハビリテーション科の連携により、円滑に算定できるよう運用の見直しが行われたことによる。</p>			
				区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																								
				件数	1,754	2,204	3,217	6,810	5,217	2,920																																																								
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																												
退院調整加算(旧)	770	—	—	—	—	—																																																												
退院支援加算1(新)	—	1,054	1,879	—	—	—																																																												
入退院支援加算1改	—	—	—	4,816	3,987	2,564																																																												
退院時ハイリテック指導料	980	601	705	530	1,113	1,519																																																												
計	1,750	1,655	2,584	5,346	5,100	4,083																																																												
<p>リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確かな支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。</p>	<p>リハビリテーション活動実施件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神科作業療法</td> <td>7,206</td> <td>7,649</td> <td>5,992</td> <td>5,494</td> <td>4,483</td> <td>2,827</td> </tr> <tr> <td>デイケア</td> <td>4,229</td> <td>4,448</td> <td>5,955</td> <td>6,023</td> <td>4,446</td> <td>1,752</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11,435</td> <td>12,097</td> <td>11,947</td> <td>11,517</td> <td>8,929</td> <td>4,579</td> </tr> </tbody> </table> <p>訪問看護実施件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護実施件数</td> <td>2,883</td> <td>3,523</td> <td>4,068</td> <td>3,996</td> <td>3,704</td> <td>1,827</td> </tr> <tr> <td>(うち複数訪問)</td> <td>170</td> <td>147</td> <td>76</td> <td>31</td> <td>39</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	精神科作業療法	7,206	7,649	5,992	5,494	4,483	2,827	デイケア	4,229	4,448	5,955	6,023	4,446	1,752	計	11,435	12,097	11,947	11,517	8,929	4,579	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	訪問看護実施件数	2,883	3,523	4,068	3,996	3,704	1,827	(うち複数訪問)	170	147	76	31	39	45	<p>リハビリテーション活動の対象者は、入院や外来患者数の減少により、昨年度の実施件数は減少している。令和2年度については、11月末からの受け入れ制限により昨年度実績を下回る見込みである。</p> <p>デイケアは感染防止対策として受け入れを制限していた時期があり昨年度より減少しているが、当該活動は、患者の社会復帰に繋がる支援であるため、今後も継続的に導入対象者に対するマネジメントの強化として、ポスター掲示や短期間限定募集、パンフレットのリニューアル等を行い、新規対象者の獲得に取り組んでいく。また、対象者について感染症拡大防止の観点から、本人の来院によらない在宅での支援の構築について検討している。</p> <p>訪問看護は、昨年度の水準を維持している。また、必要に応じてPSWや作業療法士など複数の職種が関与することで、入院初期の段階から退院後の訪問看護を見据えた多職種連携を行うよう努めた結果、複数訪問について、9月末時点で昨年度の実績を上回っている。なお、訪問時の感染対策を検討している。</p>	<p>・平均在院日数を短縮し、社会復帰に向けたリハビリや地域での生活を支援する訪問看護は重要である。</p> <p>・リハビリ実施件数は近年減少傾向である。特に精神科作業療法は主に入院患者を対象としたものであるが、入院患者数の減少や重症患者の比率増加により、年々件数が減少してきている。件数の増加に向けては、入院患者数全体を増やすことが必要とされる。</p> <p>・リハビリ実施件数のうち、デイケアの件数については、新型コロナウイルス感染防止対策として、受け入れを一時期制限していたため、令和元年度より更に減少傾向である。</p> <p>・令和2年12月からは動画配信やリモート(Zoom)による集団プログラムを開始しており、感染症拡大防止対策をとりつつ、患者の社会復帰を支援する取組を行っている。引き続き、リハビリ導入対象者に対して、デイケアプログラムの必要性やメリットをわかりやすく記載したポスターの掲示やリーフレットの配布を行い、新規導入者増加に向けた取組を継続している。</p> <p>・訪問看護実施件数は、令和元年度並みを維持している。うち複数訪問(看護師のほか作業療法士等複数の職種での訪問)は令和元年度と比較して増加しており、診療報酬上の加算による収益の増加にもつながっている。</p> <p>・精神疾患患者の社会復帰と在宅医療の支援について、デイケアの新規利用者増加や訪問看護の拡充に向けた取組を注視していく。</p>	15	△												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																												
精神科作業療法	7,206	7,649	5,992	5,494	4,483	2,827																																																												
デイケア	4,229	4,448	5,955	6,023	4,446	1,752																																																												
計	11,435	12,097	11,947	11,517	8,929	4,579																																																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																												
訪問看護実施件数	2,883	3,523	4,068	3,996	3,704	1,827																																																												
(うち複数訪問)	170	147	76	31	39	45																																																												
<p>リハ実施実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2月目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>17,811</td> <td>17,504</td> <td>18,944</td> <td>17,309</td> <td>22,829</td> <td>15,000</td> <td>11,614</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,335</td> <td>6,010</td> <td>6,656</td> <td>6,039</td> <td>4,546</td> <td>—</td> <td>1,828</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>7,825</td> <td>8,656</td> <td>7,306</td> <td>7,901</td> <td>9,744</td> <td>—</td> <td>4,494</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31,971</td> <td>32,170</td> <td>32,906</td> <td>31,249</td> <td>37,119</td> <td>—</td> <td>17,936</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2月目標	2年度9月末	理学療法	17,811	17,504	18,944	17,309	22,829	15,000	11,614	作業療法	6,335	6,010	6,656	6,039	4,546	—	1,828	言語聴覚療法	7,825	8,656	7,306	7,901	9,744	—	4,494	計	31,971	32,170	32,906	31,249	37,119	—	17,936	<p>リハビリ実施件数は令和2年度目標を超える見込みで推移している。今後さらなる質の向上を図っていく。</p>	<p>・リハビリ実施件数は理学療法、作業療法、言語聴覚療法のいずれも高い水準を維持しており、理学療法については、令和元年度並みの実績を維持しており、目標値を超える見込みである。</p> <p>・令和元年度からリハビリテーション科を新たに組織し、専任のリハビリテーション医のもと、患者の社会生活支援、就学等に取り組んでいる。</p>																								
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2月目標	2年度9月末																																																											
理学療法	17,811	17,504	18,944	17,309	22,829	15,000	11,614																																																											
作業療法	6,335	6,010	6,656	6,039	4,546	—	1,828																																																											
言語聴覚療法	7,825	8,656	7,306	7,901	9,744	—	4,494																																																											
計	31,971	32,170	32,906	31,249	37,119	—	17,936																																																											
<p>遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。</p>	<p>遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。</p>	<p>遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。</p>	19	<p>遺伝診療科受診者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td>21</td> <td>39</td> <td>86</td> <td>101</td> <td>146</td> <td>83</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	受診者数	21	39	86	101	146	83	<p>遺伝診療科受診者数は令和元年度の数値を上回る見込みである。</p> <p>令和元年9月にゲノム医療センターを新設し、臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーを始めとする遺伝分野の専門スタッフを配置した。今後は、がんゲノム医療拠点病院の指定を目指し、がんゲノム医療提供体制の更なる強化を進める。</p>	<p>・平成27年度の遺伝診療科開設以降、平成30年3月のがんゲノム医療連携拠点病院指定、令和元年9月のゲノム医療センター新設等の体制強化により、遺伝診療科受診者数は年々増加している。</p> <p>・遺伝診療科では、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー等の専門家が、がんゲノム関連検査等における遺伝カウンセリングを通じて、患者や医療従事者に対して最新の情報を提供し、相談者が自分の意思で最善の検査や治療方針が決定できるよう支援してきたが、令和元年9月に先天性・遺伝性疾患やがんに対する遺伝医療を総合的に実施するため、ゲノム医療センターを新設した。</p> <p>・また、令和元年8月には、一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会より、県立静岡がんセンターに続く県内2番目の遺伝性腫瘍研修施設として認定された。</p> <p>・遺伝性腫瘍に関する適切な医療の推進を目的に、人材育成、知識普及、診療体制の充実等に取り組む。今後進展が期待される遺伝子診療への貢献が期待される。</p> <p>・国のがんゲノム医療中核拠点病院である京都大学医学部附属病院の連携病院として遺伝子パネル検査等の実施にあたり連携しているが、将来的には、がんゲノム医療拠点病院としての国指定を目指している。</p> <p>・がんゲノム医療拠点病院は、令和元年9月に初めて全国で34施設が指定されている。</p> <p>・総合病院においては、地域バランスを含めた国の総合的判断により指定を受けられなかったものの、高い評価を得ており、指定に向けた体制整備への努力が継続されている。</p>																																														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																												
受診者数	21	39	86	101	146	83																																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																								
						説明																																																													
	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	20 22	【総】・こころの医療センター、こども病院と連携し、精神科病棟設置に向けた検討・準備を進める。 ・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。 ・精神科リエンチームの運営を開始し、精神科外来の業務を確立する。 【心】・症状が重篤な認知症患者を受け入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来（老年期こころ物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施する。 【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	脳FDG-PET (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>131</td> <td>135</td> <td>147</td> <td>161</td> <td>160</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table> 認知症ケア加算 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>-</td> <td>803</td> <td>10,494</td> <td>8,306</td> <td>7,163</td> <td>2,902</td> </tr> </tbody> </table> 認知症入院患者数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症入院患者</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> 老年期こころ物忘れ外来実施件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>老年期こころ物忘れ外来実施件数</td> <td>797</td> <td>573</td> <td>441</td> <td>483</td> <td>387</td> <td>163</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	実施件数	131	135	147	161	160	51	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	算定件数	-	803	10,494	8,306	7,163	2,902	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	認知症入院患者	6	12	11	9	6	4	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	老年期こころ物忘れ外来実施件数	797	573	441	483	387	163	B 現在、精神科病棟の整備方針について検討を進めている。 脳FDG-PET実施件数及び認知症ケア加算算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響による入院患者数減に伴い、前年度を下回る見込みである。 精神科救急・急性期医療体制を確保して症状が重篤な認知症患者を受け入れるとともに、老年期特有の専門外来（老年期こころ物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施している。 A 増加傾向にある発達小児科患者に対応するとともに家族へのペアレント・トレーニングを実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となっている。新生児科においては、低出生体重児の発達フォローを継続して実施している。 東部地区に発達障害を扱う医師が少ないことから、令和元年度有期医師を1名増員し、診療体制の充実を図り、県と連携して東部地区の医師に対し研修を行ったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の鑑別に有用とされる脳FDG-PETの実施件数は新型コロナウイルスの影響による入院患者数の減少により、令和元年度より大幅に減少している。 ・また、認知症ケア加算についても、同様の理由で減少しているが、総合病院では認知症ケアチームが週1回カンファレンスを実施し、早期介入を行うことで認知症状の悪化予防に取り組んでいる。 ・令和2年度からは常勤の精神科医2名を配置しており、認知症の周辺症状と身体合併症にかかる専門医療相談等に対応している。 ・この精神科医らの参画する精神科リエンチームと認知症ケアチームの協働により、包括的な医療の提供が可能となっている。 ・高齢化を背景に今後も増加していく認知症患者に対して、各病院が連携して早期発見・早期対応に努めるとともに、地域の医療機関との連携や医療従事者の育成等も期待される。 <ul style="list-style-type: none"> ・症状が重篤な認知症患者を受け入れる体制や、老年期特有の専門外来として、老年期こころ物忘れ外来を設置し、精神科救急における県立病院としての責務を果たしている。 ・認知症入院患者のほとんどが、興奮、不眠、妄想、徘徊等の周辺症状(BSPS)が現れた者のため、転倒・転落防止のため低床ベッドを整備するなどの対策をとっている。 ・認知症については、診断や専門医療相談のニーズが高まっている一方、静園圏域では、相談窓口が多様化していることから、老年期こころ物忘れ外来の外来件数は年々減少している。こころの医療センターとしては、今後も認知症患者に対する医療提供体制を維持していくことが重要である。 				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																													
実施件数	131	135	147	161	160	51																																																													
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																													
算定件数	-	803	10,494	8,306	7,163	2,902																																																													
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																													
認知症入院患者	6	12	11	9	6	4																																																													
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																													
老年期こころ物忘れ外来実施件数	797	573	441	483	387	163																																																													
				【総】・こころの医療センター、こども病院と連携し、精神科病棟設置に向けた検討・準備を進める。 ・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。 ・精神科リエンチームの運営を開始し、精神科外来の業務を確立する。 【心】・症状が重篤な認知症患者を受け入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来（老年期こころ物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施する。 【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	発達障害児を持つ保護者を対象に、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを行った。 中期計画期間中、新生児退院診察を週1回実施した。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを週2回実施した。 発達小児科外来患者数等 (単位:人、件数) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発達小児科外来延患者数</td> <td>3,210</td> <td>3,563</td> <td>3,871</td> <td>4,014</td> <td>4,233</td> <td>1,907</td> </tr> <tr> <td>ペアレントトレーニング件数</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> 新生児包括外来実績 (単位:件数) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低出生体重児への発達フォロー件数</td> <td>216</td> <td>210</td> <td>170</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>85</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	発達小児科外来延患者数	3,210	3,563	3,871	4,014	4,233	1,907	ペアレントトレーニング件数	10	10	10	10	10	0	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	低出生体重児への発達フォロー件数	216	210	170	207	207	85	A 増加傾向にある発達小児科患者に対応するとともに家族へのペアレント・トレーニングを実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となっている。新生児科においては、低出生体重児の発達フォローを継続して実施している。 東部地区に発達障害を扱う医師が少ないことから、令和元年度有期医師を1名増員し、診療体制の充実を図り、県と連携して東部地区の医師に対し研修を行ったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診の早期スクリーニングの効果により発達障害を疑われる児が増加しているが、発達障害を扱う診療所等の医師が非常に少ないこと、県東部地域を中心に診断・検査を行う小児専門医療機関の確保が十分でないことから、信頼性の高いこども病院に、障害の程度を問わず患者が集中している状況にある。 ・発達障害に対しては、スクリーニングや一般的な検査等を担う一次的な医療機関と、診断や専門的検査、薬物療法など高度な診療を行う医療機関との機能分化が望ましいが、県東部・中部地域においては、実現できていない状況にある。 ・こども病院の発達小児科においては、令和元年度から常勤医を1名増員し、令和2年度においても、引き続き、医師3人体制（常勤2人、非常勤1人）で週5日（各日午前・午後の2診体制）の専門外来を設け一日平均で17人超の診療という、現行体制で可能な限りの実績を上げており、県立病院としての役割を十分に果たしている。 ・医師確保の成果もあり、こども病院での初診待ちは、以前の3ヶ月～4ヶ月から、現状1ヶ月から2ヶ月程度へと短縮されている。 ・県としても、発達障害児の支援に向けて、令和2年度より発達障害者支援センター機能を大幅に強化する。沼津市に設置する東部センターと島田市に設置する中西部センターのもと、当事者や家族等からの相談対応、人材育成等に対応していく。 ・こども病院においては、県の受託事業として、東部地域のかかりつけ医等がこどもでの初診に隣席し専門的医療機関の診療方法を学習する研修事業を実施している。 ・県と連携して、発達障害を行う医師が東部地区に少ないことから、東部地区の医師に対して研修を行っている。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で未実施ではあるが、今後も県の発達障害者支援体制の充実に向けて、県との一層の連携強化が期待される。 ・こども病院においても、さらなる専門医師の確保に努めるとともに、県と連携して、相談窓口での早期トリアージ、早期療育・早期リハビリプログラムの作成・普及等の取組により、地域の関係機関との機能分化の実現を目指すことが期待される。 																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																													
発達小児科外来延患者数	3,210	3,563	3,871	4,014	4,233	1,907																																																													
ペアレントトレーニング件数	10	10	10	10	10	0																																																													
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																													
低出生体重児への発達フォロー件数	216	210	170	207	207	85																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価	県評価	重点	数値	評価																																																																																																				
	キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	23	<p>・新型コロナウイルスなどの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。</p> <p>・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。</p> <p>・【こころ】思春期及び小児科から成人への移行期における精神科医療体制の強化を図る。</p> <p>・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る。</p> <p>・【子】医療的ケア児のレスパイト対応のための受入れ体制を構築する。</p>	<p>移行期医療件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> <tr> <td>こども→総合</td> <td>-</td> <td>626</td> <td>650</td> <td>610</td> <td>666</td> <td>423</td> </tr> <tr> <td>こども→こころ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>19</td> <td>7</td> </tr> </table> <p>関連するカンファレンス等の開催実績 (単位: 回)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> <tr> <td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	こども→総合	-	626	650	610	666	423	こども→こころ	-	-	-	-	19	7	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	-	-	-	2	5	0	移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	-	-	-	1	6	3	医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	-	-	-	5	3	3	<p>各病院</p> <p>移行期医療に関する部署を組織化し、また、県からも移行期医療支援センター運営事業を委託した。県と連携して移行期医療体制の拡充に取り組んでいる。</p> <p>在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応については、関係福祉機関、教育機関等において当院医師、看護師による講習や会議への出席等により支援をしている。</p>	<p>令和2年度実績 自己評価</p> <p>説明</p> <p>新型コロナウイルス感染症への対応については、総合、こどもが県から重点医療機関に指定されるなど、各病院で受入体制を整えた。なお、県と調整のうえ患者の受入を行っている。</p> <p>移行期医療への対応については、医療情報システムの統合を検討しており、これにより、患者情報の病院間の相互参照を可能とし、提供する医療サービスの向上を図る。(総合)</p> <p>毎週火曜日に先天性心疾患外来を設置し、こども病院と当院の循環器内科医師が連携しながら診察を行っている。</p> <p>(こころ)</p> <p>こども病院の精神科医師との合同カンファレンス症例検討を行い、小児から成人への移行期医療のための連携強化を図っている。なお、今年度はWebでの開催を検討している。(こども)</p> <p>移行期医療に関する部署を組織化し、また、県からも移行期医療支援センター運営事業を委託した。県と連携して移行期医療体制の拡充に取り組んでいる。</p> <p>在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応については、関係福祉機関、教育機関等において当院医師、看護師による講習や会議への出席等により支援をしている。</p> <p>レスパイトについては、指定障害福祉サービスの申請を行い、受入れ体制の整備を図っている。</p>	<p>県評価</p> <p>・医療の発達により、小児期の慢性疾患による死亡率が減少する一方で、原疾患治療や合併症への対応が長期化し思春期・成人期を迎える患者が増えているが、小児期と成人期の診療科・医療機関の連携は十分ではない。</p> <p>・このため、国は、移行期医療に対応可能な医療機関情報を把握・公表し、小児期と成人期の医療機関等の連絡調整・連携支援、患者の自律支援等を担う総合的なセンター機能を、各都道府県に1箇所に設置することを求めている。</p> <p>・移行期医療は、小児診療科から成人診療科に完全に移行する疾病、両方でケアが必要な疾病、小児診療科で継続してケアが必要な疾病と、疾病の種類や状況に応じて、求められる診療体制が異なる点が特徴である。</p> <p>・また、成人期医療においては小児慢性特定疾病への対応や患者の就学・就労支援等に課題が、小児診療科においては生活習慣病等への対応等に課題がある。</p> <p>・県の移行期医療支援センターにおいては、こうした医療・支援のコーディネート機能を担っていくことが求められている。</p> <p>・こども病院においては、県との意見交換会等を通じて、移行期医療支援センター設置に向けた準備を進めてきており、令和2年度からは、県から移行期医療支援体制整備事業の委託を受け、静岡県移行期医療支援センターとして開所している。今年度は特に体制整備を中心に、具体的には、移行期医療支援センターの実質的な稼働に向けたワーキングの実施や、移行外来の設置に向けた準備、先天性心疾患患者についてのデータベース作成などに取り組んでいる。</p> <p>・今後、県からの委託において、移行期医療推進協議会の運営や、移行期医療の実態調査や診療領域ごとの患者移行方針の具体的な構築、相談支援体制の構築など、患者の医療移行や自立支援の推進において、中心的役割を担っていくことが期待される。</p> <p>・総合病院やこころの医療センターにおいても先天性心疾患や発達障害、摂食障害等への対応等において、こども病院と連携を図りながら、従来の組織や診療体制の枠組にとらわれず、小児から成人まで継続した治療体制を確保することが期待される。</p>	16	☆																																																			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																								
こども→総合	-	626	650	610	666	423																																																																																																								
こども→こころ	-	-	-	-	19	7																																																																																																								
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																								
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	-	-	-	2	5	0																																																																																																								
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	-	-	-	1	6	3																																																																																																								
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	-	-	-	5	3	3																																																																																																								
ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	<p>・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。</p>	24	<p>こども病院では、本館リニューアル工事が行われており、薬剤部門、放射線部門、検査部門の劣化改修、ランドリー移転等の患者アメニティの整備を進めている。</p> <p>施設及び機器等の整備状況 (単位: 百万円)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">施設整備</th> <th rowspan="2">第3期累計(見込)</th> </tr> <tr> <th>第2期累計(実績)</th> <th>元年度(実績)</th> <th>2年度(見込)</th> <th>3年度(見込)</th> <th>4年度(見込)</th> <th>5年度(見込)</th> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>16,132</td> <td>1,091</td> <td>1,481</td> <td>2,436</td> <td>4,043</td> <td>605</td> <td>9,656</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>992</td> <td>139</td> <td>267</td> <td>791</td> <td>550</td> <td>456</td> <td>2,203</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,764</td> <td>148</td> <td>864</td> <td>1,146</td> <td>1,969</td> <td>140</td> <td>4,268</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>199</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>199</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>18,887</td> <td>1,379</td> <td>2,810</td> <td>4,372</td> <td>6,562</td> <td>1,202</td> <td>16,325</td> </tr> </table> <p>器械備品等</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>第2期累計(実績)</th> <th>元年度(実績)</th> <th>2年度(見込)</th> <th>3年度(見込)</th> <th>4年度(見込)</th> <th>5年度(見込)</th> <th>第3期累計(見込)</th> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>6,788</td> <td>706</td> <td>1,118</td> <td>1,616</td> <td>1,132</td> <td>1,175</td> <td>5,747</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>169</td> <td>31</td> <td>35</td> <td>123</td> <td>174</td> <td>52</td> <td>416</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,834</td> <td>308</td> <td>743</td> <td>1,007</td> <td>700</td> <td>566</td> <td>3,324</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>60</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,791</td> <td>1,045</td> <td>1,956</td> <td>2,746</td> <td>2,006</td> <td>1,733</td> <td>9,547</td> </tr> </table>	区分	施設整備						第3期累計(見込)	第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度(見込)	4年度(見込)	5年度(見込)	総合	16,132	1,091	1,481	2,436	4,043	605	9,656	こころ	992	139	267	791	550	456	2,203	こども	1,764	148	864	1,146	1,969	140	4,268	本部	0	0	199	0	0	0	199	合計	18,887	1,379	2,810	4,372	6,562	1,202	16,325	区分	第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度(見込)	4年度(見込)	5年度(見込)	第3期累計(見込)	総合	6,788	706	1,118	1,616	1,132	1,175	5,747	こころ	169	31	35	123	174	52	416	こども	1,834	308	743	1,007	700	566	3,324	本部	0	0	60	0	0	0	60	合計	8,791	1,045	1,956	2,746	2,006	1,733	9,547	<p>各病院・本部(経営)</p> <p>減価償却費については、令和元年度実績額40億円に対し、第3期中期計画期間中に47億円程度まで上昇することを想定しているが、経営状況をしながら適切に投資判断を行っている。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に対応するため、各病院において補助金等を活用し、人工呼吸器、PCR検査装置等を購入し、帰国者・接触者外来を設置、運営するなど体制を整えた。</p> <p>また、質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合し、医療情報の共有化を進めており、令和2年度は、こころの医療センターにサーバ棟の建設に着手している。</p> <p>総合病院では、先端医学棟に移設した中央滅菌材料室の跡地を利用して、第1期リニューアル工事の一部として外来化学療法センターを整備した。令和2年7月末に工事が完了し、8月から運用を開始した。病床数は40床とし、内訳はベッド22床、リクライニングシート18床である。</p> <p>令和元年度執行予定だった工事(こども北5改修)については、病院マスタープランとの整合、院内調整を行い、工事の基本方針を決定した。</p>	<p>・中期計画策定時の施設整備計画について、状況変化に柔軟に対応しながら、施設・設備整備を実施している。</p> <p>・地方独立行政法人法の規定により、機構は設立団体である県から長期借入を行うため、県が起債(地方公共団体金融機構借入や市場公募債)により資金調達した財源を転貸債として借り入れている。</p> <p>・第2期中期目標期間中は、先端医学棟や立体駐車場整備等の大型投資により、期間中合計で約277億円の建設改良費を支出した。</p> <p>・第3期においても、総合病院における既存棟の耐震化を含む改築工事やこどもの本館老朽化に伴う改築工事棟の大型投資が予定されており、期間中合計で約269億円の事業計画がある。</p> <p>・令和2年度においては、約48億円の施設及び機器等の整備を実施する予定である。</p> <p>・主な事業として、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、補助金を活用して、人工呼吸器等の機器の購入や帰国者・接触者外来の設置等の体制整備を行っており、県内の医療提供体制の確保に貢献している。</p> <p>・総合病院においては、外来化学療法センターを整備し、外来患者の利便性の向上を図っている。</p> <p>・また、医療情報の共有化による、質の高い医療の提供と効率的な病院運営のため、3病院共通のサーバ棟建設に着手している。</p> <p>・こども病院においては、建物の修繕・建替計画、院内敷地利用をまとめたマスタープランの作成が令和2年12月に完了したことで工事の基本方針が決定した。一部の施設整備が中期計画策定時点より遅れているが、病院機能が損なわれることはないとのことであり、計画的な進捗が求められる。</p> <p>・医療機器の購入においては、機器購入委員会を開き、優先順位の高い機器から購入を行うなど、適切な管理がされている。</p> <p>・減価償却費は、第3期期間中合計で約212億円が見込まれており、第2期合計の約165億円と比較すると大幅な増加となる。</p> <p>・減価償却費の増加は、手術件数増加や重症系病棟の稼働率の向上、在院日数の短縮等による医業収益の増加でカバーしていく予定であるが、今後、多額の設備投資による減価償却費等の増加が経営状況に及ぼす影響を注視していくことが求められる。</p>	17	☆
区分	施設整備						第3期累計(見込)																																																																																																							
	第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度(見込)	4年度(見込)	5年度(見込)																																																																																																								
総合	16,132	1,091	1,481	2,436	4,043	605	9,656																																																																																																							
こころ	992	139	267	791	550	456	2,203																																																																																																							
こども	1,764	148	864	1,146	1,969	140	4,268																																																																																																							
本部	0	0	199	0	0	0	199																																																																																																							
合計	18,887	1,379	2,810	4,372	6,562	1,202	16,325																																																																																																							
区分	第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(見込)	3年度(見込)	4年度(見込)	5年度(見込)	第3期累計(見込)																																																																																																							
総合	6,788	706	1,118	1,616	1,132	1,175	5,747																																																																																																							
こころ	169	31	35	123	174	52	416																																																																																																							
こども	1,834	308	743	1,007	700	566	3,324																																																																																																							
本部	0	0	60	0	0	0	60																																																																																																							
合計	8,791	1,045	1,956	2,746	2,006	1,733	9,547																																																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																														
						説明																																			
	各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	-	-	-	-	-																																		
	県立総合病院	(ア) 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的機関として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療<業務予定量> 病床数 712床 一般病床 662床 結核病床 50床 外来患者 471,761人 入院患者 235,100人	25		<p>入院・外来患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>204,480</td> <td>217,351</td> <td>226,005</td> <td>226,899</td> <td>220,628</td> <td>235,745</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>426,343</td> <td>432,762</td> <td>430,118</td> <td>436,699</td> <td>448,945</td> <td>431,000</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	入院患者数	204,480	217,351	226,005	226,899	220,628	235,745	外来患者数	426,343	432,762	430,118	436,699	448,945	431,000	B	入院患者数及び外来患者数は前年度の値及び目標を下回る見込みであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、患者が診療所への受診を控えたため、当院への紹介患者が減少したことが原因であると考えられる。			3	1	○								
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																			
入院患者数	204,480	217,351	226,005	226,899	220,628	235,745																																			
外来患者数	426,343	432,762	430,118	436,699	448,945	431,000																																			
	急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	<p>○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実</p> <p>①重症心不全疾患の患者に対して冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供</p> <p>②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化</p> <p>③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進</p> <p>④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip)等の低侵襲で高度な手術の実施</p>	26	①冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に常時対応できる体制を構築し、高度専門診療を提供する。	<p>CCU/ICUは平成30年9月より14床で運用している。</p> <p>CCU/ICU稼働率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>102.6</td> <td>100.0</td> <td>113.1</td> <td>119.1</td> <td>100.3</td> <td>88.6</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>771</td> <td>722</td> <td>780</td> <td>771</td> <td>866</td> <td>390</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>10.3</td> <td>11.5</td> <td>13.6</td> <td>14.3</td> <td>14.0</td> <td>12.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	稼働率(%)	102.6	100.0	113.1	119.1	100.3	88.6	入室患者数(人)	771	722	780	771	866	390	1日平均(人)	10.3	11.5	13.6	14.3	14.0	12.4	A	ICU/CCUの稼働率及び1日平均入室患者数は新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度の実績を下回る見込みである。今後も稼働率の向上に加え、特定集中治療室管理料の算定率向上に努める。手術件数は、順調に推移していることから、重症系病棟のニーズは継続するものと考えられる。			3		○	
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																			
稼働率(%)	102.6	100.0	113.1	119.1	100.3	88.6																																			
入室患者数(人)	771	722	780	771	866	390																																			
1日平均(人)	10.3	11.5	13.6	14.3	14.0	12.4																																			
			27	②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	<p>脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>42</td> <td>62</td> <td>83</td> <td>47</td> </tr> </tbody> </table> <p>超急性期脳卒中加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>27</td> <td>16</td> <td>35</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	算定件数	68	52	42	62	83	47	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	算定件数	15	15	27	16	35	19	A	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数及び急性期脳卒中加算の算定件数はいずれも前年度の値を上回る見込みである。今後もMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。						
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																			
算定件数	68	52	42	62	83	47																																			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																			
算定件数	15	15	27	16	35	19																																			
			28	③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	<p>糖尿病透析予防指導管理料 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>37</td> <td>132</td> <td>75</td> <td>145</td> <td>285</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	算定件数	37	132	75	145	285	75	A	糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定するが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響による外来患者減に伴い、前年度の値を下回る見込みである。																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																			
算定件数	37	132	75	145	285	75																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																
						説明																																																																																																																					
			29	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	<p>ハイブリッド手術室稼働状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハイブリッド手術室使用件数</td> <td>117</td> <td>163</td> <td>479</td> <td>706</td> <td>466</td> <td>300以上</td> <td>267</td> </tr> <tr> <td>TAVI実用件数(右上記の内数)</td> <td>4</td> <td>28</td> <td>67</td> <td>74</td> <td>67</td> <td>-</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>トランスカテラル挿入用(右上記の内数)</td> <td>81</td> <td>107</td> <td>91</td> <td>91</td> <td>125</td> <td>-</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>Mitra Clip件数(右上記の内数)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>12</td> <td>24</td> <td>-</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCI</td> <td>515</td> <td>517</td> <td>447</td> <td>450</td> <td>368</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td>アブレーション</td> <td>189</td> <td>229</td> <td>256</td> <td>253</td> <td>284</td> <td>123</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	ハイブリッド手術室使用件数	117	163	479	706	466	300以上	267	TAVI実用件数(右上記の内数)	4	28	67	74	67	-	34	トランスカテラル挿入用(右上記の内数)	81	107	91	91	125	-	47	Mitra Clip件数(右上記の内数)	-	-	-	12	24	-	6	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	PCI	515	517	447	450	368	164	アブレーション	189	229	256	253	284	123	<p>説明</p> <p>MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管造影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClip等の手術に使用される。</p> <p>ハイブリッド手術室の稼働状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇する傾向である。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、使用件数は目標値を上回る見込みであるが、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は、前年度の数値をやや下回る見込みである。</p>					3	1	○																																																	
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																																																				
ハイブリッド手術室使用件数	117	163	479	706	466	300以上	267																																																																																																																				
TAVI実用件数(右上記の内数)	4	28	67	74	67	-	34																																																																																																																				
トランスカテラル挿入用(右上記の内数)	81	107	91	91	125	-	47																																																																																																																				
Mitra Clip件数(右上記の内数)	-	-	-	12	24	-	6																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																					
PCI	515	517	447	450	368	164																																																																																																																					
アブレーション	189	229	256	253	284	123																																																																																																																					
			30	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	<p>がん手術件数 (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>135</td> <td>136</td> <td>163</td> <td>340</td> <td>366</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>310</td> <td>264</td> <td>287</td> <td>687</td> <td>696</td> <td>235</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>133</td> <td>135</td> <td>115</td> <td>366</td> <td>260</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>138</td> <td>156</td> <td>149</td> <td>134</td> <td>194</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>334</td> <td>343</td> <td>352</td> <td>449</td> <td>511</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>999</td> <td>1,131</td> <td>1,210</td> <td>1,241</td> <td>1,549</td> <td>473</td> </tr> <tr> <td>がん手術合計</td> <td>2,011</td> <td>2,135</td> <td>2,235</td> <td>3,217</td> <td>3,576</td> <td>1,133</td> </tr> <tr> <td>手術全体</td> <td>7,753</td> <td>7,764</td> <td>8,406</td> <td>8,651</td> <td>9,225</td> <td>4,498</td> </tr> <tr> <td>がん手術割合</td> <td>25.9</td> <td>27.5</td> <td>26.6</td> <td>37.2</td> <td>38.8</td> <td>25.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上</p> <p>検査・処置</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>内視鏡検査</th> <th>ERCP検査</th> <th>気管支鏡検査</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平30</td> <td>10,609</td> <td>2,760</td> <td>484</td> <td>461</td> <td>14,355</td> </tr> <tr> <td>令和元</td> <td>10,489</td> <td>2,813</td> <td>445</td> <td>389</td> <td>14,192</td> </tr> <tr> <td>2年度9月末</td> <td>2,975</td> <td>1,311</td> <td>280</td> <td>128</td> <td>4,697</td> </tr> </tbody> </table> <p>放射線治療 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>16,384</td> <td>16,330</td> <td>15,795</td> <td>15,772</td> <td>1,100</td> <td>800</td> <td>523</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和元年度より放射線治療管理算定件数とする。</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	胃がん	135	136	163	340	366	134	大腸がん	310	264	287	687	696	235	肝がん	133	135	115	366	260	83	肺がん	138	156	149	134	194	45	乳がん	334	343	352	449	511	163	その他	999	1,131	1,210	1,241	1,549	473	がん手術合計	2,011	2,135	2,235	3,217	3,576	1,133	手術全体	7,753	7,764	8,406	8,651	9,225	4,498	がん手術割合	25.9	27.5	26.6	37.2	38.8	25.2	年度	内視鏡検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計	平30	10,609	2,760	484	461	14,355	令和元	10,489	2,813	445	389	14,192	2年度9月末	2,975	1,311	280	128	4,697	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	件数	16,384	16,330	15,795	15,772	1,100	800	523	<p>説明</p> <p>がん手術件数は新型コロナウイルス感染症の影響による入院患者減に伴い、前年度の数値を下回る見込みである。</p> <p>放射線治療件数は、令和元年8月からニアックが3台体制となり、高度変調放射線治療(IMRT)を始めとする高精度な治療の実施により、地域の医療機関等からの紹介患者が増加したため、目標値を上回る見込みである。</p> <p>がんゲノム医療においては、平成31年4月に県内初となる遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設に認定された他、がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム医療提供体制の構築を進めた。</p>					4	1	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																					
胃がん	135	136	163	340	366	134																																																																																																																					
大腸がん	310	264	287	687	696	235																																																																																																																					
肝がん	133	135	115	366	260	83																																																																																																																					
肺がん	138	156	149	134	194	45																																																																																																																					
乳がん	334	343	352	449	511	163																																																																																																																					
その他	999	1,131	1,210	1,241	1,549	473																																																																																																																					
がん手術合計	2,011	2,135	2,235	3,217	3,576	1,133																																																																																																																					
手術全体	7,753	7,764	8,406	8,651	9,225	4,498																																																																																																																					
がん手術割合	25.9	27.5	26.6	37.2	38.8	25.2																																																																																																																					
年度	内視鏡検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計																																																																																																																						
平30	10,609	2,760	484	461	14,355																																																																																																																						
令和元	10,489	2,813	445	389	14,192																																																																																																																						
2年度9月末	2,975	1,311	280	128	4,697																																																																																																																						
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																																																				
件数	16,384	16,330	15,795	15,772	1,100	800	523																																																																																																																				
			31	①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の実施を図る。	<p>外来化学療法加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>10,509</td> <td>11,171</td> <td>11,680</td> <td>12,159</td> <td>12,707</td> <td>12,000以上</td> <td>6,439</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	件数	10,509	11,171	11,680	12,159	12,707	12,000以上	6,439	<p>説明</p> <p>令和2年8月、外来化学療法センターの移転リニューアルにより療養環境を整備したうえ、前日に採血を行うことで、当日の化学療法センターの利用時間の短縮を図るなど運用を工夫し、外来化学療法加算算定件数は6,439件であり、目標値である12,000件を上回る見込みである。</p> <p>今後外来化学療法センターの需要増に対して適切に対応していく。</p>	<p>県評価</p> <p>・抗がん剤療法を主とする化学療法は、外科的療法である手術、内科的療法である放射線治療と並ぶ、がん治療の3本柱の1つである。</p> <p>・日常生活を送りながら治療を行うことができる、外来化学療法センターの充実、患者の生活の質の向上に大きく寄与している。</p> <p>・令和2年8月に外来化学療法センターを本館2階へ移転リニューアルし、従来より広面積で機能性の高い施設における、外来患者の利便性向上を図っている。</p> <p>・複数診療科のがん治療認定医・がん化学療法認定看護師1名・がん薬物療法認定薬剤師6名の人的配置のもと、診療報酬上の外来化学療法加算件数は年々増加している。</p> <p>・令和2年度においても、新型コロナウイルスの影響で外来患者数全体が減少する中、外来化学療法センターの患者数は令和元年度上半期実績6,298件に対して、令和2年度上半期実績は6,439件と前年度並みの高い水準であり、今後もニーズは継続していくものと考えられる。</p> <p>・希望者に対しては採血を前日に行うことで利用時間の短縮を図る取組を行っており、増加するニーズに適切に対応できるよう、努めている。</p> <p>・移転後は、外来化学療法加算算定件数の増加による増収を見込んでおり、がん患者に対する質の高い医療の提供と経営面との両立を図っている。</p>				4	1	☆																																																																																														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																																																				
件数	10,509	11,171	11,680	12,159	12,707	12,000以上	6,439																																																																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		説明	県評価	重点	数値	評価																											
						説明	説明																																
			32	②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	<p>緩和ケアチーム介入症例数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>403</td> <td>372</td> <td>389</td> <td>418</td> <td>527</td> <td>238</td> </tr> </tbody> </table> <p>緩和ケア診療加算算定件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>812</td> <td>5,249</td> <td>2,500</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	症例数	403	372	389	418	527	238	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	件数	—	—	—	812	5,249	2,500	S	<p>平成30年7月に新設された地域がん診療連携拠点病院(高度型)の申請に向け、指定要件となる緩和医療に係る体制強化に取り組んだ。</p> <p>緩和医療科医師1名(平成30年12月)の着任により、平成31年2月に緩和ケア診療加算の施設基準を取得し、緩和ケア診療加算の算定を開始した。さらに、精神科医師1名(令和元年4月)が着任、令和元年9月に緩和ケアセンター(緩和ケアチーム)を新たに組織し、院内における緩和医療の提供体制を充実させるとともに、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んだ。</p> <p>令和2年3月27日、県内初の地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定された。</p> <p>令和2年度より、院内に就労支援出張相談窓口(ハローワーク静岡、社会保険労務士)を設置し、当院に通院中又は入院中の患者さんに対して専門スタッフによる無料の就労相談を開始した。</p> <p>緩和ケアチーム介入件数及び緩和ケア診療加算算定件数は、9月時点で2,500件と高い水準となった前年度(5,249件)と同数程度となる見込みである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」は終末期医療のみならず、近年は、がん治療におけるできるだけ早い段階からの必要性が認識されている。 ・がんに伴う身体や精神の苦痛があっても患者が自分らしく生活できるよう、緩和医療科医師と専門知識を有する看護師・薬剤師等が連携する緩和ケアチームが、身体面・精神面の症状を軽減するための医療を提供している。 ・令和元年度の精神科医師の着任により活動が活発化し、令和2年度は精神科医2人体制において、診療加算算定件数は令和元年度上半期実績2,345件に対して、令和2年度上半期実績は2,500件と高い実績を維持している。 ・また、令和2年度から、院内に就労支援出張相談窓口を設置し、通院中または入院中の患者に対して無料の就労相談を開始している。 ・就労相談の対象は主にがん患者が中心であり、がん患者は術後も抗がん剤治療に伴う通院や経過観察が長期にわたって必要となるため、会社での通常勤務が困難となる背景がある。 ・そうした患者への就労相談により、社会復帰を支援する役割を強化している。 ・地域がん診療連携拠点病院(高度型)として、今後も、高度な集学的治療や適切な緩和医療の提供が期待される。 	4		☆
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																	
症例数	403	372	389	418	527	238																																	
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																	
件数	—	—	—	812	5,249	2,500																																	
			33	③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	<p>がん相談件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>3,065</td> <td>4,587</td> <td>5,896</td> <td>4,374</td> <td>4,742</td> <td>2,389</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	がん相談	3,065	4,587	5,896	4,374	4,742	2,389	A	<p>がん相談支援センターにおいて、がんに関する専門資格を有する看護師を中心に対面及び電話による相談を実施した。</p> <p>がん相談件数は前年度と同数程度となる見込みである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がん相談支援センターには国立がん研究センター主催の相談員研修を修了した相談員2名(専従1名・専任1名)を配置している。その他、がん看護専門看護師1名(専任)、緩和ケア認定看護師1名(専任)、がん化学療法認定看護師1名(専任)、乳がん認定看護師2名(専任)が外来、病棟において相談業務を行っており、がん患者が相談しやすい体制が確保されている。 																	
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																	
がん相談	3,065	4,587	5,896	4,374	4,742	2,389																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																										
						説明	説明																																																														
			34	④ロボット支援手術の件数増加に努める	<p>ダ・ヴィンチ使用手術件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>診療科</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>77</td> <td>102</td> <td>122</td> <td>112</td> <td>104</td> <td>—</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>婦人科</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>18</td> <td>25</td> <td>—</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>消化器外科</td> <td>-</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>83</td> <td>70</td> <td>—</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>81</td> <td>112</td> <td>156</td> <td>213</td> <td>199</td> <td>200以上</td> <td>131</td> </tr> </tbody> </table> <p>ダ・ヴィンチ使用術者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>—</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	診療科	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	泌尿器科	77	102	122	112	104	—	73	婦人科	4	1	4	18	25	—	14	消化器外科	-	9	30	83	70	—	44	計	81	112	156	213	199	200以上	131	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	人数	6	6	7	11	12	—	16	<p>ダ・ヴィンチ使用手術は、患者にとっては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。 ダ・ヴィンチ使用手術件数は、目標値を上回る見込みである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年12月にダ・ヴィンチを導入以降、先端医学棟への追加整備を経て、2台体制により運用している。 平成30年度に、麻酔科医5人の増員して以降、対応領域も、泌尿器科、婦人科、消化器外科へと順次拡大し、使用手術件数も増加傾向である。 ダ・ヴィンチ手術は低侵襲というメリットがある一方、必要となる消耗品や機器の保守費用等が現在の診療報酬では賄いきれないという課題もあり、適用症例を手術部において慎重に見極めた上で実施している。 令和2年度のダ・ヴィンチ手術件数は、令和元年度より増加傾向であり、ダ・ヴィンチ使用術者数も前年度より4人増加した。 令和元年度病床機能報告によると、県内のダ・ヴィンチ配備は11病院であり、以前より増加はしているものの、依然として、総合病院の担うべき役割は大きい。 県内の医療水準の維持向上の観点から、経営面とのバランスを図りつつも、高度医療提供の使命を果たしていくことが重要である。 				4	1	○
診療科	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																														
泌尿器科	77	102	122	112	104	—	73																																																														
婦人科	4	1	4	18	25	—	14																																																														
消化器外科	-	9	30	83	70	—	44																																																														
計	81	112	156	213	199	200以上	131																																																														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																														
人数	6	6	7	11	12	—	16																																																														
			35	・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を整備する。	<p>精神科医師の着任により、令和元年7月に精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームを発足させ、認知症ケアチームと協働しながら活動を行う医療提供体制を整備した。</p>	<p>令和元年7月に精神科リエゾンチームの施設基準を取得し、活動を開始した。 現在、精神科病棟の整備方針について検討を進めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 精神科リエゾンチームは、身体の病気で入院中の患者の不安、抑うつ、せん妄等の精神症状や心理的な問題に対し適切なサポートが行えるよう、精神科医、認知症看護認定看護師、薬剤師が主治医と連携しながら活動している。 今後、精神科外来・精神科病棟の整備に際しては、機構3病院の連携体制の強化も踏まえ、検討していくことが重要である。 																																																														
			36	・先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用により、適切な治療を提供していく。	<p>先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する ①No.29 ②No.30</p> <p>HCU延患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> <td>6,872</td> <td>6,426</td> <td>2,875</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	人数	3,308	3,872	5,875	6,872	6,426	2,875	<p>手術件数は新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値を下回る見込みである。それに伴い、HCU延患者数についても入室対象となる手術が減少したため、前年度の数値を下回る見込みである。 今後も手術室との一体的かつ効率的な運用に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> MRI・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室を含む22室の手術室、20床のHCU病床を備えた先端医学棟の稼働により、平成29年度以降、手術件数は年々増加していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染対策のため、不急の手術を延期したこと等により、上半期時点では目標値を下回るペースの実績となった。 心臓血管外科における全身麻酔下での手術件数の増加により、手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つHCUの利用も年々増加していたが、同様に新型コロナウイルスの影響により、HCU延患者数は令和元年度実績より減少傾向である。 先端医学棟の稼働以降、手術待ちの状況はほぼ解消されているが、新型コロナウイルスの流行が収束した後は、引き続き手術件数の増加が見込まれることから、麻酔科医等の医師確保に継続して取り組むことが期待される。 				5	1	○																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																															
人数	3,308	3,872	5,875	6,872	6,426	2,875																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																													
						説明																																																																																		
	・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。	○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制の充実	37	①②医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	<p>医師の変則勤務状況 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,444</td> <td>1,634</td> <td>1,722</td> <td>1,717</td> <td>1,784</td> <td>958</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>935</td> <td>961</td> <td>889</td> <td>966</td> <td>1,047</td> <td>590</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>64.7</td> <td>58.8</td> <td>51.6</td> <td>56.3</td> <td>58.7</td> <td>61.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※該当者:変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者:変則勤務を行った延べ医師数</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	該当者(人)	1,444	1,634	1,722	1,717	1,784	958	利用者(人)	935	961	889	966	1,047	590	利用率(%)	64.7	58.8	51.6	56.3	58.7	61.6	A	救急患者の円滑な受入体制を維持するため、救急当直体制の運用見直し等を実施するとともに、救急救急科医師の確保に努めている。	6			○																																																	
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																		
該当者(人)	1,444	1,634	1,722	1,717	1,784	958																																																																																		
利用者(人)	935	961	889	966	1,047	590																																																																																		
利用率(%)	64.7	58.8	51.6	56.3	58.7	61.6																																																																																		
			38	③救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関し、出勤可能な市町の拡大に努める。	<p>救急科医師9名体制で稼働</p> <p>救急車受入率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当番日</td> <td>97.1</td> <td>96.5</td> <td>94.6</td> <td>97.1</td> <td>90.9</td> <td>88.2</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>93.0</td> <td>93.1</td> <td>94.9</td> <td>97.4</td> <td>92.3</td> <td>92.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>特殊疾病患者受入数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>疾病名</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>集計中</td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>368</td> <td>446</td> <td>539</td> <td>378</td> <td>380</td> <td>集計中</td> </tr> <tr> <td>急性中毒</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>30</td> <td>46</td> <td>集計中</td> </tr> <tr> <td>病院外心停止</td> <td>210</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>186</td> <td>174</td> <td>集計中</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>610</td> <td>683</td> <td>776</td> <td>608</td> <td>611</td> <td>集計中</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターカー出勤状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	当番日	97.1	96.5	94.6	97.1	90.9	88.2	全日	93.0	93.1	94.9	97.4	92.3	92.7	疾病名	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	重症熱傷	14	12	12	14	11	集計中	重症外傷	368	446	539	378	380	集計中	急性中毒	18	18	18	30	46	集計中	病院外心停止	210	207	207	186	174	集計中	計	610	683	776	608	611	集計中	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	件数	4	7	10	12	12	6	A	救急科医師数は前年度から変わっていない。救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 救急患者数及び救急車受入件数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度の数値を下回る見込みである。 救急患者数 令和2年度 5,330人 前年度比 -1,389人 救急車受入件数 令和2年度 2,511件 前年度比 -314件 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出動している。出勤件数は令和元年度の数値と同程度となる見込みである。	6			○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																		
当番日	97.1	96.5	94.6	97.1	90.9	88.2																																																																																		
全日	93.0	93.1	94.9	97.4	92.3	92.7																																																																																		
疾病名	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																		
重症熱傷	14	12	12	14	11	集計中																																																																																		
重症外傷	368	446	539	378	380	集計中																																																																																		
急性中毒	18	18	18	30	46	集計中																																																																																		
病院外心停止	210	207	207	186	174	集計中																																																																																		
計	610	683	776	608	611	集計中																																																																																		
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																		
件数	4	7	10	12	12	6																																																																																		
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①手術件数の増加 ②病床稼働率90%以上の維持 ③患者満足度の向上	39	①No.36 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8	<p>病床稼働率</p> <p>病床稼働率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般棟</td> <td>90.3</td> <td>90.4</td> <td>93.5</td> <td>93.9</td> <td>91.1</td> <td>90以上</td> <td>82.1</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>81.0</td> <td>86.1</td> <td>89.5</td> <td>89.8</td> <td>86.6</td> <td></td> <td>78.3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	一般棟	90.3	90.4	93.5	93.9	91.1	90以上	82.1	全体	81.0	86.1	89.5	89.8	86.6		78.3	B	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、病棟の一部を感染症専用として運用しているため、病床稼働率は目標値を下回る見込みである。 また、患者利便性の向上と土地貸付料の確保による経営改善を図ることなどを目的に、敷地の一部を事業者賃貸し、保険調剤薬局を整備、運営させることとし、令和2年度は、事業者の選定を行った。	3	1	△																																																						
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																	
一般棟	90.3	90.4	93.5	93.9	91.1	90以上	82.1																																																																																	
全体	81.0	86.1	89.5	89.8	86.6		78.3																																																																																	
	【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)	【目標値】県立総合病院 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合) ・ハイブリッド手術件数(総合) ・放射線治療症例数(総合) ・外来化学療法件数(総合) ・ダヴィンチ使用手術件数(総合)	-	-	-	-	-																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																															
						説明	説明																																																			
	県立こころの医療センター	(イ) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療<業務予定量> 病床数 280床 精神病床 280床 外来患者 40,322人 入院患者 55,498人	40	—	<p>入院・外来患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>53,620</td> <td>56,906</td> <td>55,144</td> <td>57,217</td> <td>54,037</td> <td>57,062</td> <td>56,827</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>39,691</td> <td>40,736</td> <td>41,140</td> <td>42,454</td> <td>39,647</td> <td>41,065</td> <td>41,610</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	入院患者数	53,620	56,906	55,144	57,217	54,037	57,062	56,827	外来患者数	39,691	40,736	41,140	42,454	39,647	41,065	41,610	B	<p>入院患者数は、後方病棟の病床を感染症陽性患者受け入れのために確保したことで、新規患者の受け入れが難しくなっている。 外来患者数は、感染症拡大防止の観点から、長期投与に努め受診間隔を空けたことも影響し、昨年度を下回る見込みである。 今後、感染症対策を講じながら、他の医療機関では対応困難な重症患者などを積極的に受け入れ、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしていく。</p>	7	1	○																								
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																			
入院患者数	53,620	56,906	55,144	57,217	54,037	57,062	56,827																																																			
外来患者数	39,691	40,736	41,140	42,454	39,647	41,065	41,610																																																			
	・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者が常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	41	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	<p>県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 当センター広報誌「ぬくもり」への掲載を不定期から年4回(季刊)に変更、配布先に就労支援施設を追加等、広報活動の強化に努めた。 当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。</p> <p>精神科救急ダイヤル件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全県圏内件数</td> <td>4,174</td> <td>3,966</td> <td>3,029</td> <td>2,784</td> <td>3,952</td> <td>1,827</td> </tr> <tr> <td>行方不明外</td> <td>3,174</td> <td>2,982</td> <td>2,365</td> <td>1,492</td> <td>2,150</td> <td>1,150</td> </tr> </tbody> </table> <p>時間外における救急診療件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>270</td> <td>331</td> <td>300</td> <td>300以上</td> <td>185</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	全県圏内件数	4,174	3,966	3,029	2,784	3,952	1,827	行方不明外	3,174	2,982	2,365	1,492	2,150	1,150	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	件数	-	-	270	331	300	300以上	185	A	<p>24時間体制で精神科救急医療相談に応じ、新たな入院患者が早期退院し社会復帰できるよう精神科救急・急性期医療の提供体制の整備に努めている。 精神科救急ダイヤルは、令和元年度実績を維持出来る見込みである。 また、精神科救急入院料算定の基準である時間外診療件数は令和2年度目標値を達成する見込みである。</p>	7	1	○											
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																				
全県圏内件数	4,174	3,966	3,029	2,784	3,952	1,827																																																				
行方不明外	3,174	2,982	2,365	1,492	2,150	1,150																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																			
件数	-	-	270	331	300	300以上	185																																																			
			42	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	<p>早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2)、急性期治療病棟(北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。</p> <p>新規患者率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急 南2</td> <td>40%以上</td> <td>71.8</td> <td>79.2</td> <td>72.6</td> <td>71.3</td> <td>73.9</td> <td>60.5</td> </tr> <tr> <td>救急 北2</td> <td>40%以上</td> <td>68.6</td> <td>76.4</td> <td>74.7</td> <td>72.4</td> <td>64.8</td> <td>59.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急 南2</td> <td>60%以上</td> <td>69.9</td> <td>81.2</td> <td>72.9</td> <td>73.0</td> <td>78.7</td> <td>89.2</td> </tr> <tr> <td>救急 北2</td> <td>60%以上</td> <td>85.5</td> <td>82.3</td> <td>87.4</td> <td>85.4</td> <td>79.7</td> <td>84.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	施設基準	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	救急 南2	40%以上	71.8	79.2	72.6	71.3	73.9	60.5	救急 北2	40%以上	68.6	76.4	74.7	72.4	64.8	59.9	区分	施設基準	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	救急 南2	60%以上	69.9	81.2	72.9	73.0	78.7	89.2	救急 北2	60%以上	85.5	82.3	87.4	85.4	79.7	84.2	A	<p>精神科救急入院料の施設基準を維持するため、新規入院患者が90日以内に退院できるよう早期退院を促進するとともに、退院後の地域定着支援を実施している。 令和2年度の新規患者3ヶ月以内在宅移行率は増加し、救急病棟や急性期治療病棟の役割を適切に果たしている。</p>			
区分	施設基準	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																			
救急 南2	40%以上	71.8	79.2	72.6	71.3	73.9	60.5																																																			
救急 北2	40%以上	68.6	76.4	74.7	72.4	64.8	59.9																																																			
区分	施設基準	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																			
救急 南2	60%以上	69.9	81.2	72.9	73.0	78.7	89.2																																																			
救急 北2	60%以上	85.5	82.3	87.4	85.4	79.7	84.2																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																															
						説明	説明																																																																			
	・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。	○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	43	①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 高度・専門医療の積極的な実施	m-ECTの治療を本年度も継続して積極的に実施している。 m-ECT実施件数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延件数(件)</td> <td>396</td> <td>405</td> <td>469</td> <td>533</td> <td>570</td> <td>700以上</td> <td>351</td> </tr> <tr> <td>実患者数</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>66</td> <td>70</td> <td>-</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>中部地区</td> <td>47</td> <td>51</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>-</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>(静岡市)</td> <td>32</td> <td>45</td> <td>49</td> <td>43</td> <td>50</td> <td>-</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>東部地区</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>西部地区</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	延件数(件)	396	405	469	533	570	700以上	351	実患者数	53	54	60	66	70	-	34	中部地区	47	51	54	58	62	-	33	(静岡市)	32	45	49	43	50	-	25	東部地区	4	3	4	3	5	-	1	西部地区	1	1	3	4	2	-	1	その他	1	0	0	1	1	-	0	A	難治性の重度精神疾患患者への先進的治療であるm-ECTについては、他の医療機関では対応困難な患者を積極的に受け入れ実施している。 なお、m-ECTの実施については、麻酔科医を外部の医師に委託しているが、問題なく実施できている。	7	1	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																			
延件数(件)	396	405	469	533	570	700以上	351																																																																			
実患者数	53	54	60	66	70	-	34																																																																			
中部地区	47	51	54	58	62	-	33																																																																			
(静岡市)	32	45	49	43	50	-	25																																																																			
東部地区	4	3	4	3	5	-	1																																																																			
西部地区	1	1	3	4	2	-	1																																																																			
その他	1	0	0	1	1	-	0																																																																			
			44	①先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。	平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、現在64名に対して継続投与中である。 クロザピンによる治療体制が整い、平成22年4月27日、クロザピン適正使用委員会において、CPMS(クロザリン患者モニタリングサービス)登録機関として承認された。 静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。 クロザピン投与患者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>32</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>55</td> <td>60</td> <td>50以上</td> <td>64</td> </tr> </tbody> </table>	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	患者数	32	39	44	55	60	50以上	64	A	他の医療機関では対応困難な難治性の統合失調症に高い効果を示す先端薬物療法を積極的に実施しており、昨年度実績及び年度目標を上回った。実施にあたり、院内で患者の副作用のモニタリングを行い適正使用による安全管理体制の担保に努めている。	7	1	○																																																
項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																			
患者数	32	39	44	55	60	50以上	64																																																																			
			45	①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。 心理教育参加者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>172</td> <td>206</td> <td>230</td> <td>210</td> <td>154</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> 心理教育研修会参加者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>69</td> <td>142</td> <td>153</td> <td>136</td> <td>66</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	参加者数	172	206	230	210	154	45	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	参加者数	69	142	153	136	66	0	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による外部活動縮小の影響で件数は減少しているが、心理・社会的治療についての取組について規模を縮小した形で継続的に実施している。																																							
項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																				
参加者数	172	206	230	210	154	45																																																																				
項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																				
参加者数	69	142	153	136	66	0																																																																				
	・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようにするための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	46	①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。平成22年2月の支援開始以来延べ25名の支援活動を実施し、うち13名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、2名は転院により支援終了、2名は死亡により終了。令和2年度9月末現在、外来患者6名、入院患者2名の支援を継続している。 ACT実施状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">対象者</td> <td>外来</td> <td>5人</td> <td>7人</td> <td>9人</td> <td>11人</td> <td>5人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>2人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活動状況</td> <td>外来</td> <td colspan="5">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td colspan="5">多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	対象者	外来	5人	7人	9人	11人	5人	0人	入院	2人	0人	0人	0人	2人	0人	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス						A	ACTチームによる退院支援と手厚いサポート体制による、退院後の生活支援を行っており、地域移行の促進や症状の安定化等から支援継続中の対象者の減少に繋がった。 なお、ACTによる支援対象者については、毎月開催している退院促進委員会において支援対象者を抽出し、令和2年度、外来患者で新規1名があり新たな支援に向けた取組を行っている。	8		○																											
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																				
対象者	外来	5人	7人	9人	11人	5人	0人																																																																			
	入院	2人	0人	0人	0人	2人	0人																																																																			
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																																								
	入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス																																																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																			
						説明																								
	・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。	○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与	47	①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	平成21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、平成23年3月末には12床への増床が完了した。増床完了後対象者の受入が進んだ結果、平成23年8月以降ほぼ満床の状態が続いており、高い利用率で推移していたが、令和元年度は退院促進により退院患者が多く、かつ、入院対象者が県内にはいなかったため、県外の対象者を受け入れたことで、令和2年度は90%以上に回復し、高い利用率を維持している。 医療観察法病棟の稼働状況 (単位:床・%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床数(床)</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>97.4</td> <td>99.1</td> <td>96.9</td> <td>96.6</td> <td>84.1</td> <td>96.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)	97.4	99.1	96.9	96.6	84.1	96.4	令和元年度は、病床稼働率が一時的に減少したが、所轄行政機関の要請に応じ、県外対象者も積極的に受け入れたことから令和2年度は90%を超えた。 この医療センターでは医師、薬剤師、看護師、精神保健福祉士等が講師となり、医療従事者向けのカリキュラムとして企画・運営を行う「医療観察法初任者研修」を定期的に開催しているが、感染防止対策として令和2年度は個別のビデオ学習とした。 また、厚生局を主催とした「医療観察法指定通院医療機関従事者実地研修」については今年度の開催が未定となっている。 しかし、今後も研修会の開催など医療観察法の理解と協力体制の構築に努める。	令和2年度は、心神喪失等の状態で重大な他害行為を犯してしまった人に対して、必要な医療提供や社会復帰促進を図るための法律であり、この医療センターは、県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として、平成21年より2床で運用開始、平成23年より現行の12床で稼働している。 ・入院は地方裁判所の処遇決定のもと、厚生労働省からの要請に基づき行われるが、退院後は地域社会における適切な処遇が必要となることから、通院医療提供、生活保護、社会復帰支援、訪問指導等を担う関連行政機関との連携も重要である。 ・令和元年度から医療観察法初任者研修を実施し、入院受入れから退院までの患者との関わり方について、この医療センターの医師・薬剤師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士などが講師となり、医療従事者向けのカリキュラムとして企画・運営している。令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、過去に実施した研修の収録ビデオにより研修を実施しており、医療観察法の理解の裾野拡大に努めている。 ・稼働率の増減は、厚生労働省からの入院要請の有無次第であるが、令和2年度は県外の対象患者についても、要請に応じて積極的に受け入れるなど、病床稼働率の向上に取り組んでいる。	9	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																								
病床数(床)	12	12	12	12	12	12																								
病床利用率(%)	97.4	99.1	96.9	96.6	84.1	96.4																								
	・認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応を図る。	○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び、小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組	48	①総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供体制を整備する。 ・小児から成人への移行期における精神科医療の提供体制の整備を図る。 ・総合病院、こども病院などと連携し、児童精神分野における精神科医療の提供体制の整備を図る。	令和2年4月より総合病院へ精神科医師1名を追加配置し、医師2名の体制とし、身体合併症の精神科リエン機能を強化するとともに、病棟整備に向けた検討会に参画している。 思春期病棟の整備については、3病棟の精神科医療提供体制のあり方を踏まえて協議している。	県立3病院における精神科医療提供体制の整備を検討していく中で、小児から成人への移行期における医療提供体制のあり方を協議していく。 総合病院の精神科医が2名体制となり、リエン機能がより強化された。	・総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供等のため、令和2年度はこの医療センターから総合病院に精神科医師1名を増員して配置し、精神科医計2名体制で、精神科リエン機能のほかにも、認知症や緩和ケアのチーム医療の充実にも効果を上げている。 ・この医療センターの休床中の108床のうち、南3病棟の30床については、児童・思春期精神科入院医療管理料を算定できる病床の運用を、さらに15床程度は総合病院に移管し、身体合併症患者の入院治療を行うなど、病院間の機能分化について検討を進めていく予定である。 ・身体合併症や移行期医療等に対して患者を基点とした医療を提供するため、今後の病床活用についても、従来からの病院の専門領域を横断して連携体制が確保できるよう、将来の医療需要等を見据え、検討していくことが期待される。	16	○																					
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①思春期病棟の整備に向けた検討 ②クロザピン投与患者数の増加 ③病床稼働率85%以上の維持 ④患者満足度の向上	49	①No.48 ②No.44 ③常時、救急患者を受け入れる体制の維持と、多職種連携による早期退院促進による効率的な病院運営に努める。 ④No.8	病床稼働率 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率</td> <td>83.9</td> <td>90.6</td> <td>87.9</td> <td>91.1</td> <td>85.6</td> <td>85以上</td> <td>85.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	稼働率	83.9	90.6	87.9	91.1	85.6	85以上	85.2	効率的な病床運営や新規患者3ヶ月以内在宅移行の促進等により、令和2年度の目標は達成する見込みである。	・新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床確保等の影響を受け、病床稼働率は令和元年度より減少しているが、目標値である85%以上を確保している。 ※(参考)コロナ病床抜き稼働率:85.8%	7	1	○				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																							
稼働率	83.9	90.6	87.9	91.1	85.6	85以上	85.2																							
	【目標値】 ・クロザピン投与患者数(ここ) ・病床稼働率(ここ) ・患者満足度[外来](ここ)	【目標値】県立この医療センター ・クロザピン投与患者数(ここ) ・病床稼働率(ここ) ・患者満足度[外来](ここ) ・時間外診療件数(ここ) ・m-ECT実施件数(ここ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																											
						説明																																																																																																																																																
	県立こども病院	(ウ) 県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。また、小児期から成人期への移行期医療に取組む。 県民に提供する医療<業務予定量> 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 113,916人 入院患者 77,212人	50	—	入院・外来患者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>78,059</td> <td>77,860</td> <td>75,586</td> <td>75,395</td> <td>75,736</td> <td>74,076</td> <td>31,494</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>103,282</td> <td>104,666</td> <td>105,763</td> <td>110,185</td> <td>111,874</td> <td>110,953</td> <td>48,199</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	入院患者数	78,059	77,860	75,586	75,395	75,736	74,076	31,494	外来患者数	103,282	104,666	105,763	110,185	111,874	110,953	48,199	B	新型コロナウイルス感染症による影響から、患者数は目標を下回る見込みである。県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療の提供に努める。	10	1	○																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																																																																															
入院患者数	78,059	77,860	75,586	75,395	75,736	74,076	31,494																																																																																																																																															
外来患者数	103,282	104,666	105,763	110,185	111,874	110,953	48,199																																																																																																																																															
	・小児重症心疾患患者に対してハイブリッド手術室等の先進設備を活用し、当時高度な先進的治療を提供する。小児心疾患治療の先進的施設として専門医等の育成に努める。	○小児重症心疾患患者に対し、当時高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ常時対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実 ③小児心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ④カテーテル室の2室化工事の実施。	51	①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児科(NICU)・小児集中治療科(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③補助人工心臓装置の活用を図る。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤カテーテル室の2室化工事の実施。	平成28年に設置した循環器病棟に準重症患者対応病室は、順調に運用されている。 平成29年1月に自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入し、活用した。今後も効果的な運用を継続していく。 心臓カテーテル治療実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>156</td> <td>170</td> <td>200</td> <td>179</td> <td>206</td> <td>200以上</td> <td>83</td> </tr> </tbody> </table> ハイブリッド手術実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> CCU稼働率 (単位:人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>3,745</td> <td>3,297</td> <td>2,939</td> <td>3,063</td> <td>3,176</td> <td>1,577</td> <td>1,577</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>85.3</td> <td>87.4</td> <td>80.5</td> <td>83.9</td> <td>86.8</td> <td>86.2</td> <td>86.2</td> </tr> </tbody> </table> 循環器センターにおける研修医の人数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> 小児用補助人工心臓装置の使用状況 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> 心エコー画像遠隔診断実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2目標</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	実施件数	156	170	200	179	206	200以上	83	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	件数	12	12	6	8	5	3	3	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	入院患者数	3,745	3,297	2,939	3,063	3,176	1,577	1,577	病床稼働率	85.3	87.4	80.5	83.9	86.8	86.2	86.2	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	人数	7	7	6	5	9	3	3	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	件数	-	1	1	1	0	0	0	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末	施設数	4	4	4	4	4	4	4	症例数	7	5	7	5	3	0	0	B	心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れている。 また、研修医も着実に受け入れており、小児心疾患治療の先進的施設として、高度な循環器疾患医療の専門医の育成にも努めている。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で紹介患者の減少や手術を抑制したことにより、ハイブリッド手術室における心臓カテーテル治療は目標件数を下回る見込みである。 例年カテーテル治療件数が高い水準で推移しているため、血管造影装置の増設のための検討を始めている。	10	1	○																												
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																																																																															
実施件数	156	170	200	179	206	200以上	83																																																																																																																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																																																																															
件数	12	12	6	8	5	3	3																																																																																																																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																																																																															
入院患者数	3,745	3,297	2,939	3,063	3,176	1,577	1,577																																																																																																																																															
病床稼働率	85.3	87.4	80.5	83.9	86.8	86.2	86.2																																																																																																																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																																																																															
人数	7	7	6	5	9	3	3																																																																																																																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																																																																															
件数	-	1	1	1	0	0	0																																																																																																																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度9月末																																																																																																																																															
施設数	4	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																															
症例数	7	5	7	5	3	0	0																																																																																																																																															
・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるほか、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。	○地域の医療機関と連携してハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対する高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備 ②新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施	①最新式の超音波診断装置を導入する。 ②必要に応じてNICU内での手術を継続実施する。	52	①最新式の超音波診断装置を導入する。 ②必要に応じてNICU内での手術を継続実施する。	産科入院患者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>7,024</td> <td>6,207</td> <td>6,395</td> <td>5,850</td> <td>5,810</td> <td>1,996</td> </tr> </tbody> </table> 周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績 (単位:回、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修会等回数</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>743</td> <td>637</td> <td>439</td> <td>373</td> <td>377</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> NICU診療実績 (単位:人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>5,927</td> <td>6,411</td> <td>6,311</td> <td>5,519</td> <td>5,250</td> <td>2,543</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>95.3</td> <td>97.6</td> <td>96.1</td> <td>84.0</td> <td>79.7</td> <td>77.2</td> </tr> </tbody> </table> NICU診療実績 (単位:人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>4,679</td> <td>4,855</td> <td>4,536</td> <td>4,646</td> <td>4,723</td> <td>2,355</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>71.0</td> <td>73.9</td> <td>69.0</td> <td>70.7</td> <td>71.7</td> <td>71.5</td> </tr> </tbody> </table> NICU診療実績 (単位:人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>2,099</td> <td>2,007</td> <td>2,068</td> <td>1,879</td> <td>1,907</td> <td>728</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>95.5</td> <td>91.6</td> <td>94.4</td> <td>85.8</td> <td>86.8</td> <td>66.3</td> </tr> </tbody> </table> 新生児出生体重別入院患者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>体重(g)</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>500未満</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>500~1,000</td> <td>26</td> <td>36</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>41</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>1,000~1,500</td> <td>36</td> <td>22</td> <td>28</td> <td>26</td> <td>25</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>1,500以上</td> <td>160</td> <td>144</td> <td>143</td> <td>165</td> <td>139</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>225</td> <td>209</td> <td>202</td> <td>224</td> <td>213</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	入院患者数	7,024	6,207	6,395	5,850	5,810	1,996	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	研修会等回数	14	10	9	8	9	0	参加者数	743	637	439	373	377	0	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	入院患者数	5,927	6,411	6,311	5,519	5,250	2,543	病床稼働率	95.3	97.6	96.1	84.0	79.7	77.2	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	入院患者数	4,679	4,855	4,536	4,646	4,723	2,355	病床稼働率	71.0	73.9	69.0	70.7	71.7	71.5	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	入院患者数	2,099	2,007	2,068	1,879	1,907	728	病床稼働率	95.5	91.6	94.4	85.8	86.8	66.3	体重(g)	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	500未満	3	7	3	4	8	3	500~1,000	26	36	28	29	41	8	1,000~1,500	36	22	28	26	25	12	1,500以上	160	144	143	165	139	71	合計	225	209	202	224	213	94	A	例年、地域医療機関を対象とした研修会、検討会を定期的に開催し、地域の周産期医療のレベルアップを図っているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は未実施である。 NICUの入院患者数は一定の水準にある。稼働率が減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響と、これまで特定入院料の算定期間を超えてNICUで治療していた長期入院患者を転床させることで、病床稼働の効率化を図ったためである。 他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、超低出生体重児を数多く受け入れている。	11		○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																
入院患者数	7,024	6,207	6,395	5,850	5,810	1,996																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																
研修会等回数	14	10	9	8	9	0																																																																																																																																																
参加者数	743	637	439	373	377	0																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																
入院患者数	5,927	6,411	6,311	5,519	5,250	2,543																																																																																																																																																
病床稼働率	95.3	97.6	96.1	84.0	79.7	77.2																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																
入院患者数	4,679	4,855	4,536	4,646	4,723	2,355																																																																																																																																																
病床稼働率	71.0	73.9	69.0	70.7	71.7	71.5																																																																																																																																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																
入院患者数	2,099	2,007	2,068	1,879	1,907	728																																																																																																																																																
病床稼働率	95.5	91.6	94.4	85.8	86.8	66.3																																																																																																																																																
体重(g)	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																
500未満	3	7	3	4	8	3																																																																																																																																																
500~1,000	26	36	28	29	41	8																																																																																																																																																
1,000~1,500	36	22	28	26	25	12																																																																																																																																																
1,500以上	160	144	143	165	139	71																																																																																																																																																
合計	225	209	202	224	213	94																																																																																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価	県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																
		・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。		①②静岡県小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ③小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、小児がん診療の更なる充実を図る。 ④県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。 ⑤AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催する。 ⑥がん公開講座を開催する。 ⑦北5病棟改修工事の実施計画を策定する。	血液腫瘍科症例数実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>入院</td><td>9,613</td><td>8,301</td><td>7,977</td><td>8,656</td><td>7,849</td><td>3,445</td></tr> <tr><td>外来</td><td>3,533</td><td>3,691</td><td>3,711</td><td>3,601</td><td>3,713</td><td>1,584</td></tr> <tr><td>計</td><td>13,146</td><td>11,992</td><td>11,688</td><td>12,257</td><td>11,562</td><td>5,029</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>骨髄移植</td><td>4</td><td>4</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>臍帯血</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td></tr> <tr><td>自家末梢血</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td><td>4</td><td>4</td><td>0</td></tr> <tr><td>同種末梢血</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>計</td><td>13</td><td>11</td><td>10</td><td>14</td><td>10</td><td>3</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>登録件数</td><td>49</td><td>61</td><td>58</td><td>47</td><td>56</td><td>50</td></tr> </table> <p>平成31年2月には厚生労働省から全国15施設の一つとして小児がん拠点病院の指定を受けた。令和元年8月には、県と協働して医療従事者向けに作成した「小児がん診断ハンドブック(静岡県版)」を医療機関へ配付した。</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>回数</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>回数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>件数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>回数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>2</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	入院	9,613	8,301	7,977	8,656	7,849	3,445	外来	3,533	3,691	3,711	3,601	3,713	1,584	計	13,146	11,992	11,688	12,257	11,562	5,029	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	骨髄移植	4	4	2	5	2	2	臍帯血	0	2	1	3	3	1	自家末梢血	8	5	7	4	4	0	同種末梢血	1	0	0	2	1	0	計	13	11	10	14	10	3	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	登録件数	49	61	58	47	56	50	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	回数	2	3	2	3	3	2	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	回数	1	1	1	1	1	2	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	件数	-	-	-	-	1	0	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	回数	-	-	-	-	-	2	53				小児がんは成人と比較して発症数の少なからず発見、診療が専門機関でない困難であり、こども病院は国、県の小児がん拠点病院として患者数等の増減はあるものの診療に組み多くの患者を受入れている。 発達段階での継続した治療が必要であるため、長期フォローアップが必要であり、今後もAYA世代がん患者への研修会実施等により、支援の拡充を図っていく。 平成31年4月に小児がん拠点病院の指定以降、小児がん相談室の設置、院内がん登録中級認定者の専任化等により体制整備に努めたほか、AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催している。また、令和元年12月にはがんゲノム医療連携病院となり、がんゲノム医療についても取組を開始している。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、がん公開講座は行っていないものの引き続き病室のクリーン度アップなど機能強化を図っていく。	・小児がんは、15歳以下の小児に発生する悪性新生物であり、白血病や脳(脊髄)腫瘍等が多数を占める。 ・成人がんに多い臓器がんとは異なる疾患構成であることや、未分化で急速に進行する腫瘍が多いこと、発育途中であるが故の後年における合併症等が特徴であり、継続した治療、移行期医療が重要となる。 ・こども病院は、国の指定する小児がん拠点病院として、血液腫瘍に対する骨髄等の移植治療など小児がんに対する集学的な治療を行っている。 ・思春期や若年成人期を指すAYA世代患者への相談対応や生殖機能温存に向けた相談対応等を強化するため、医療従事者や患者家族等に対してAYA世代がんの治療方法をテーマとした研修会を開催した。新型コロナウイルスの影響で、令和2年度はがん公開講座を開催できていないが、小児がん拠点病院として、体制整備や医療水準の向上に取り組んでいる。 ・また、令和元年12月にはがんゲノム医療連携指定病院となり、令和2年度はがんゲノムのパネル検査を開始した。 ・小児がん登録件数については目標値未達成であるが、がん患者の登録を確実にを行った結果のため、やむを得ない部分がある。 ・今後も、小児がん拠点病院として、院内がん登録中級認定者資格を有する専任職員の確保に努め、診療体制の整備、地域医療機関との連携、AYA世代の成人移行・長期フォローアップへの対応など、更なる機能強化を図ることが期待される。	12	1	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
入院	9,613	8,301	7,977	8,656	7,849	3,445																																																																																																																																																				
外来	3,533	3,691	3,711	3,601	3,713	1,584																																																																																																																																																				
計	13,146	11,992	11,688	12,257	11,562	5,029																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
骨髄移植	4	4	2	5	2	2																																																																																																																																																				
臍帯血	0	2	1	3	3	1																																																																																																																																																				
自家末梢血	8	5	7	4	4	0																																																																																																																																																				
同種末梢血	1	0	0	2	1	0																																																																																																																																																				
計	13	11	10	14	10	3																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
登録件数	49	61	58	47	56	50																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
回数	2	3	2	3	3	2																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
回数	1	1	1	1	1	2																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
件数	-	-	-	-	1	0																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
回数	-	-	-	-	-	2																																																																																																																																																				
		・重篤な小児救命救急患者を常時受け入れ可能な体制を維持・強化し、救急医療全般にわたって地域の医療機関と連携して受け入れる体制を整備する。		①PICU(小児集中治療センター)・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ①小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受け入れ可能な体制を維持・充実させる。 ③院内の小児救急専門スタッフ(医師、看護師)育成に努める。	小児救命救急センターの患者数 (単位:人、%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>6,665</td><td>5,508</td><td>5,409</td><td>5,661</td><td>5,916</td><td>1,726</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>2,565</td><td>2,462</td><td>2,390</td><td>2,416</td><td>2,416</td><td>1,054</td></tr> <tr><td>外来延患者数</td><td>87.6</td><td>84.3</td><td>81.8</td><td>87.0</td><td>82.5</td><td>72</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>回数</td><td>45</td><td>35</td><td>34</td><td>41</td><td>33</td><td>15</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>回数</td><td>291</td><td>298</td><td>268</td><td>274</td><td>291</td><td>98</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>医師(専任含む)</td><td>12</td><td>9</td><td>11</td><td>8</td><td>9</td><td>11</td></tr> <tr><td>看護師</td><td>31</td><td>30</td><td>32</td><td>30</td><td>29</td><td>28</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	入院延患者数	6,665	5,508	5,409	5,661	5,916	1,726	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	入院患者数	2,565	2,462	2,390	2,416	2,416	1,054	外来延患者数	87.6	84.3	81.8	87.0	82.5	72	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	回数	45	35	34	41	33	15	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	回数	291	298	268	274	291	98	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	医師(専任含む)	12	9	11	8	9	11	看護師	31	30	32	30	29	28	54			小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救急センターを中心に、24時間365日を通して、軽症から重症まで小児救急患者を多く受け入れている。 令和2年度は新型コロナウイルスの影響で患者数は減少している。 ER開設以降、富士富士志、志太橋原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補完している。 PICU向けの医師確保に努め、専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。	・小児救命救急センターの指定を受けているPICU(小児集中治療室)と小児救急センターを中心に、24時間365日を通して小児救急患者を受け入れている。診療実績も維持され、重篤な小児救命救急患者を受け入れる体制が確保されている。 ・ドクターカー・ドクターヘリの出動・搬送は、交通事故による負傷、病態の急変による搬送などのほか、産科クリニック等で出生した重篤な状況の新生児のこども病院への搬送等での使用が多い。 ・令和2年度は新型コロナウイルスの影響による、外出控えや感染症患者の減少により、小児救急センター患者数・小児救急センター(ER)診療実績が減少している。 ・令和2年度はPICU配置医師を2人増員しており、体制の充実を図っている。 ・PICU内での循環器系疾患の研修機会の確保が難しいことが医師確保上の課題にもなっていたことから、マスタープラン(施設改修計画)と整合を図りつつICUの再編を検討することが求められる。 ・また医師の時間外労働規制が導入される令和6年度やさらにその先を見据えた救急医療体制の確保に向けて、更なる医師確保と勤務環境改善のための制度・工夫の充実が求められる。	13		○																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
入院延患者数	6,665	5,508	5,409	5,661	5,916	1,726																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
入院患者数	2,565	2,462	2,390	2,416	2,416	1,054																																																																																																																																																				
外来延患者数	87.6	84.3	81.8	87.0	82.5	72																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
回数	45	35	34	41	33	15																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
回数	291	298	268	274	291	98																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
医師(専任含む)	12	9	11	8	9	11																																																																																																																																																				
看護師	31	30	32	30	29	28																																																																																																																																																				
		・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。		①児童精神科医療について、総合病院、こころの医療センターなどと連携し、体制の充実を図る。	こころの診療科診療実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>9,455</td><td>10,086</td><td>10,864</td><td>10,011</td><td>9,445</td><td>3,195</td></tr> <tr><td>入院新患者数</td><td>54</td><td>54</td><td>58</td><td>57</td><td>50</td><td>32</td></tr> <tr><td>外来延患者数</td><td>12,532</td><td>12,311</td><td>12,607</td><td>12,376</td><td>11,604</td><td>5,085</td></tr> <tr><td>外来初診患者数</td><td>492</td><td>477</td><td>502</td><td>466</td><td>514</td><td>283</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>東部</td><td>732</td><td>755</td><td>766</td><td>779</td><td>759</td><td>601</td></tr> <tr><td>中部</td><td>1,094</td><td>1,077</td><td>1,157</td><td>1,190</td><td>1,227</td><td>1,077</td></tr> <tr><td>西部</td><td>52</td><td>54</td><td>59</td><td>56</td><td>59</td><td>46</td></tr> <tr><td>県外</td><td>7</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>14</td><td>10</td></tr> <tr><td>合計</td><td>1,885</td><td>1,896</td><td>1,997</td><td>2,035</td><td>2,059</td><td>1,734</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	入院延患者数	9,455	10,086	10,864	10,011	9,445	3,195	入院新患者数	54	54	58	57	50	32	外来延患者数	12,532	12,311	12,607	12,376	11,604	5,085	外来初診患者数	492	477	502	466	514	283	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	東部	732	755	766	779	759	601	中部	1,094	1,077	1,157	1,190	1,227	1,077	西部	52	54	59	56	59	46	県外	7	10	15	10	14	10	合計	1,885	1,896	1,997	2,035	2,059	1,734	55			各地域の医療機関、消防機関が参加するメディカルコントロール協議会に当該も参加している。 救急関係研修会等開催実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度9月末</th></tr> <tr><td>小児救命救急研究会</td><td>153</td><td>150</td><td>153</td><td>161</td><td>86</td><td>0</td></tr> <tr><td>救急救命士再教育病院実習</td><td>2</td><td>6</td><td>10</td><td>6</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	小児救命救急研究会	153	150	153	161	86	0	救急救命士再教育病院実習	2	6	10	6	0	0	56			県内の児童精神科医療の中核機関として、中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れている。令和2年度は新型コロナウイルスによる休校措置の影響もあり患者数が減少している。	・児童精神科医療に対して、児童精神科病棟(36床)において、外来から入院まで一貫した治療体制を整えている。 ・令和2年度は緊急事態宣言による休校措置により、不登校となる児童が減るなど精神科治療を要する児童が減ったため、こころの診療科における患者数は減少しているが、県内全域から患者を受け入れており、患者家族の抵抗感が少ない受診体制の確立、専門スタッフによるきめ細やかな医療サービスの提供、急増する子どもの心の問題に関する地域連携の強化に取り組んでいる。																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
入院延患者数	9,455	10,086	10,864	10,011	9,445	3,195																																																																																																																																																				
入院新患者数	54	54	58	57	50	32																																																																																																																																																				
外来延患者数	12,532	12,311	12,607	12,376	11,604	5,085																																																																																																																																																				
外来初診患者数	492	477	502	466	514	283																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
東部	732	755	766	779	759	601																																																																																																																																																				
中部	1,094	1,077	1,157	1,190	1,227	1,077																																																																																																																																																				
西部	52	54	59	56	59	46																																																																																																																																																				
県外	7	10	15	10	14	10																																																																																																																																																				
合計	1,885	1,896	1,997	2,035	2,059	1,734																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																				
小児救命救急研究会	153	150	153	161	86	0																																																																																																																																																				
救急救命士再教育病院実習	2	6	10	6	0	0																																																																																																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																																								
						説明																																																																																																																																																																																													
2 医療従事者の確保及び質の向上 各病院及び地域の医療水準の維持・向上を図るため、医師、看護師等医療従事者の確保に努めること。また、優秀な人材を育成するため、院内研修及び国内外との交流による研修機能の充実を図ること。さらに、医療従事者が働きやすい環境の整備に努めること。	2 医療従事者の確保及び質の向上 県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制や働きやすい環境の整備に努めることにより、優秀な人材の確保を行う。また、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の育成に積極的に取り組む。	2 医療従事者の確保及び質の向上	-	-	-	-																																																																																																																																																																																													
						説明																																																																																																																																																																																													
			61	・業務運営に必要な人材の確保に努める。	<p>職員の確保状況(各年度4月1日現在) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度定数(2年度9月末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>医師</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>157</td> <td>165</td> <td>179</td> <td>184</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>歯医 師</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>806</td> <td>807</td> <td>829</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>医師</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>歯医 師</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>118</td> <td>120</td> <td>124</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">正規職員</td> <td>医師</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>90</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>歯医 師</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>449</td> <td>444</td> <td>436</td> <td>444</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>医師</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>260</td> <td>269</td> <td>283</td> <td>288</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>歯医 師</td> <td>1,249</td> <td>1,315</td> <td>1,368</td> <td>1,363</td> <td>1,397</td> <td>1,260</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計</td> <td>医師</td> <td>96</td> <td>96</td> <td>93</td> <td>90</td> <td>91</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>歯医 師</td> <td>63</td> <td>71</td> <td>69</td> <td>68</td> <td>64</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有期職員</td> <td>医師</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>歯医 師</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>医師</td> <td>52</td> <td>51</td> <td>49</td> <td>55</td> <td>58</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>歯医 師</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計</td> <td>医師</td> <td>149</td> <td>152</td> <td>147</td> <td>148</td> <td>152</td> <td>148</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>歯医 師</td> <td>89</td> <td>98</td> <td>94</td> <td>92</td> <td>87</td> <td>88</td> </tr> </tbody> </table> <p>※有期職員は、正規職員の状況により必要人員を確保するため、目標は設定しない。</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度定数(2年度9月末)	総合	医師	135	144	157	165	179	184	歯科医師	3	4	3	3	4	6	歯医 師	678	748	804	806	807	829	こころ	医師	12	12	12	14	14	13	歯科医師	-	-	-	-	-	-	歯医 師	110	114	115	118	120	124	正規職員	医師	94	89	91	90	90	91	歯科医師	1	1	1	1	1	1	歯医 師	461	453	449	444	436	444	こども	医師	241	245	260	269	283	288	歯科医師	4	5	4	4	5	7	歯医 師	1,249	1,315	1,368	1,363	1,397	1,260	計	医師	96	96	93	90	91	96	歯科医師	-	-	-	-	-	-	歯医 師	63	71	69	68	64	62	有期職員	医師	1	5	5	3	3	4	歯科医師	-	-	-	-	-	-	歯医 師	11	14	13	11	9	10	こども	医師	52	51	49	55	58	48	歯科医師	-	-	-	-	-	-	歯医 師	15	13	12	13	14	16	計	医師	149	152	147	148	152	148	歯科医師	-	-	-	-	-	-	歯医 師	89	98	94	92	87	88	<p>医師については、派遣医局等への働きかけ等を行ったが、現時点で医師について定数を満たない。現在、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。</p> <p>看護師の募集についても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中、試験をWeb面談で行ったほか、修学資金の貸与、養成校訪問に代わるWeb会議など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げている。</p> <p>なお、医師、看護師確保について、一部目標定数に採用が達していないものがある。看護師については、新型コロナウイルス感染症の影響で患者数が減少しているため、定数どおり確保するか、慎重に採用を行っている。</p>	<p>・職員数の管理においては、地方独立行政法人としての機動性・柔軟性を発揮しつつも収支状況を勘案して臨機応変に対応している。</p> <p>・各病院ともに目標値の医師数(正規職員)には達していないが、不足する人員については、有期職員の採用等により対応している。</p> <p>・一方で新型コロナウイルスの影響で患者が減少していることもあり、現状を踏まえた適正な人員規模を検討しつつ、職員採用に取り組んでいる。</p> <p>・今後も、救急医療や小児・産産期医療等の現場における医師の働き方改革の影響や、人件費の増加が経営状況に及ぼす影響等を注視しつつ、安全で質の高い医療の提供の根幹となる医療従事者の確保が期待される。</p>				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度定数(2年度9月末)																																																																																																																																																																																												
総合	医師	135	144	157	165	179	184																																																																																																																																																																																												
	歯科医師	3	4	3	3	4	6																																																																																																																																																																																												
	歯医 師	678	748	804	806	807	829																																																																																																																																																																																												
こころ	医師	12	12	12	14	14	13																																																																																																																																																																																												
	歯科医師	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																												
	歯医 師	110	114	115	118	120	124																																																																																																																																																																																												
正規職員	医師	94	89	91	90	90	91																																																																																																																																																																																												
	歯科医師	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																												
	歯医 師	461	453	449	444	436	444																																																																																																																																																																																												
こども	医師	241	245	260	269	283	288																																																																																																																																																																																												
	歯科医師	4	5	4	4	5	7																																																																																																																																																																																												
	歯医 師	1,249	1,315	1,368	1,363	1,397	1,260																																																																																																																																																																																												
計	医師	96	96	93	90	91	96																																																																																																																																																																																												
	歯科医師	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																												
	歯医 師	63	71	69	68	64	62																																																																																																																																																																																												
有期職員	医師	1	5	5	3	3	4																																																																																																																																																																																												
	歯科医師	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																												
	歯医 師	11	14	13	11	9	10																																																																																																																																																																																												
こども	医師	52	51	49	55	58	48																																																																																																																																																																																												
	歯科医師	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																												
	歯医 師	15	13	12	13	14	16																																																																																																																																																																																												
計	医師	149	152	147	148	152	148																																																																																																																																																																																												
	歯科医師	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																												
	歯医 師	89	98	94	92	87	88																																																																																																																																																																																												
			62	・研修医の確保に努める。	<p>初期臨床研修医数(総合病院) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>20(2)</td> <td>21(2)</td> <td>22(2)</td> <td>24(3)</td> <td>23(1)</td> <td>21(4)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>22(2)</td> <td>19(2)</td> <td>21(2)</td> <td>20(2)</td> <td>23(3)</td> <td>21(1)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>42(4)</td> <td>40(4)</td> <td>43(4)</td> <td>44(5)</td> <td>46(4)</td> <td>42(5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※()うち自治医科大学出身者</p> <p>後期臨床研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>50</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>72</td> <td>78</td> <td>69</td> <td>62</td> <td>65</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table>	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	1年生	20(2)	21(2)	22(2)	24(3)	23(1)	21(4)	2年生	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)	23(3)	21(1)	計	42(4)	40(4)	43(4)	44(5)	46(4)	42(5)	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	総合	54	58	50	46	48	45	こころ	2	4	4	2	2	3	こども	16	16	15	14	15	9	計	72	78	69	62	65	57	<p>医学生向け説明会に参加し、病院見学の受入を積極的に行った。</p>	<p>・総合病院の初期臨床研修医確保は、期間を通じて計画人数を確保している。</p> <p>・後期研修医については、こども病院においては平成29年度から、総合病院こころの医療センターにおいては平成30年度から、新専門医制度のもとでの確保となった。</p> <p>・各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備するとともに、研修医に対するプログラム説明会の開催、PR動画やホームページ等を通じた広報など、積極的な広報により、専攻医の確保に努めている。</p> <p>・初期臨床研修医、後期臨床研修医ともに、例年並みの医師数を確保している。</p> <p>・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、今後、シーリング(募集定員の上限)による地方への分散等の影響を注視し、十分な確保ができるよう、積極的な採用活動や医師にとって魅力的な病院を目指す取組の継続が期待される。</p>																																																																																																																													
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																																																													
1年生	20(2)	21(2)	22(2)	24(3)	23(1)	21(4)																																																																																																																																																																																													
2年生	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)	23(3)	21(1)																																																																																																																																																																																													
計	42(4)	40(4)	43(4)	44(5)	46(4)	42(5)																																																																																																																																																																																													
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度																																																																																																																																																																																													
総合	54	58	50	46	48	45																																																																																																																																																																																													
こころ	2	4	4	2	2	3																																																																																																																																																																																													
こども	16	16	15	14	15	9																																																																																																																																																																																													
計	72	78	69	62	65	57																																																																																																																																																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
						説明	説明																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
			63	<p>・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。</p>	<p>看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。さらに優秀な人材確保のためコマメディカル及び事務においてアソシエイトの公募試験を実施した。</p> <p>正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人数計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>260</td> <td>269</td> <td>283</td> <td>289</td> <td>285</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1,251</td> <td>1,317</td> <td>1,370</td> <td>1,370</td> <td>1,366</td> <td>1,398</td> <td>1,377</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>327</td> <td>320</td> <td>315</td> <td>319</td> <td>333</td> <td>347</td> <td>345</td> </tr> <tr> <td>研究員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>118</td> <td>126</td> <td>123</td> <td>131</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,941</td> <td>2,006</td> <td>2,067</td> <td>2,088</td> <td>2,112</td> <td>2,174</td> <td>2,149</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>34</td> <td>35</td> <td>34</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>157</td> <td>165</td> <td>179</td> <td>184</td> <td>181</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>806</td> <td>807</td> <td>829</td> <td>815</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> <td>214</td> <td>226</td> <td>237</td> <td>235</td> </tr> <tr> <td>研究員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>59</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,080</td> <td>1,158</td> <td>1,224</td> <td>1,242</td> <td>1,271</td> <td>1,317</td> <td>1,299</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>118</td> <td>120</td> <td>124</td> <td>121</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>161</td> <td>165</td> <td>166</td> <td>170</td> <td>170</td> <td>175</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>90</td> <td>91</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>449</td> <td>444</td> <td>436</td> <td>444</td> <td>440</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>85</td> <td>83</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>82</td> <td>84</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>669</td> <td>654</td> <td>650</td> <td>642</td> <td>636</td> <td>648</td> <td>643</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末	法人数計								医師	241	245	260	269	283	289	285	歯科医師	4	5	4	4	5	7	7	看護師	1,251	1,317	1,370	1,370	1,366	1,398	1,377	医療技術	327	320	315	319	333	347	345	研究員					2	2	2	事務	118	119	118	126	123	131	133	計	1,941	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,149	本部								医師						1	1	看護師	2	2	2	2	3	1	1	医療技術	1							事務	28	27	25	32	32	32	33	計	31	29	27	34	35	34	35	総合								医師	135	144	157	165	179	184	181	歯科医師	3	4	3	3	4	6	6	看護師	678	748	804	806	807	829	815	医療技術	215	211	208	214	226	237	235	研究員					2	2	2	事務	49	51	52	54	53	59	60	計	1,080	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,299	こころ								医師	12	12	12	14	14	13	13	歯科医師								看護師	110	114	115	118	120	124	121	医療技術	26	26	26	25	25	26	26	事務	13	13	13	13	11	12	12	計	161	165	166	170	170	175	172	こども								医師	94	89	91	90	90	91	90	歯科医師	1	1	1	1	1	1	1	看護師	461	453	449	444	436	444	440	医療技術	85	83	81	80	82	84	84	事務	28	28	28	27	27	28	28	計	669	654	650	642	636	648	643	<p>看護師募集について、定時募集を第1回から3病院対象に実施し、計2回実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中、第1期看護職員採用試験は、Web面談と小論文に代わる書類審査に切替え実施した。また、経験者を対象とした月次募集を計4回実施し、上半期間で切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問に代わるWeb会議など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げた。コマメディカルは、必要な職種について随時募集を実施しており、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、心理療法士、視能訓練士、言語聴覚士（アソシエイト）、栄養士、臨床工学技士について公募試験を実施し優秀な人材の確保に努めた。事務は、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めた。</p>	<p>全国的に看護師不足が問題となる中、積極的な看護師確保対策、柔軟な採用試験の実施、勤務環境の改善、多様な勤務条件の設定等の努力により、各病院が高度・専門・特殊医療の提供に必要な水準の職員数確保に成功している。</p> <p>・看護師定時募集方法については、従来、第1期募集は勤務先を総合病院に限り、第2期募集は勤務先を3病院としていたが、令和元年度から、看護学生の就職活動の早期化と勤務先の希望に柔軟に対応するため、第1期から勤務先を3病院として募集実施している。</p>	18	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度		2年度	2年度9月末																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	法人数計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
医師	241	245	260	269	283	289	285																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
歯科医師	4	5	4	4	5	7	7																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
看護師	1,251	1,317	1,370	1,370	1,366	1,398	1,377																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
医療技術	327	320	315	319	333	347	345																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
研究員					2	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
事務	118	119	118	126	123	131	133																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
計	1,941	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,149																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
本部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
医師						1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
看護師	2	2	2	2	3	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
医療技術	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
事務	28	27	25	32	32	32	33																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
計	31	29	27	34	35	34	35																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
総合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
医師	135	144	157	165	179	184	181																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
歯科医師	3	4	3	3	4	6	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
看護師	678	748	804	806	807	829	815																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
医療技術	215	211	208	214	226	237	235																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
研究員					2	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
事務	49	51	52	54	53	59	60																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
計	1,080	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,299																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
こころ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
医師	12	12	12	14	14	13	13																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
歯科医師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
看護師	110	114	115	118	120	124	121																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
医療技術	26	26	26	25	25	26	26																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
事務	13	13	13	13	11	12	12																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
計	161	165	166	170	170	175	172																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
こども																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
医師	94	89	91	90	90	91	90																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
歯科医師	1	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
看護師	461	453	449	444	436	444	440																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
医療技術	85	83	81	80	82	84	84																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
事務	28	28	28	27	27	28	28																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
計	669	654	650	642	636	648	643																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
			64	<p>・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。</p>	<p>看護学生向け就職説明会（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科（静岡）</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ナースナビ（浜松）</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>マイナビ（静岡）</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>（沼津）</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>業者計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>静岡市立看護専門学校</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>静岡県立看護専門学校</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>養成校計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>看護学生向け就職説明会（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>949</td> <td>1,012</td> <td>1,378</td> <td>887</td> <td>226</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>639</td> <td>764</td> <td>842</td> <td>997</td> <td>602</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>訪問者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>254</td> <td>200</td> <td>360</td> <td>608</td> <td>64</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>293</td> <td>286</td> <td>366</td> <td>357</td> <td>345</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>不明</td> <td>3</td> <td>58</td> <td>53</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>17</td> <td>48</td> <td>86</td> <td>64</td> <td>73</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科（静岡）				ナースナビ（浜松）				マイナビ（静岡）				（沼津）				業者計	0	0	0	静岡県立大学	中止	中止		常葉大学	中止	中止		聖隷クリストファー大学				順天堂大学	中止	中止		静岡市立看護専門学校				静岡県立看護専門学校	中止	中止		養成校計	0	0	0	計	0	0	0	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	来場者数							業者	949	1,012	1,378	887	226	0	養成校	639	764	842	997	602	0	訪問者数							業者	254	200	360	608	64	0	養成校	293	286	366	357	345	0	受験者数							業者	不明	3	58	53	3	0	養成校	17	48	86	64	73	0	<p>看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることで病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点がある。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で養成校主催の説明会は中止となるものが多かったが、説明会に代わり、Web会議や養成校のポータルサイトに各病院のPR資料を提供するなどして看護師確保に努めた。今後も養成校主催の説明会へ昨年に引き続き参加をし、現在の学生の動向等をつかみ看護師確保に努める。</p>	<p>就職説明会においては、機構の看護師が直にコミュニケーションを図ることで看護学生が知りたい情報を把握できるという利点に併せて、採用後のミスマッチの予防にも効果があるものと考えられる。</p> <p>・令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、就職説明会が中止となっているが、WEBでの説明会参加や養成校のポータルサイトへのPR資料の提供などで看護師確保に努めており、今後も臨機応変な対応が期待される。</p>	19	○																																																																																																																																																																										
区分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ナース専科（静岡）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ナースナビ（浜松）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
マイナビ（静岡）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
（沼津）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
業者計	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
静岡県立大学	中止	中止																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
常葉大学	中止	中止																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
聖隷クリストファー大学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
順天堂大学	中止	中止																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
静岡市立看護専門学校																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
静岡県立看護専門学校	中止	中止																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
養成校計	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
計	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	来場者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
業者	949	1,012	1,378	887	226	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
養成校	639	764	842	997	602	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
訪問者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
業者	254	200	360	608	64	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
養成校	293	286	366	357	345	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
受験者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
業者	不明	3	58	53	3	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
養成校	17	48	86	64	73	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価			
						説明								
(1) 医療従事者の確保・育成 各病院が有する物的・人的資源を活用した研修プログラムを充実させることにより、各病院において臨床研修医や専攻医の確保・育成に取り組むほか、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、所有施設を有効活用した研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの実習生受け入れなど、県内の看護師の養成に協力すること。	(1) 医療従事者の確保・育成 県立病院が中心となり、医療技術向上と医師養成の特色のある取組を設け、充実した研修体制を整備し、臨床研修医や専攻医の技能や知識の向上に努めるほか、県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。また、県立総合病院のメディカルスキルアップセンターの機能拡充や、県立こども病院のラーニングセンターを活用して、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の強化に努める。実習生の受け入れや職員の派遣などを通じて国内外の医療機関と交流を進める。	(1) 医療従事者の確保・育成 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ③県立総合病院メディカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一・二次救命処置トレーニングの実施 ④県立こども病院ラーニングセンターの運用 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑧メディカル・事務職員の研修	65	各病院(総務)	○医師 ①②医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 ①②医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。	(総合) (総合)海外研修の実績(2年度9月末) (単位:人) 内 容 人数 計 0 海外での学会発表実績 (単位:件) 区分 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度9月末 総合 26 32 23 33 65 0 こども 35 32 22 31 31 0	(総合) 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により海外での学会や研修等が開催中止となったため、現時点における参加実績はない。 (こども) 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により海外での研修は行っていないものの、医師を対象とした研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。	○ 国際学会における演題発表や、医療先進国状況調査等に医師を派遣しており、その成果は院内外での研修講師として共有されるなど医療水準の向上に寄与している。 また、海外研修の報告をホームページに掲載し、研修医の募集にあたって病院機構が魅力的な環境であることをPRしている。 令和2年度においては、新型コロナウイルスの影響で海外での学会や研修等が開催中止となっているが、引き続き、医師の技術力の向上を目指して、海外研修等を奨励する体制を維持していくことが期待される。						
					③メディカルスキルアップセンターの活用を促進を図る。	メディカルスキルアップセンター(単位:人・日) 区分 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度9月末 医師 研修医数 5,600 4,700 5,260 2,920 4,800 4,410 6,170 3,110 7,710 4,700 5,200 5,200 研修医数 3,350 2,900 3,650 2,170 2,710 1,650 3,250 1,600 4,600 2,600 3,100 3,100 計 8,950 7,600 8,910 5,090 7,510 6,060 10,420 4,710 12,310 7,300 8,300 8,300 看護師 研修医数 1,900 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 計 1,900 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 2,000 その他 研修医数 1,650 1,220 1,550 860 1,170 1,150 1,300 1,070 1,400 1,000 1,000 1,000 研修医数 2,340 1,750 2,000 1,500 1,910 2,500 1,200 1,200 1,100 1,100 1,100 1,100 計 3,990 3,000 3,550 2,360 3,080 3,650 2,500 2,270 2,500 2,100 2,100 2,100	メディカルスキルアップセンターに各種シミュレーターを導入し、研修医を始めとする医師や看護師等の医療従事者によるトレーニングや講習に活用している。外部利用については、医師会主催の研修会などで活用されている。今後も外部利用についても拡大に努める。					○ メディカルスキルアップセンターは、平成29年度に先端医学棟内に移転し、従来の2.8倍の約332㎡の広さに拡張し、採血等の基本手技、心配蘇生等の救急訓練、内視鏡下手術訓練等の臨床各科に応じたシミュレーター整備など、研修環境の充実が図られて以降、利用件数も増加傾向にある。 静岡市医師会と連携した地域医療従事者向けの研修会の開催など、充実した研修施設を外部利用として地域に還元している。	20	○
					④ラーニングセンターの運用手順を定め、活用の促進を図る。	後期研修医を募集するセミナー、新生児の蘇生講習会及び新人看護師を対象とした点滴ルート確保の実習等で利用していたが、リニューアル工事の影響で令和2年度末まで使用を一時休止中。 平成30年度にラーニングセンター運営検討部会を立ち上げ、利用実態の詳細な把握や今後の有効な活用方法について検討している。 ラーニングセンター利用状況 (単位:件) 区分 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度9月末 利用件数 - 1 21 12 33 13 0 ※各年度とも正確な研修実施研修の集計はできていない。	B ラーニングセンター運営検討部会において、活用方法等の検討を行っていたが、劣化改修や施設配置再編を中心とする本館リニューアル工事の影響で、ラーニングセンターを仮設倉庫とすることとなり、令和元年10月から令和2年度末まで使用を一時休止している。 そのため、状況に変わりはないものの、工事終了後の再開に向け、これまで検討してきた内容を踏まえ、運用方法等について引き続き検討していく。					△ ラーニングセンターにおける研修機能の集約化を目指し、平成30年度に運営検討部会を通じて、院内の研修実施状況の調査・把握、問題点の洗い出し、運用手順の策定等を進めてきた。 各病棟や会議室等で実施されていた研修をラーニングセンターに集約する方向で検討を進めていたが、劣化改修や施設配置再編を中心とする本館リニューアル工事の影響で、ラーニングセンターの使用を一時休止する事態となっている。 令和3年度から利用を再開できる見込みであり、年度当初に検討会を再開する予定である。 一時休止中の研修は、当面、各病棟内や会議室等を活用して実施していく方針であるが、院内研修をセンターに集約し研修環境を改善するという運営検討部会を通じた改善の方向性を途切れさせることなく、マスタープラン(施設改修計画)とも整合を図りつつ、運用・検討していくことが求められる。	20	△

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																												
						説明	説明																																																																																
		【目標値】 ・医師数(総合、こころ、こども) ・看護師数(総合、こころ、こども)	68	⑤海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	<p>海外視察・講演等の派遣・受入 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・講演等派遣</td> <td>13</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>73</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>視察・研修等受入</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>58</td> <td>51</td> <td>35</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合病院では中国浙江省の7病院と友好協力協定及び覚書を締結し、これまでに研修生10人(医師)を受け入れている。 浙江大学医学院附属邵逸夫医院1人、浙江大学医学院附属第一医院1人、浙江大学医学院附属第二医院1人、浙江医学院附属第四医院2人、温嶺市中病院1人、浙江省立同徳医院1人、浙江省人民医院3人 平成23年度より浙江省からの研修受入れをから実施しており、これまでに延べ85人(うち医師61人)の研修生を受入れている。 令和元年10月には浙江中医学薬大学附属第二医院と研究友好協力に係る覚書の締結を行った。 その他、JICA研修生を受け入れている。 また、令和2年2月、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、浙江省の友好締結病院へ手術用マスク等の支援を行った。 ・手術用マスク：浙江省人民医院20,000枚、浙江大学浙江大学医学院附属邵逸夫医院 20,000枚 ・手術用ガウン：浙江省人民医院 225枚、浙江大学医学院附属邵逸夫医院 225枚</p>		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	視察・講演等派遣	13	53	54	60	73	0	視察・研修等受入	39	44	58	51	35	0	<p>浙江中医学薬大学附属第二医院と研究友好協力に係る覚書を締結する等、友好協力協定を締結している中国浙江省を中心に交流を進めた。 その他、JICA研修(中東、アフリカ諸国)の受入れ、UCLAへの研修派遣を実施し、中国以外の国との交流を図っている。 また、当院と友好提携を結ぶ浙江省人民医院と、浙江大学医学院附属邵逸夫医院からの支援要望に基づき、手術用マスク及びガウンを送付するなど、国際交流・支援を積極的に行った。 なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で交流の実施は、未定である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海外からの視察や研修生の受入れ及び派遣を継続して行われており、交流の推進や医療技術の習得が図られている。 国際交流の更なる進展に向けて、令和元年10月に浙江中医学薬大学附属第二医院とも研究友好協力に係る覚書を締結した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、現在は派遣・受入れを実施していないが、手術用マスクやガウンの支援を双方に支援し合うなど、良好な友好関係を築いている。 																																																											
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																	
視察・講演等派遣	13	53	54	60	73	0																																																																																	
視察・研修等受入	39	44	58	51	35	0																																																																																	
		⑥看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ⑦認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	69		<p>主な医療職種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>34</td> <td>がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>16</td> <td>がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリ、精神看護、慢性期呼吸器疾患、認知症看護、がん放射線療法</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>41</td> <td>指導薬剤師、日本医療薬学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬療法、栄養サポートチーム専門、抗菌科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>21</td> <td>専門理学療法士(運動療、呼吸器、内部障害)、日本リハビリテーション指導士</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>27</td> <td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10</td> <td>検査科検査技師、がん併発認定管理認定士、認定能育支援士</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>104</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>認定看護師取得者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>1</td> <td>精神看護(リエンソ領域)</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>6</td> <td>精神科</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>0</td> <td>感染管理</td> </tr> </tbody> </table> <p>認定看護師取得者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>2</td> <td>小児看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>9</td> <td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名</td> </tr> </tbody> </table>	職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	34	がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護	認定看護師	16	がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリ、精神看護、慢性期呼吸器疾患、認知症看護、がん放射線療法	薬剤師	41	指導薬剤師、日本医療薬学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬療法、栄養サポートチーム専門、抗菌科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定	理学療法士	21	専門理学療法士(運動療、呼吸器、内部障害)、日本リハビリテーション指導士	放射線技師	27	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影	その他	10	検査科検査技師、がん併発認定管理認定士、認定能育支援士	計	104		区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	1	精神看護(リエンソ領域)	認定看護師	6	精神科	認定看護師	0	感染管理	区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	2	小児看護	認定看護師	9	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名	<p>感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織横断的に活動することができた。また、認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 優れた看護技術と知識を備え高水準の看護を実践する専門看護師や認定看護師を育成することは、高度・専門医療を提供する県立病院の医療の質の向上において重要である。 令和2年度の資格者数は、総合19人(専門3人、認定16人)、こころ認定7人(専門1人、認定6人)、こども11人(専門2人、認定9人)であり、計画的な育成が図られている。 資格取得にあたっては、研修中不在となる医療従事者が安心して研修に臨める組織としてのバックアップが重要であり、研修受講時の職務専念義務免除や研修費用の無利子貸与制度を実施するなど、資格取得への支援が図られている。 																																			
職種	人数	専門・認定領域																																																																																					
専門看護師	34	がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護																																																																																					
認定看護師	16	がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリ、精神看護、慢性期呼吸器疾患、認知症看護、がん放射線療法																																																																																					
薬剤師	41	指導薬剤師、日本医療薬学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬療法、栄養サポートチーム専門、抗菌科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定																																																																																					
理学療法士	21	専門理学療法士(運動療、呼吸器、内部障害)、日本リハビリテーション指導士																																																																																					
放射線技師	27	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影																																																																																					
その他	10	検査科検査技師、がん併発認定管理認定士、認定能育支援士																																																																																					
計	104																																																																																						
区分	人数	専門・認定領域																																																																																					
専門看護師	1	精神看護(リエンソ領域)																																																																																					
認定看護師	6	精神科																																																																																					
認定看護師	0	感染管理																																																																																					
区分	人数	専門・認定領域																																																																																					
専門看護師	2	小児看護																																																																																					
認定看護師	9	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名																																																																																					
		⑦臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	70		<p>実習・アルバイト研修等の受入れ(2年度9月末) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>39</td> <td>96</td> <td>0</td> <td>80</td> <td>83</td> <td>298</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>164</td> <td>6</td> <td>178</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>57</td> <td>97</td> <td>0</td> <td>244</td> <td>93</td> <td>491</td> </tr> </tbody> </table>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	39	96	0	80	83	298	こころ	7	1	0	164	6	178	こども	11	0	0	0	4	15	計	57	97	0	244	93	491	<p>医師、医学生、看護師、看護学生などを積極的に受け入れ、メディカルスキルアップセンター等で臨床現場に即したより実践的な研修を提供している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れが難しい状況となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は新型コロナウイルスの感染リスク抑制のため、実習・アルバイトの受入れが難しく、3病院全体・全職種合計で、令和元年度実績1,381人から890人減少した。特に看護学生の受入れは、令和元年度から480人減少した。 新型コロナウイルス対策のため必要な措置であり、やむを得ないものであるが、収束した後は、医師、医学生、看護師、看護学生、コメディカルの実習やアルバイトを積極的に受け入れ、臨床現場に即した実践的な研修を提供しており、将来の県内医療従事者の養成につながる、効果的な実践研修の場の提供に努めていくことが期待される。 																																													
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																	
総合	39	96	0	80	83	298																																																																																	
こころ	7	1	0	164	6	178																																																																																	
こども	11	0	0	0	4	15																																																																																	
計	57	97	0	244	93	491																																																																																	
		⑧研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	71		<p>職員研修参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>145</td> <td>136</td> <td>126</td> <td>125</td> <td>139</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>新規交付職員研修</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>新規監督者研修</td> <td>28</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>労務管理者研修</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>新任管理者・新任監督者研修</td> <td>-</td> <td>34</td> <td>28</td> <td>35</td> <td>21</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション講座</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>19</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション講座</td> <td>31</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>ファシリテーション講座</td> <td>-</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>25</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>コーチング講座</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>18</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート講座</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>14</td> <td>29</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	新規採用職員研修	145	136	126	125	139	160	新規交付職員研修	15	10	4	6	7	10	新規監督者研修	28	25	18	18	11	16	労務管理者研修	-	-	-	-	-	120	新任管理者・新任監督者研修	-	34	28	35	21	-	コミュニケーション講座	21	20	24	30	19	-	プレゼンテーション講座	31	-	-	-	-	-	ファシリテーション講座	-	23	20	20	25	-	コーチング講座	28	32	18	22	20	-	メンタルサポート講座	21	25	25	14	29	-	<p>階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。 今年度から新たに労務管理者研修を追加した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は、働き方改革関連法への対応の一環として、新たに労務管理者研修を追加し、労務管理やハラスメントに対する職員の意識を高める取組を行っている。 全ての職種に共通して必要となるコミュニケーション能力や組織マネジメント能力など、県内医療の中核を担う県立病院の職員として求められる社会的スキルの習得につながる研修体制プログラムが階層や目的に応じて実施されている。 			
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																	
新規採用職員研修	145	136	126	125	139	160																																																																																	
新規交付職員研修	15	10	4	6	7	10																																																																																	
新規監督者研修	28	25	18	18	11	16																																																																																	
労務管理者研修	-	-	-	-	-	120																																																																																	
新任管理者・新任監督者研修	-	34	28	35	21	-																																																																																	
コミュニケーション講座	21	20	24	30	19	-																																																																																	
プレゼンテーション講座	31	-	-	-	-	-																																																																																	
ファシリテーション講座	-	23	20	20	25	-																																																																																	
コーチング講座	28	32	18	22	20	-																																																																																	
メンタルサポート講座	21	25	25	14	29	-																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価
						説明					
(2) 勤務環境の向上 優秀な医療従事者を確保するため、働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、ワーク・ライフ・バランスの向上の推進や職員の精神面を含めた健康保持に配慮するほか、医師をはじめとした医療従事者の業務分担を行うなど、勤務環境の向上を図ること。	(2) 勤務環境の向上 医師をはじめとした医療従事者の業務分担をはじめ、仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など、職員が働きやすく、働きがいを実感できる勤務環境づくりを進める。	(2) 勤務環境の向上 ①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立病院院内保育所の活用	72	①柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。	看護師の2交代制勤務については、総合病院15病棟、こころの医療センター3病棟、こども病院11病棟となっている。看護師の夜勤専従については、3病院で試行を行っている。	看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図った。看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアンシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となった。	A	21			○
					アソシエイト採用実績（各年度4月1日現在） (単位：人)	医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。総合では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて、医療従事者が診療に専念できるように医師事務作業補助者を配置している。診療報酬においては、最上位基準を維持している。また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。	A				
					区 分	29年度	30年度				
看護師	1	-	3	-	1						
事務	2	2	10	3	3						
コメディカル	3	4	3	1	1						
計	6	6	16	4	5						

補助職員の配置状況（各年度4月1日現在）		(単位：人)						
区 分		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末
総合	医師事務補助	55	66	73	73	71	70	73
	看護助手	81	80	74	73	66	61	62
	コメディカル助手	17	18	18	19	22	20	22
	小計	153	164	165	165	159	151	157
こころ	医師事務補助	2	2	2	2	2	2	2
	看護助手	8	8	9	8	8	9	9
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	2
	小計	12	12	13	12	12	13	13
こども	医師事務補助	18	18	18	19	19	20	21
	看護助手	21	22	21	21	25	22	21
	コメディカル助手	5	5	5	5	5	6	4
	小計	44	45	44	45	49	48	46
計	医師事務補助	75	86	93	94	92	92	96
	看護助手	110	110	104	103	99	92	92
	コメディカル助手	24	25	25	26	29	28	28
	小計	209	221	222	223	220	212	216

年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価	県評価	重点	数値	評価	
③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。	74		県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤労手当)への活用を開始しており、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤労手当)への活用を開始しており、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	21				○

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																				
						説明																																									
			75	④就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。	<p>総合病院では、総務省の無線システム普及支援事業への補助金交付申請を行い、院内携帯電波不感知対策工事を実施している。工事は令和2年度中に完了予定である。院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行った。</p> <p>こころの医療センターでは、施設劣化改修として、職員も利用するエレベーター4台の改修を実施し、既存不適合を解消した。</p> <p>こども病院院内保育所の建替工事については、平成31年3月に竣工し4月より運用開始した。併せて売店スペースについても改修し、コンビニエンスストアを導入した。</p> <p>総合・こども病院ともに、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を実施した。</p>	<p>総合病院では、総務省の無線システム普及支援事業への補助金交付申請を行い、院内携帯電波不感知対策工事を実施した。</p> <p>こころの医療センターでは、施設改修工事をこなうことで職員の就労環境の改善に資することができた。</p> <p>こども病院では、新園舎の運用を開始するとともに、導入したコンビニエンスストアにより、院内施設の充実を図っている。また、始業時にリクエストのあったBGMを院内放送することで、職員のモチベーション確保に努めている。</p> <p>引き続き、院内施設の充実を図り、就労環境の向上に取り組んでいく。</p>			21	○																																					
			76	⑤院内保育の活用を図る。	<p>保育所利用者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">定員</th> <th colspan="5">平均利用者数</th> </tr> <tr> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合「おひさま」</td> <td>100</td> <td>93</td> <td>96</td> <td>90</td> <td>82</td> <td>75</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>こども「ことり」</td> <td>80</td> <td>27</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>180</td> <td>120</td> <td>114</td> <td>103</td> <td>95</td> <td>91</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table>	区分	定員	平均利用者数					27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	総合「おひさま」	100	93	96	90	82	75	58	こども「ことり」	80	27	18	13	13	16	13	計	180	120	114	103	95	91	71	<p>育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。</p> <p>総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少してきているため、正規コメディカルの入所を開始した。また、11月、12月には利用者を対象としたインフルエンザ予防接種を実施予定である。</p> <p>こども病院では、令和元年度から新保育所の運用を開始しており、二重保育や病後児保育など新たな保育サービスに対応している。令和2年度は45人を上限に稼働し、今後段階的に増員する予定としている。現状、定員に対し利用者数に開きがあるが、広報誌の発行や、看護部を通じた産育休取得者への働きかけ等を行うことにより、今後、産育休復帰職員の利用が増加し、稼働率は上昇すると見込む。</p>	<p>育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。</p> <p>総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少してきているため、正規コメディカルの入所を開始した。また、11月、12月には利用者を対象としたインフルエンザ予防接種を実施予定である。</p> <p>こども病院では、令和元年度から新保育所の運用を開始しており、二重保育や病後児保育など新たな保育サービスに対応している。令和2年度は45人を上限に稼働し、今後段階的に増員する予定としている。現状、定員に対し利用者数に開きがあるが、広報誌の発行や、看護部を通じた産育休取得者への働きかけ等を行うことにより、今後、産育休復帰職員の利用が増加し、稼働率は上昇すると見込む。</p>				
区分	定員	平均利用者数																																													
		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度																																									
総合「おひさま」	100	93	96	90	82	75	58																																								
こども「ことり」	80	27	18	13	13	16	13																																								
計	180	120	114	103	95	91	71																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																																																															
						説明																																																																																																																																																																																																																				
3 医療に関する調査及び研究 医療や県民の健康寿命延伸に関する調査及び研究を行い、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上、県民の健康寿命の延伸に寄与すること。	3 医療に関する調査及び研究 県内医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それを円滑に進めるため、診療録の電子化等の医療情報基盤の活用・充実強化に努める。	3 医療に関する調査及び研究 県内の医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																															
(1) 研究機能の強化 各病院が臨床研究に取り組み、その研究成果の発信等により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保に努めること。また、県立総合病院のリサーチサポートセンターにおいて、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究など県が推進する社会健康医学研究に協力すること。さらに、産学官との連携に取り組むこと。	(1) 研究機能の強化 県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、各病院が臨床研究に取り組むことなどにより、県内医療水準の向上と医療人材の確保に努める。また、県が定めた社会健康医学研究推進計画に基づき、社会健康医学の研究推進に協力すること。治験や調査研究事業の推進に参画できるよう引き続き体制の整備を行い、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	(1) 研究機能の強化 ①県立総合病院リサーチサポートセンターの臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②県立総合病院リサーチサポートセンターにおいて、静岡県からの受託研究として、「県民の健康寿命の更なる延伸」に向けた社会健康医学研究の実施 ③治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ④県立大学等の研究機関との共同研究	77	①臨床研究や疫学研究の充実 ・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ②研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体系的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ③研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ④臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 ⑤県立大学との共同研究を行う。	臨床研究数 (単位: 件、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2月</th> <th>12年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究数</td> <td>233</td> <td>266</td> <td>279</td> <td>332</td> <td>376</td> <td>340以上</td> <td>292</td> </tr> <tr> <td>支援研究数</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>43</td> <td>38</td> <td>50</td> <td>-</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>支援率</td> <td>19.7</td> <td>17.3</td> <td>15.4</td> <td>11.4</td> <td>13.3</td> <td>-</td> <td>16.4</td> </tr> </tbody> </table> 委員研究員受入状況 (単位: 人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>12年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>外部</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>22</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table> 社会健康医学受託研究の実績状況 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>12年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table> 奨学寄附金受入件数・金額 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>寄附者</th> <th>目的</th> <th>金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">27年度</td> <td>大正富山医薬品株</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン株</td> <td>透析患者の管理についての研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>第一三共株式会社</td> <td>循環器領域における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬株式会社</td> <td>糖尿病治療の有効性評価に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">28年度</td> <td>興和創薬株式会社</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>麻酔の及ぼす影響に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>千正薬</td> <td>糖尿病・内分泌内科の研究費</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">29年度</td> <td>日本「ペリオ」グループ株式会社</td> <td>SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>日本「ペリオ」グループ株式会社</td> <td>心血管疾患の予防・治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>800</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30年度</td> <td>日本「ペリオ」グループ株式会社</td> <td>糖尿病治療に関する研究</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>150</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">元年度</td> <td>日本「ペリオ」グループ株式会社</td> <td>糖尿病治療に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>日本「ペリオ」グループ株式会社</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>2年度9月末</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2月	12年度9月末	研究数	233	266	279	332	376	340以上	292	支援研究数	46	46	43	38	50	-	49	支援率	19.7	17.3	15.4	11.4	13.3	-	16.4	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	12年度9月末	静岡県立大学	14	14	14	14	15	15	外部	4	7	9	11	22	23	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	12年度9月末	件数	-	-	-	11	11	34	区分	寄附者	目的	金額 (千円)	27年度	大正富山医薬品株	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	協和発酵キリン株	透析患者の管理についての研究	200	第一三共株式会社	循環器領域における研究	500	田辺三菱製薬株式会社	糖尿病治療の有効性評価に関する研究	200		合計		1,400	28年度	興和創薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	麻酔の及ぼす影響に関する研究	500	千正薬	糖尿病・内分泌内科の研究費	1,000		合計		2,500	29年度	日本「ペリオ」グループ株式会社	SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響	300	日本「ペリオ」グループ株式会社	心血管疾患の予防・治療に関する研究	500		合計		800	30年度	日本「ペリオ」グループ株式会社	糖尿病治療に関する研究	150	合計		150	元年度	日本「ペリオ」グループ株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本「ペリオ」グループ株式会社	呼吸器疾患における研究	200		合計		400	2年度9月末	-	-	-	0		合計			0	②医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	78	③医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位: 千円、件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>12年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>29</td> <td>24</td> <td>17</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>90,549</td> <td>78,259</td> <td>64,062</td> <td>101,428</td> <td>42,504</td> <td>6,277</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>1,139</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>29</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>26</td> <td>35</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>10,858</td> <td>19,656</td> <td>5,087</td> <td>14,018</td> <td>29,479</td> <td>5,461</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	12年度9月末	総合	29	30	29	24	17	14	件数	90,549	78,259	64,062	101,428	42,504	6,277	契約額	5	0	0	0	0	0	ところ	1,139	0	0	0	0	0	契約額	29	26	15	26	35	19	子ども	10,858	19,656	5,087	14,018	29,479	5,461	契約額							製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。	-	-	-	-	-	-	-	-
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2月	12年度9月末																																																																																																																																																																																																																			
研究数	233	266	279	332	376	340以上	292																																																																																																																																																																																																																			
支援研究数	46	46	43	38	50	-	49																																																																																																																																																																																																																			
支援率	19.7	17.3	15.4	11.4	13.3	-	16.4																																																																																																																																																																																																																			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	12年度9月末																																																																																																																																																																																																																				
静岡県立大学	14	14	14	14	15	15																																																																																																																																																																																																																				
外部	4	7	9	11	22	23																																																																																																																																																																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	12年度9月末																																																																																																																																																																																																																				
件数	-	-	-	11	11	34																																																																																																																																																																																																																				
区分	寄附者	目的	金額 (千円)																																																																																																																																																																																																																							
27年度	大正富山医薬品株	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																																																							
	協和発酵キリン株	透析患者の管理についての研究	200																																																																																																																																																																																																																							
	第一三共株式会社	循環器領域における研究	500																																																																																																																																																																																																																							
	田辺三菱製薬株式会社	糖尿病治療の有効性評価に関する研究	200																																																																																																																																																																																																																							
	合計		1,400																																																																																																																																																																																																																							
28年度	興和創薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																																																							
	小野薬品工業株式会社	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																																																							
	小野薬品工業株式会社	麻酔の及ぼす影響に関する研究	500																																																																																																																																																																																																																							
	千正薬	糖尿病・内分泌内科の研究費	1,000																																																																																																																																																																																																																							
	合計		2,500																																																																																																																																																																																																																							
29年度	日本「ペリオ」グループ株式会社	SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響	300																																																																																																																																																																																																																							
	日本「ペリオ」グループ株式会社	心血管疾患の予防・治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																																																							
	合計		800																																																																																																																																																																																																																							
30年度	日本「ペリオ」グループ株式会社	糖尿病治療に関する研究	150																																																																																																																																																																																																																							
	合計		150																																																																																																																																																																																																																							
元年度	日本「ペリオ」グループ株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																																																							
	日本「ペリオ」グループ株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																																																							
	合計		400																																																																																																																																																																																																																							
2年度9月末	-	-	-	0																																																																																																																																																																																																																						
	合計			0																																																																																																																																																																																																																						
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	12年度9月末																																																																																																																																																																																																																				
総合	29	30	29	24	17	14																																																																																																																																																																																																																				
件数	90,549	78,259	64,062	101,428	42,504	6,277																																																																																																																																																																																																																				
契約額	5	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																				
ところ	1,139	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																				
契約額	29	26	15	26	35	19																																																																																																																																																																																																																				
子ども	10,858	19,656	5,087	14,018	29,479	5,461																																																																																																																																																																																																																				
契約額																																																																																																																																																																																																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																					
						説明																										
(2) 診療等の情報の活用 診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	(2) 診療等の情報の活用 診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図り、科学的根拠を集積・分析し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し、医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	(2) 診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析のできるシステムの活用	-	-	-	-	-																									
			79	①DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	<p>DPCコーディング部会開催実績 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>17</td> <td>32</td> <td>55</td> <td>37</td> <td>25</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	開催回数	2	4	6	4	4	2	出席者数	17	32	55	37	25	18	A	DPCデータの分析結果を元に、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内の退院状況や副傷病名の付与率等を報告し、平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めた。			23	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																										
開催回数	2	4	6	4	4	2																										
出席者数	17	32	55	37	25	18																										
			80	①DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかわるスキルアップに努める。	<p>DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。</p> <p>DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>23</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>49</td> <td>49</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	開催回数	2	4	4	4	4	1	出席者数	23	54	53	49	49	13	A	早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求することができている。			23	○
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																										
開催回数	2	4	4	4	4	1																										
出席者数	23	54	53	49	49	13																										

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																															
						説明																																																																																																				
4 医療に関する地域への支援 本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院であり続けるよう努めること。	4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	-	-	-	-	-	-																																																																																																		
(1) 地域の医療機関等との連携・支援 県が策定する医師確保計画の推進に協力し、医師不足の公的医療機関に対し医師派遣を行うこと。また、他の医療機関から紹介された患者の受け入れ及び患者に適した医療機関の紹介を積極的に行うこと。さらに、高度医療機器の共同利用の促進、ICTを活用した他の医療機関等との医療情報の共有など、地域医療の確保への支援を一層推進すること。	(1) 地域の医療機関等との連携・支援 県が策定する医師確保計画の推進に協力する。県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実に取り組む。また、ICTを活用した医療連携、遠隔診断のネットワークづくりや、高度医療機器などの共同利用を推進し、県立病院の施設、設備や機能について地域への開放を進める。	(1) 地域の医療機関等との連携・支援 ①県の医師派遣事業への協力 ②県の医師派遣事業に必要な医師定数の見直し ③「ふじのくに地域医療支援センター」機能の一部である医師就労等相談窓口業務などの効率的な運営 ④県内病院への常勤幹部医師の配置 ⑤専門医制度への対応 ⑥医療機器の共同利用の推進 ⑦ICT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	-	-	-	-	-	-																																																																																																		
			81		<p>①②④地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。</p> <p>①⑤⑦地域医療連携推進法人制度などを活用して、地域の公的医療機関と連携し、地域の地域医療構想推進を支援することにより、地域において質が高く効率的な医療提供体制を構築する。</p> <p>（単位：人）</p> <table border="1"> <tr> <td>医師定数（各年度4月1日現在）</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度</td> <td>2年度9月末</td> </tr> <tr> <td>定数</td> <td>233</td> <td>233</td> <td>209</td> <td>271</td> <td>283</td> <td>314</td> <td>314</td> </tr> </table> <p>（総合）</p> <p>（単位：機関、科、人）</p> <table border="1"> <tr> <td>医師派遣実績</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度</td> <td>2年度9月末</td> </tr> <tr> <td>医療機関等</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>775</td> <td>570</td> <td>577</td> <td>513</td> <td>752</td> <td>350</td> <td>350</td> </tr> </table> <p>（こども）</p> <p>静岡市立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市民病院、中東遠総合医療センター、吉原林間学園診療所に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。</p> <p>医師派遣実績（公的病院等）（単位：機関、科、人）</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度</td> <td>2年度9月末</td> </tr> <tr> <td>医療機関等</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>958</td> <td>1078</td> <td>803</td> <td>202</td> <td>282</td> <td>140</td> <td>140</td> </tr> </table> <p>※平成29年度までは後期研修医の派遣も含まれている。平成30年度からは小児科専攻医制度の制度変更に伴い、退職扱いの派遣となった。（平成29年度までと同様の算出であれば令和元年度実績は1,014人となる）</p>	医師定数（各年度4月1日現在）								区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末	定数	233	233	209	271	283	314	314	医師派遣実績								区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末	医療機関等	10	9	8	8	9	9	9	診療科	9	6	9	9	11	9	9	延人員数	775	570	577	513	752	350	350	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末	医療機関等	7	6	7	5	7	7	7	診療科	2	2	2	2	2	3	3	延人員数	958	1078	803	202	282	140	140	<p>静岡市立静岡病院機構として必要とする医師数について、適正な定数管理を行った。</p> <p>（総合）</p> <p>医療機関等に対しては、清水厚生病院、佐久間病院、島田市民病院、静岡市立清水病院、静岡厚生病院、桜ヶ丘病院、川根本町いやしの里診療所、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院の計9箇所に医師派遣を行った。</p> <p>（こども）</p> <p>県内の7医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援している。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たしている。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があると考えるが働き方改革への対応とのバランスをとる必要がある。</p>			24	○
医師定数（各年度4月1日現在）																																																																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末																																																																																																			
定数	233	233	209	271	283	314	314																																																																																																			
医師派遣実績																																																																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末																																																																																																			
医療機関等	10	9	8	8	9	9	9																																																																																																			
診療科	9	6	9	9	11	9	9																																																																																																			
延人員数	775	570	577	513	752	350	350																																																																																																			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末																																																																																																			
医療機関等	7	6	7	5	7	7	7																																																																																																			
診療科	2	2	2	2	2	3	3																																																																																																			
延人員数	958	1078	803	202	282	140	140																																																																																																			
			82		<p>①小児1次救急医療への応援を行う。</p> <p>静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。</p> <p>（単位：機関、科、人）</p> <table border="1"> <tr> <td>医師派遣実績（急病センター）</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度</td> <td>2年度9月末</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>292</td> <td>295</td> <td>294</td> <td>218</td> <td>214</td> <td>97</td> <td>97</td> </tr> </table>	医師派遣実績（急病センター）								区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末	医療機関	2	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	2	延人員数	292	295	294	218	214	97	97	<p>静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援している。小児1次救急医療の成立のため、派遣要請には可能な限り対応していく必要があると考えるが働き方改革への対応とのバランスをとる必要がある。</p>	<p>・医師不足のために診療科の休・廃止を余儀なくされ、自助努力では医師確保が困難な公的医療機関に対して、確保した医師を診療科内の努力により緊急避難的措置として派遣することで、必要な診療部門の確保など、地域の医療提供体制維持に貢献している。</p> <p>・県の医師確保対策としての補助による派遣以外にも、地域医療支援病院としての自主派遣にも対応している。</p> <p>・機構は、県の医師確保対策を一元的・専門的に推進する「ふじのくに地域医療支援センター」に参画しており、県からの業務委託により、コーディネーター担当医師が、医学修学研修資金貸与者との相談に応じ、希望を踏まえた勤務先病院の配置調整支援を担うなど、県内研修医等のキャリア支援に重要な役割を担っている。</p> <p>・令和2年度に開始した県の医師確保計画に基づく取組等においても、医師確保・養分の要として、貢献することが期待される。</p> <p>・派遣先での労務管理については、副業・兼業の場合の実効性のある労働時間管理に係る国の議論を注視していくことが重要である。</p>			24	○																																																							
医師派遣実績（急病センター）																																																																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末																																																																																																			
医療機関	2	2	2	2	2	2	2																																																																																																			
診療科	2	2	2	2	2	2	2																																																																																																			
延人員数	292	295	294	218	214	97	97																																																																																																			
			83		<p>③「ふじのくに地域医療支援センター」機能の一部である業務を受託、運営する。</p> <p>『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。</p> <p>（単位：名）</p> <table border="1"> <tr> <td>配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当分）</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td>勤務開始年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度</td> <td>2年度9月末</td> </tr> <tr> <td>配置調整医師数</td> <td>14</td> <td>34</td> <td>64</td> <td>64</td> <td>76</td> <td>108</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>うち県内勤務医師数</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>41</td> <td>39</td> <td>47</td> <td>69</td> <td>69</td> </tr> </table> <p>※配置調整は各前年度となる。</p>	配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当分）								勤務開始年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末	配置調整医師数	14	34	64	64	76	108	108	うち県内勤務医師数	10	22	41	39	47	69	69	<p>業務を受託し、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。</p>																																																																				
配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当分）																																																																																																										
勤務開始年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	2年度9月末																																																																																																			
配置調整医師数	14	34	64	64	76	108	108																																																																																																			
うち県内勤務医師数	10	22	41	39	47	69	69																																																																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																
						説明																																																					
			84	⑤専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	<p>(総合)</p> <p>令和2年4月、17名が専門研修プログラムに所属し、研修を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。</p> <p>(こころ)</p> <p>令和2年4月時点で、4名が専門研修プログラムに所属し、研修を行っている。令和3年度募集に向けて、専攻医募集のため病院紹介の動画を作成し、ホームページ掲載等を行うなど、広報活動を行った。また、6名の病院見学を受け入れるなど、専攻医確保に努めた。</p> <p>(こども)</p> <p>平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹施設として、新制度に則った研修を実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れが難しい状況となっている。</p>	<p>(総合)</p> <p>専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行った。</p> <p>(こころ)</p> <p>新専門医制度における専攻医研修プログラムを提供している。専攻医を確保し、県内の専門医育成に寄与している。</p> <p>(こども)</p> <p>小児科専攻医研修の基幹施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により十分受け入れられていないものの、今後も継続してプログラムの周知等を行い、専攻医の確保に努めている。</p>	<p>・新専門医制度の開始以降、各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備するとともに、院内外研修医・学生に向けたプログラム説明会の開催や、首都圏等のレジナビへの参加、PR動画の作成など、積極的なPR活動を通じて、専攻医の確保に努めている。</p> <p>・令和2年度は、総合病院は9プログラムの定員51人に対し20人の採用、こころの医療センターは1プログラムの定員6人に対し4人の採用、こども病院は1プログラムの定員8人に対し4人の採用となっており、いずれも定員には満たないものの、制度開始初年度以降、増加傾向である。</p> <p>・各病院の研修プログラムにおいては、充実した医療施設・設備のもと、専門医・指導医による指導体制を構築するとともに、他診療科とのチーム医療も研修できるよう配慮するなど、充実を図っている。</p> <p>・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、今後、シーリング(募集定員の上限)による地方への専攻医の分散等の影響も見据え、地域の連携病院との協力のもと、専攻医にとって魅力的な指導体制と研修プログラムを確保し、積極的な採用活動のもと、地域医療にも貢献する専攻医を安定的に確保できるよう努めることが期待される。</p>				○																																																
			85	⑥地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	<p>平成22年度から従来の紹介・逆紹介の方法に加えて、撮影のみ総合病院で行う共同利用方法をスタートさせている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">CT・MRI共同利用</th> <th colspan="6">(単位:件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>815</td> <td>919</td> <td>847</td> <td>896</td> <td>881</td> <td>325</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>645</td> <td>621</td> <td>543</td> <td>586</td> <td>595</td> <td>213</td> <td></td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>132</td> <td>129</td> <td>131</td> <td>24</td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	CT・MRI共同利用		(単位:件)						区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末		CT	815	919	847	896	881	325		MRI	645	621	543	586	595	213		CT(撮影のみ)	1	6	2	1	0	0		MRI(撮影のみ)	132	129	131	24	1	0		<p>共同利用件数はCT・MRIともに前年度と同程度になる見込みである。市内他病院の機器整備が進んだこともあり、利用数の大幅な伸びはなく、一定の水準で推移している。</p>	<p>・CT・MRIの共同利用件数は例年並みを見込んでおり、地域の医療機関との連携が着実に進んでおり、地域医療を支援する中心的機能を担う立場から、病連携・病診連携等の相互連携の推進に努めている。</p>				
CT・MRI共同利用		(単位:件)																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																					
CT	815	919	847	896	881	325																																																					
MRI	645	621	543	586	595	213																																																					
CT(撮影のみ)	1	6	2	1	0	0																																																					
MRI(撮影のみ)	132	129	131	24	1	0																																																					
			86	⑦ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	<p>地域医療連携推進事業費補助金を活用し、市立島田市民病院及び中東遠総合医療センターの機器の更新を進めた。</p> <p>また、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続き等の運用の見直しを行った。</p>	<p>令和2年度は、補助金を活用し、2病院の機器の更新を進めている。</p> <p>また、患者への参加同意取得等の手続き等の運用の見直しにより、開示の拡充及び病診連携への活用拡充等につながるよう取り組んでいる。</p>	<p>・県はふじのくにねっと支援のため、平成28年度からシステム整備費用を助成しており、令和元年度からは新たに、賀茂地域などの過疎地域等の病院から圏域をまたいだ基幹病院への救急患者搬送にふじのくにねっとを有効に活用する目的で、地域を限定し補助率を高上げた補助制度を導入した。</p> <p>・協議会事務局である総合病院においては、県内各医療圏の地域性や医療機関の特性に幅広く対応する当ネットワークの効果的な運用体制を引き続き確保するとともに、参画医療機関に対する適切な運用支援等が期待される。</p>																																																				
			87	⑧国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。	<p>小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター(IJN)との接続試験を兼ねた症例検討会を定期的に実施している。他医療機関と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施している。</p>	<p>国内外の医療機関と連携し、映像情報を通じたカンファレンスや診断を継続的に実施している。</p>	<p>・心エコー遠隔診断については、順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立病院を連携機関として実施しており、ICT技術を通じた、こどもの高度専門医療技術・知見の地域等への還元にも努めている。</p>																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																								
						説明																																																																																																													
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談の開催、ホームページの活用などを通じて県民への情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実を図る。	(3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	96	①県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>県民向け</td> <td>実施件数 67</td> <td>41</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>6621</td> <td>4967</td> <td>712</td> <td>524</td> <td>349</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>医療機関向け</td> <td>実施件数 13</td> <td>24</td> <td>27</td> <td>21</td> <td>27</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>県民向け</td> <td>実施件数 11</td> <td>21</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>28</td> <td>21</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>医療機関向け</td> <td>実施件数 2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>県民向け</td> <td>実施件数 2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>124</td> <td>116</td> <td>149</td> <td>196</td> <td>188</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>医療機関向け</td> <td>実施件数 23</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>向け</td> <td>参加者</td> <td>1,238</td> <td>906</td> <td>799</td> <td>698</td> <td>218</td> <td>-</td> <td>160</td> </tr> </tbody> </table> きこえとことばのセンター主催研修会等の開催件数 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>	病院	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	総合	県民向け	実施件数 67	41	10	6	9	10	参加者	6621	4967	712	524	349	-	医療機関向け	実施件数 13	24	27	21	27	27	こころ	県民向け	実施件数 11	21	2	2	2	2	参加者	9	6	8	28	21	-	医療機関向け	実施件数 2	3	5	3	8	5	こども	県民向け	実施件数 2	3	3	3	6	5	参加者	124	116	149	196	188	-	医療機関向け	実施件数 23	15	17	13	6	20			向け	参加者	1,238	906	799	698	218	-	160	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	件数	-	-	7	8	5	14	総合では、外部向け講座としてがん医療公開講座を開催した。また、きこえとことばのセンターでは難聴児の早期発見、早期介入を目的に、地域の医療従事者や行政担当者による研修会等を実施した。 こころでは、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から県民向けに行っているボランティア養成講座を中止した。医療機関向けについても、毎年、医療観察法初任者研修やNST勉強会を開催していたが今年度は中止している。 こども病院では、県民向け公開講座としてアレルギー教室を実施し、定員を超える応募があった。 公開講座の開催を通じて、県民、県内医療機関に対して、最新医療に関する情報提供を行っているが令和元年度末から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した講座等があり、今年度も目標を下回る見込みである。										
病院	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																												
総合	県民向け	実施件数 67	41	10	6	9	10																																																																																																												
	参加者	6621	4967	712	524	349	-																																																																																																												
	医療機関向け	実施件数 13	24	27	21	27	27																																																																																																												
こころ	県民向け	実施件数 11	21	2	2	2	2																																																																																																												
	参加者	9	6	8	28	21	-																																																																																																												
	医療機関向け	実施件数 2	3	5	3	8	5																																																																																																												
こども	県民向け	実施件数 2	3	3	3	6	5																																																																																																												
	参加者	124	116	149	196	188	-																																																																																																												
	医療機関向け	実施件数 23	15	17	13	6	20																																																																																																												
		向け	参加者	1,238	906	799	698	218	-	160																																																																																																									
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																													
件数	-	-	7	8	5	14																																																																																																													
	【目標値】 ・公開講座件数(総合、こころ、こども)	【目標値】 ・公開講座件数(総合、こころ、こども)	97	①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。	(総合) 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンホスピタルは開催中止とした。 オープンホスピタル来場者数 (単位: 人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>1,000</td> <td>1,200</td> <td>1,400</td> <td>1,200</td> <td>1,200</td> <td>未実施</td> </tr> </tbody> </table> (こども) 例年、(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」に参加し、健康相談及びこども用の医師・ナース服の着用体験のブースを出展しているが、令和2年度はコロナ禍の状況を鑑み不参加となった。 こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位: 組・人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康相談</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>10</td> <td>31</td> <td>未実施</td> </tr> <tr> <td>写真撮影</td> <td>859</td> <td>1,288</td> <td>957</td> <td>1,064</td> <td>792</td> <td>未実施</td> </tr> </tbody> </table> ※例年2日間開催されるが、令和元年度は台風の影響により、1日のみの開催	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	来場者数	1,000	1,200	1,400	1,200	1,200	未実施	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	健康相談	10	17	22	10	31	未実施	写真撮影	859	1,288	957	1,064	792	未実施	例年、オープンホスピタルの開催などにより、県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実につなげている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催を見送っている。																																																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																													
来場者数	1,000	1,200	1,400	1,200	1,200	未実施																																																																																																													
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																													
健康相談	10	17	22	10	31	未実施																																																																																																													
写真撮影	859	1,288	957	1,064	792	未実施																																																																																																													
			98	②県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	機構全体のトピックスやプレスリリース、各病院の感染症対策情報等を迅速に更新し、積極的に情報発信を行った。 セクション別アクセス件数 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>271,467</td> <td>214,412</td> <td>218,435</td> <td>226,519</td> <td>232,673</td> <td>139,283</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>1,935,315</td> <td>1,864,780</td> <td>2,017,729</td> <td>2,322,348</td> <td>2,902,755</td> <td>1,508,916</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>279,546</td> <td>269,084</td> <td>275,298</td> <td>376,258</td> <td>662,762</td> <td>357,209</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,519,362</td> <td>1,452,729</td> <td>1,551,263</td> <td>1,690,943</td> <td>1,772,069</td> <td>969,281</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,005,690</td> <td>3,801,005</td> <td>4,062,725</td> <td>4,616,068</td> <td>5,570,259</td> <td>2,974,689</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	本部	271,467	214,412	218,435	226,519	232,673	139,283	総合	1,935,315	1,864,780	2,017,729	2,322,348	2,902,755	1,508,916	こころ	279,546	269,084	275,298	376,258	662,762	357,209	こども	1,519,362	1,452,729	1,551,263	1,690,943	1,772,069	969,281	合計	4,005,690	3,801,005	4,062,725	4,616,068	5,570,259	2,974,689	総合病院の最新情報やトピックスの更新など、積極的にホームページの活用を図ることが出来た。引き続き積極的な情報発信に努める。 こころの医療センターでは、医師採用募集の動画を更新している。また、定期的な活動レポートの更新や来院者に向けた当院の感染症対応について、迅速かつ積極的な情報発信に努めている。																																																																			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																													
本部	271,467	214,412	218,435	226,519	232,673	139,283																																																																																																													
総合	1,935,315	1,864,780	2,017,729	2,322,348	2,902,755	1,508,916																																																																																																													
こころ	279,546	269,084	275,298	376,258	662,762	357,209																																																																																																													
こども	1,519,362	1,452,729	1,551,263	1,690,943	1,772,069	969,281																																																																																																													
合計	4,005,690	3,801,005	4,062,725	4,616,068	5,570,259	2,974,689																																																																																																													
			99	③県民に病院の運営にかかわる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。平成28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。 記者情報提供件数 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>41</td> <td>48</td> <td>47</td> <td>43</td> <td>36</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>掲載件数</td> <td>27</td> <td>31</td> <td>36</td> <td>30</td> <td>24</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> ※提供件数1件に対し、掲載件数が複数あった場合も掲載件数1件とカウントする	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	提供件数	41	48	47	43	36	8	掲載件数	27	31	36	30	24	7	県政記者クラブへの情報提供について、各病院の実績を共有ファイル管理するとともに標準化を行い、記者提供が正確に行われるようになった。提供件数は高い水準を保っているが、先端医学棟や北立体駐車場の建設などの大型建築物の設置が完了したことや、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント等を中止するなど前年度と比較して減少している。引き続き、継続して取り組みを強化していく。																																																																																								
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																																													
提供件数	41	48	47	43	36	8																																																																																																													
掲載件数	27	31	36	30	24	7																																																																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価	
						説明						
5 災害等における医療救護 県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担い、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。	5 災害等における医療救護 地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県内の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時においては静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	5 災害等における医療救護 県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(1) 医療救護活動の拠点機能 災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害対策指針に基づく新たな原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立こころの医療センターは災害時における精神的役割を果たすよう、日頃から備えること。	(1) 医療救護活動の拠点機能 日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外のDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携などを求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	(1) 医療救護活動の拠点機能 ①災害拠点病院(小児分野を含む)等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			100	①災害医療訓練を実施する。 ①災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発生時に迅速な対応ができるようにする。 ①【心】：災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。 ②【子】：小児医療における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【子】：小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	2年度9月末実績 令2.7.10 院内各セクションに対し、消火設備等の取組講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加) 令2.7.16 静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令2.8.17 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 インストラクター令和元年度派遣実績 ・医師：愛知県DPAT研修 ・コメ：静岡県DPAT研修、愛知県DPAT研修、大阪府DPAT先遣隊研修、DPAT統括者研修 防災訓練(避難訓練)2年度9月末実績 令2.7.16 県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加 令2.8.20 院内安全情報システムのリール伝達訓練実施 DPAT派遣 2年度9月末実績 実施なし	A	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、基幹災害拠点病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	28			○	
			102			S	従前より、災害時の拠点機能を担うため、県内6病院と災害時における自治体精神科病院の相互支援に関する協定を締結しているほか、行政機関(国、県等)が行う、EMISによる情報伝達や各種防災訓練に積極的に参加した。 災害発生時には、被災地へのDPAT派遣や県の要請に基づく支援等を実施する体制を整備しており、令和元年度には県外派遣や新型コロナウイルス感染症でクルーズ船支援者等のスクリーニング等を行った。 また、診療機能、一時的避難所やDPAT派遣機能などを有した、災害拠点精神科病院の指定を受けるための申請を令和2年4月に行い、令和2年度内の指定を目指している。指定されれば県内初の指定となる。		・総合病院は基幹災害拠点病院として、こころの医療センターは災害時における精神医療分野の拠点病院として、こども病院は災害時における小児の拠点病院として、災害医療訓練の実施、国・県等が実施する訓練への参加、災害対応マニュアルの整備等、県民の安全・安心を守る医療救護活動の拠点としての体制整備と取組の充実に努めている。 ・厚生労働省の通知に基づき、当県では、現在、災害拠点精神科病院の整備を進めている。災害拠点精神科病院には、広域搬送のための一時避難所としての役割、被災地域からの患者多数発生時の受入れや県庁(DPAT調整本部)との連携に係る役割が求められる。 ・こころの医療センターにおいては、県の保健医療計画上、災害精神医療の全域拠点機能であることや、DPAT先遣隊を配置していることなどが評価され、令和3年2月に災害拠点精神科病院の指定を受けている。 ・また、他県等における大規模災害に対しても、DMAT・DPAT派遣により、積極的に医療救護活動に協力している。令和2年度には、県の要請に基づき、東部地区の病院にDPATを派遣し、感染対策に係る活動を行うなど、災害対応の基幹的役割を果たしている。	28		☆
			103	①災害医療救護応援班の訓練を実施する。	2年度9月末実績 令2.7.16 静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)DMAT職員派遣なし 令2.9.1 静岡県総合防災訓練(実働訓練)DMAT職員派遣なし 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)中止 DMAT訓練回数 (単位：回) 区分 27年度 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度9月末 訓練 6 1 8 8 8 1	B	小児医療の拠点病院として、今後も継続して各種防災訓練を企画・実施していく。	28			○	
(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チーム・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	(2) 他県等の医療救護への協力 ①災害発生初期におけるDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			103				令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、政府や県が主催する訓練が中止となっているが、チーム内では適切に情報を伝達、共有するための準備を行っている。	28			○	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																					
						説明	説明																																																																																									
			106	⑦月次決算の集計等により、病院の経営状況の早期把握を図る。	<p>本部（経営）</p> <p>理事会等における月次決算の報告回数（単位：回）</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度9月末</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>-</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末		実績	実績	実績	実績	実績	実績	回数	-	9	6	6	6	3	A	<p>病院の経営状況の早期把握が可能となっている。</p> <p>・月次決算報告により経営状況の早期把握が可能な体制を確保している。 ・新型コロナウイルスの影響による経営悪化や診療報酬改定等、外的要因が病院経営に及ぼす影響を迅速・的確に把握し、分析結果を業務運営に反映することが重要である。</p>																																																																				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																										
	実績	実績	実績	実績	実績	実績																																																																																										
回数	-	9	6	6	6	3																																																																																										
			107	⑧毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑨機構の直近の経営状況を職員（特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員）に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。	<p>各病院（企画・経営）</p> <p>理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。</p> <p>職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。</p> <p>院内コミュニケーションシステムや職員報（トライアングル等）を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員向けに提供し、意識醸成を図っている。</p> <p>主に平成27年度から、上記取り組みを継続して行うことにより、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制の整備を図っている。</p>	A	<p>月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。</p> <p>また、会議や職員報を通じた経営分析結果の職員への周知、理事長、副理事長自らによる研修等により、職員の経営に対する意識啓発を図っている。</p> <p>・地方独立行政法人として機動的な柔軟な経営の実現に向けて、理事会・運営会議では毎月の月次決算報告と令和元年度実績との比較等を示して経営状況をチェックしているとともに、各職員の経営意識醸成のため、幹部職員を通じて各職員に対して経営情報を共有することで、各職員の経営意識の向上を図っている。</p>																																																																																									
			108	⑨院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	<p>各病院（企画）</p> <p>業務改善について、院内コミュニケーションシステムを利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。</p> <p>業務改善運動推進制度実績件数（単位：件）</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2目標</td> <td>2年度</td> <td>前年増減率</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>46</td> <td>43</td> <td>80</td> <td>72</td> <td>113</td> <td>80件以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>29</td> <td>24</td> <td>32</td> <td>26件以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>53</td> <td>71</td> <td>50</td> <td>34</td> <td>50</td> <td>71件以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>19件以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>144</td> <td>166</td> <td>178</td> <td>140</td> <td>203</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	前年増減率	総合	46	43	80	72	113	80件以上			こころ	34	36	29	24	32	26件以上			こども	53	71	50	34	50	71件以上			本部	11	16	19	10	8	19件以上			計	144	166	178	140	203	-			-	<p>令和2年度は、機構内において新型コロナウイルス感染症対策について様々な取組が取られている。このため、当該関連業務への顕著な取組の表彰を検討している。</p> <p>・「業務改善運動推進制度」は、各職員が業務改善に積極的に参加できるよう、平成28年度から院内コミュニケーションシステム内のデータベースで情報共有する仕組みとして、運用している。</p> <p>・上半期時点では実績件数を集計中ではあるが、毎年度、優良提案を院内・機構内で審査・表彰し、職員の業務改善に向けたモチベーションの維持・向上を図るとともに、表彰事案を県職員の庁内改善運動である「ひよりー改革運動」の年間表彰に推薦している。</p> <p>・優良事例の横展開が図られるとともに、設立団体である県職員にも病院機構の取組が周知・理解される機会となっている。</p>	29	1	-																																
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2目標	2年度	前年増減率																																																																																								
総合	46	43	80	72	113	80件以上																																																																																										
こころ	34	36	29	24	32	26件以上																																																																																										
こども	53	71	50	34	50	71件以上																																																																																										
本部	11	16	19	10	8	19件以上																																																																																										
計	144	166	178	140	203	-																																																																																										
			-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																					
2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	109	①階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など ②異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT (on-the-job training)をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③診療情報管理機能の強化	<p>本部（総務）</p> <p>事務職員に対する研修状況</p> <table border="1"> <tr> <th>受講時期</th> <th>研修名</th> <th>開催状況</th> </tr> <tr> <td>新採年度</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>7、8月 2日間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">係長級昇任時</td> <td>新任役付職員研修</td> <td>7月 1日間</td> </tr> <tr> <td>新任監督者研修</td> <td>7月 1日間</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">管理者</td> <td>労務管理者研修</td> <td>6月 2時間</td> </tr> <tr> <td>コーチング研修</td> <td>9月 1日間</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション研修</td> <td>7月 1日間</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">希望により任意参加</td> <td>ファンタジー研修</td> <td>11月 1日間</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート研修</td> <td>12月 半日</td> </tr> <tr> <td>事務職員基礎研修</td> <td>4月 0.5時間</td> </tr> <tr> <td>会計講座</td> <td>10月 2.5時間</td> </tr> <tr> <td>内部統制講座</td> <td>11月 2.5時間</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>110</td> <td>③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。</td> <td> <p>各病院（総務）</p> <p>診療情報管理士資格取得状況（単位：人）</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度9月末</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> </table> <p>※ 専門課程修了者、資格試験受験者も有する者</p> </td> <td>A</td> <td> <p>階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。</p> <p>・事務職員の定期的な必修研修以外にも、直接的な実務能力の向上に向けて、会計研修（基礎・中級）、未収金回収研修等を実施するなど、事務部門の専門性の向上に努めている。</p> <p>・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、通信教育の団体割引や診療情報管理士資格取得に向けた貸付制度を設けるなど、自己啓発支援を行っている。</p> <p>・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、診療報酬の適正算定に寄与する診療情報管理士資格取得者の育成と効果的な配置に努めている。</p> </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	受講時期	研修名	開催状況	新採年度	新規採用職員研修	7、8月 2日間	係長級昇任時	新任役付職員研修	7月 1日間	新任監督者研修	7月 1日間	管理者	労務管理者研修	6月 2時間	コーチング研修	9月 1日間	コミュニケーション研修	7月 1日間	希望により任意参加	ファンタジー研修	11月 1日間	メンタルサポート研修	12月 半日	事務職員基礎研修	4月 0.5時間	会計講座	10月 2.5時間	内部統制講座	11月 2.5時間													110	③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	<p>各病院（総務）</p> <p>診療情報管理士資格取得状況（単位：人）</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度9月末</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> </table> <p>※ 専門課程修了者、資格試験受験者も有する者</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	総合	6	13	5	11	6	10	こころ	1	1	1	1	2	1	こども	2	4	3	4	3	4	本部	1	1	2	1	2	0	計	10	18	11	17	12	13	A	<p>階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。</p> <p>・事務職員の定期的な必修研修以外にも、直接的な実務能力の向上に向けて、会計研修（基礎・中級）、未収金回収研修等を実施するなど、事務部門の専門性の向上に努めている。</p> <p>・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、通信教育の団体割引や診療情報管理士資格取得に向けた貸付制度を設けるなど、自己啓発支援を行っている。</p> <p>・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、診療報酬の適正算定に寄与する診療情報管理士資格取得者の育成と効果的な配置に努めている。</p>			
受講時期	研修名	開催状況																																																																																														
新採年度	新規採用職員研修	7、8月 2日間																																																																																														
係長級昇任時	新任役付職員研修	7月 1日間																																																																																														
	新任監督者研修	7月 1日間																																																																																														
管理者	労務管理者研修	6月 2時間																																																																																														
	コーチング研修	9月 1日間																																																																																														
	コミュニケーション研修	7月 1日間																																																																																														
希望により任意参加	ファンタジー研修	11月 1日間																																																																																														
	メンタルサポート研修	12月 半日																																																																																														
	事務職員基礎研修	4月 0.5時間																																																																																														
	会計講座	10月 2.5時間																																																																																														
	内部統制講座	11月 2.5時間																																																																																														
			110	③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	<p>各病院（総務）</p> <p>診療情報管理士資格取得状況（単位：人）</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度9月末</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> </table> <p>※ 専門課程修了者、資格試験受験者も有する者</p>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	総合	6	13	5	11	6	10	こころ	1	1	1	1	2	1	こども	2	4	3	4	3	4	本部	1	1	2	1	2	0	計	10	18	11	17	12	13	A	<p>階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。</p> <p>・事務職員の定期的な必修研修以外にも、直接的な実務能力の向上に向けて、会計研修（基礎・中級）、未収金回収研修等を実施するなど、事務部門の専門性の向上に努めている。</p> <p>・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、通信教育の団体割引や診療情報管理士資格取得に向けた貸付制度を設けるなど、自己啓発支援を行っている。</p> <p>・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、診療報酬の適正算定に寄与する診療情報管理士資格取得者の育成と効果的な配置に努めている。</p>																																															
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																																																																										
総合	6	13	5	11	6	10																																																																																										
こころ	1	1	1	1	2	1																																																																																										
こども	2	4	3	4	3	4																																																																																										
本部	1	1	2	1	2	0																																																																																										
計	10	18	11	17	12	13																																																																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																																										
						説明	県評価																																													
3 収益の確保と費用の削減 新たな診療報酬の取得可能性やDPCの係数的向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図ること。また、診療報酬請求漏れの防止や未収金の発生防止及び早期回収に努めること。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組むこと。	3 収益の確保と費用の削減 診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図る。また、様々な診療報酬の取得可能性やDPCの係数的向上等について積極的な検討を行うほか、診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止や早期回収に努める。費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組む。	3 収益の確保と費用の削減 ①平均在院日数の短縮に向けた取り組み ②医薬品、診療材料の適正かつ計画的な購入 ③診療報酬など収入の適正な確保 ④業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ⑤未収金対策の実施	111	①平均在院日数の短縮に向け、DPC入院期間Ⅱ以内での退院を促進する。 【こども】①長期入院患者の退院促進に取り組む。	<table border="1"> <caption>DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>63.3</td> <td>62.0</td> <td>61.2</td> <td>62.0</td> <td>64.1</td> <td>64.3</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>57.9</td> <td>61.5</td> <td>59.9</td> <td>67.0</td> <td>67.8</td> <td>65.5</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>長期入院患者率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども</td> <td>41.8</td> <td>37.2</td> <td>40.7</td> <td>38.9</td> <td>37.5</td> <td>39.6</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	総合	63.3	62.0	61.2	62.0	64.1	64.3	こども	57.9	61.5	59.9	67.0	67.8	65.5	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	こども	41.8	37.2	40.7	38.9	37.5	39.6	各病院 (医事)	(総合) DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合を高めるため、各診療科に対して上位5疾患をリストアップし、入院期間Ⅱ以内の退院について協力を求めるとともに、クリニカルパス見直し等の取組を行った。 (こども) 毎月、退院促進委員会を開催し、ACT対象者の選定や地域移行の受入れ施設の状況確認等を行い、長期入院患者の退院促進に取り組んでいる。 (こども) DPC部会を開催し、状況確認や課題の解決について取り組んでいる。										
				区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																										
				総合	63.3	62.0	61.2	62.0	64.1	64.3																																										
				こども	57.9	61.5	59.9	67.0	67.8	65.5																																										
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																														
こども	41.8	37.2	40.7	38.9	37.5	39.6																																														
②診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。	<table border="1"> <caption>2年度9月末 破棄・破損額 (単位：千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>診療材料費</th> <th>薬品費</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>1,802</td> <td>1,726</td> <td>3,528</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>15</td> <td>60</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,232</td> <td>689</td> <td>1,921</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,049</td> <td>2,475</td> <td>5,524</td> </tr> </tbody> </table>	区分	診療材料費	薬品費	合計	総合	1,802	1,726	3,528	こども	15	60	75	こども	1,232	689	1,921	合計	3,049	2,475	5,524	各病院 (企画)	(総合) 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインデントレポートの提出を義務化した。また、委員会において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めた。 (こども) 診療材料については、使用期限切れの中で数量の多いものに関して医療部や看護部に相談し、必要性を審議している。必要性があり代用できるものであれば次回から既採用品目を使用することにした。 (こども) 各部署と金額等の情報共有を徹底し、在庫管理に努めた。今後も委員会などで破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理を周知していく。																													
区分	診療材料費	薬品費	合計																																																	
総合	1,802	1,726	3,528																																																	
こども	15	60	75																																																	
こども	1,232	689	1,921																																																	
合計	3,049	2,475	5,524																																																	
③積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。	(総合) 医師の働き方改革を推進し、地域医療体制確保加算の届出を行った。 薬剤師の配置を見直し、病棟薬剤業務実施加算の届出を行った。 新たに保険適用となった遺伝子検査について届出を行った。 ダ・ヴィンチを初めとする先進的な医療についても届出の準備を進める。 診療報酬に係る研修は新型コロナウイルス感染症の影響により開催できていないが、医局会や院内連絡会におけるDPC情報の提供や全医師に対する保険診療の手引きの配布等の対応を行った。 (こども) 各診療科が協力して傷病名のつけ方を検討し、診療点数を上げる取組を行っている。	各病院	施設基準の新規及びブラックアップの届出を積極的に行い、診療単価が向上した。 研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識を高めるよう努めている。																																																	
④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫減少に努める。	薬品、診療材料期限切れ廃棄額 (単位：千円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>1,873</td> <td>2,127</td> <td>2,832</td> <td>2,931</td> <td>2,279</td> <td>1,495</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>2,192</td> <td>1,615</td> <td>675</td> <td>969</td> <td>973</td> <td>297</td> </tr> </tbody> </table> 薬品・診療材料在庫額 (単位：千円)	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	薬品	1,873	2,127	2,832	2,931	2,279	1,495	診療材料	2,192	1,615	675	969	973	297	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>114,860</td> <td>101,066</td> <td>102,777</td> <td>92,244</td> <td>136,694</td> <td>166,015</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>179,513</td> <td>191,861</td> <td>216,079</td> <td>224,292</td> <td>221,511</td> <td>206,358</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末	薬品	114,860	101,066	102,777	92,244	136,694	166,015	診療材料	179,513	191,861	216,079	224,292	221,511	206,358	総合	薬品及び診療材料について、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、多くのロスを防ぐなどSPD業務の改善を図った。 薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫減少に努めた。 診療材料は、手術室において期限切迫品カードを設置し、使用を促した。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案を行う等、在庫の削減に努めた。					
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																														
薬品	1,873	2,127	2,832	2,931	2,279	1,495																																														
診療材料	2,192	1,615	675	969	973	297																																														
区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度9月末																																														
薬品	114,860	101,066	102,777	92,244	136,694	166,015																																														
診療材料	179,513	191,861	216,079	224,292	221,511	206,358																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績	令和2年度実績 自己評価		重点	数値	評価																																																																																																																																			
						説明	県評価																																																																																																																																						
			115	④材料費等の節減のための対策を実施する。	<p>診療材料コスト削減実績 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> <th>2年度9月末</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>68,499</td> <td>34,307</td> <td>27,923</td> <td>85,869</td> <td>82,971</td> <td>38,715</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>641</td> <td>107</td> <td>446</td> <td>95</td> <td>13</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>6,707</td> <td>8,320</td> <td>6,182</td> <td>15,458</td> <td>16,734</td> <td>6,994</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>75,847</td> <td>42,734</td> <td>34,551</td> <td>101,422</td> <td>99,718</td> <td>45,709</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2年度9月末 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">診療材料品目数</th> <th colspan="4">薬品品目数</th> </tr> <tr> <th>2年度当初</th> <th>新規採用数</th> <th>廃止数</th> <th>契約数 (a+b-c)</th> <th>2年度当初</th> <th>新規採用数</th> <th>廃止数</th> <th>契約数 (a+b-c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>17,110</td> <td>850</td> <td>35</td> <td>17,925</td> <td>1,640</td> <td>28</td> <td>19</td> <td>1,649</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>420</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>421</td> <td>655</td> <td>37</td> <td>71</td> <td>621</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,023</td> <td>125</td> <td>39</td> <td>4,109</td> <td>1,317</td> <td>33</td> <td>16</td> <td>1,334</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>21,553</td> <td>976</td> <td>74</td> <td>22,455</td> <td>3,612</td> <td>98</td> <td>106</td> <td>3,604</td> </tr> </tbody> </table> <p>2年度9月末 薬品 後発品採用率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>29年度実績</th> <th>30年度実績</th> <th>元年度実績</th> <th>2年度9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>24.7</td> <td>26.0</td> <td>27.3</td> <td>27.3</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>31.3</td> <td>34.4</td> <td>36.9</td> <td>39.1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>21.6</td> <td>22.3</td> <td>22.4</td> <td>22.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度		29年度		30年度		元年度		2年度9月末	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	総合	68,499	34,307	27,923	85,869	82,971	38,715			こころ	641	107	446	95	13	0			こども	6,707	8,320	6,182	15,458	16,734	6,994			合計	75,847	42,734	34,551	101,422	99,718	45,709			区分	診療材料品目数				薬品品目数				2年度当初	新規採用数	廃止数	契約数 (a+b-c)	2年度当初	新規採用数	廃止数	契約数 (a+b-c)	総合	17,110	850	35	17,925	1,640	28	19	1,649	こころ	420	1	0	421	655	37	71	621	こども	4,023	125	39	4,109	1,317	33	16	1,334	合計	21,553	976	74	22,455	3,612	98	106	3,604	区分	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度9月末	総合	24.7	26.0	27.3	27.3	こころ	31.3	34.4	36.9	39.1	こども	21.6	22.3	22.4	22.4	<p>(総合) 薬品については、競合する薬を引き合いに出した交渉により大幅な値引を実現したほか、入院使用分はDPC包括となるため、後発品への切り替えを積極的に進めた。診療材料については、令和2年度は価格交渉により約1,300万円削減した。また共同購入の成果により約2,400万円還元となった。ベンチマークのデータによれば、当院は他施設よりも安価で購入している品目が増加しており、今後価格交渉による大きなコスト削減は厳しい状況である。 (こころ) 引き続き3病院間で薬品の譲受や譲渡を行い、期限切れを防いで有効利用した。 入院患者の持参薬についても3病院間の採用薬に切り替えることにより、退院後の不良在庫を減らした。結果として、H31.4月～R2.9月の1年半で持参薬の品目数を131品目→89品目(うち不動態在庫44品目→19品目)、在庫金額は約70万円→約40万円に削減できた。 (こども) 小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認した上で行うべき内容であるが、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病院の採用状況を参考にしながら代替候補品目を選定し、後発薬品への切り替えを行っている。また、診療材料は、令和元年から引き続き共同購入の取組開始しており、一層の価格削減を進めている。</p>	<p>・材料費の節減については、「トップダウン」としての診療材料採用の「一増、一減」方針の徹底、「ミドルマネジメント」としての診療材料委員会と中央材料室の機能向上、「ボトムアップ」としての全国的なベンチマークデータを活用した価格交渉など、一貫した節減努力の方向性のもとに取り組んでいる。 ・総合病院では、平成29年度に共同購入組織(一般社団法人日本ホスピタルライアンス)に加盟し、令和2年度は約2,400万円の材料費節減成果をあげており、こども病院においても令和元年度に共同購入組織に加盟し、節減に努めている。 ・こころの医療センターにおいても、入院患者の持参薬を3病院間の採用薬に切り替える取組を行うことで、不良在庫の削減に取り組んでいる。 ・診療報酬改定等の外的要因が病院経営に及ぼす影響を迅速・的確に把握し、分析結果を業務運営に反映することが重要である。</p>							
区分	27年度		29年度		30年度		元年度		2年度9月末																																																																																																																																				
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績																																																																																																																																					
総合	68,499	34,307	27,923	85,869	82,971	38,715																																																																																																																																							
こころ	641	107	446	95	13	0																																																																																																																																							
こども	6,707	8,320	6,182	15,458	16,734	6,994																																																																																																																																							
合計	75,847	42,734	34,551	101,422	99,718	45,709																																																																																																																																							
区分	診療材料品目数				薬品品目数																																																																																																																																								
	2年度当初	新規採用数	廃止数	契約数 (a+b-c)	2年度当初	新規採用数	廃止数	契約数 (a+b-c)																																																																																																																																					
総合	17,110	850	35	17,925	1,640	28	19	1,649																																																																																																																																					
こころ	420	1	0	421	655	37	71	621																																																																																																																																					
こども	4,023	125	39	4,109	1,317	33	16	1,334																																																																																																																																					
合計	21,553	976	74	22,455	3,612	98	106	3,604																																																																																																																																					
区分	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度9月末																																																																																																																																									
総合	24.7	26.0	27.3	27.3																																																																																																																																									
こころ	31.3	34.4	36.9	39.1																																																																																																																																									
こども	21.6	22.3	22.4	22.4																																																																																																																																									
			116	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	<p>各病院において、徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めた。 価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行った。 機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。 価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や不要になった保守機器の随時の見直しを行いコスト低減を図っている。</p>	<p>令和2年6月に購入した超音波診断装置は、ベンチマークシステムによる価格調査に加え、2メーカーによる入札を実施した結果、定価224,220千円のところ、13,000千円(▲211,220千円)で契約することができた。また、複数の診療科で使用する超音波診断装置は、診療科間で共同利用する運用に改めた。 3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約をすることで令和2年度は約89万円削減している。引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。</p>	<p>・医療機器導入にあたっては、業者間・機種間の競争性を確保するとともに、ベンチマークの活用、保守契約の見直し等により、効率的な調達を図っている。 ・超音波診断装置など複数科で使用する装置について一覧表を作成し、臨床工学士や検査技師等、医療機器を熟知する職員が介入して効率的に運用しているほか、人口呼吸器等の保守業務の一部を臨床工学士による内製に切り替えるなど、コスト削減に向けた工夫が継続されている。</p>																																																																																																																																						

